取扱説明書

お取り扱いについてお困りのとき

http://pioneer.jp/support/

カスタマーサポートセンター

フリーコール **0120-944-222**

一般電話 **03-5496-2986**

受付時間

月曜～金曜
9:30～18:00
土曜·日曜·祝日
9:30～12:00、13:00～17:00

(弊社休業日を除きます。)

※ フリーコールは、携帯電話·PHSからはご利用になれません。一般電話は、携帯電話·PHSからご利用可能ですが、通話料がかかります。

SC-LX82
SC-LX72

AVマルチチャンネルアンプ

安全上のご注意

●安全にお使いいただくために、必ずお守りください。
●ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

⃠ 記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

● 記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

⚠ 警告

異常時の処置

● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置

● 電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

● 放熱をよくするため他の機器、壁等から間隔をとり、またラックに入れる時はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
→あおむけや横倒し、逆さまにする。
→押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
→じゅうたんやふとんの上に置く。
テーブルクロスなどをかける。

● 付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

● 本機の上に火がついたろうそくなどの裸火を置かないでください。火災の原因となります。

使用環境

● この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

● 風呂場・シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 表示された電源電圧（交流100ボルト 50 Hz/60 Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

- ぬれた手で（電源）プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

- 本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、販売店に交換をご依頼ください。

- 雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

- 製品に付属の電源コンセントには、そのパネルおよび取扱説明書に表示された容量を超える消費電力を持つ電気機器を接続しないでください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアードライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また表示してある電力以内であっても、電源を入れた時に大電流の流れる機器などは接続しないでください。

⚠注意

設置

- 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

- 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

- ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

- 本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

- 本機の電源が入っている状態で本機の底面に触れないでください。電源が入っている状態の本機底面は熱くなり、火傷の原因となることがあります。

- 本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

- 本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。（取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。）

異常時の処置

- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

- 本機の上にテレビやオーディオ機器をのせたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは2人以上で行ってください。

- 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

準備

使用方法

● 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

● 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、壊れたりしてけがの原因になることがあります。

● ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

● 旅行などで長期間ご使用にならない時は安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電池

● 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災･けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

● 電池を機器内に挿入する場合、極性表示(プラス(＋)マイナス(－)の向き)に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災･けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

● 長時間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液が漏れて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また万一、漏れた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

● 電池は加熱したり分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となることがあります。

保守・点検

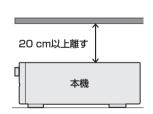
● 5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお掃除費用については販売店などにご相談ください。

● お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

本機の使用環境温度範囲は5 ℃～35 ℃、使用環境湿度は85 %以下(通風孔が妨げられていないこと)です。
風通しの悪い所や湿度が高すぎる場所、直射日光(または人工の強い光)の当たる場所に設置しないでください。
D3-4-2-1-7c_Ja

設置について

警 告

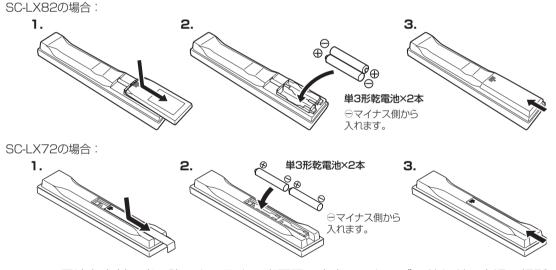
• 放熱のため、本機の上に物を置いたり、布やシートなどをかぶせた状態でのご使用は絶対におやめください。異常発熱により故障の原因となる場合があります。
• ラックなどに設置する場合は、上部に20 cm 以上空間をあけてください。

注意

● 本機を設置する場合には、壁から 10 cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。ラックなどに入れるときには、本機の天面から 20 cm以上、背面から 10 cm以上、側面から 20 cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

付属品を確認する

リモコンに電池を入れる

SC-LX82の場合：

SC-LX72の場合：

電池を直射日光の強いところや、炎天下の車内・ストーブの前などの高温の場所で使用・放置しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂、発火の原因になります。また、電池の性能や寿命が低下することがあります。

電池を誤って使用すると、液漏れしたり破裂したりする危険性があります。以下の点について特にご注意ください。

- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池のプラスとマイナスの向きを電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 乾電池には同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間（1 カ月以上）リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐため、乾電池を取り出してください。液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

目　次

目　次

応用操作　85

リモコン（SC-LX82）　96

リモコン（SC-LX72）　105

応用設定　114

目　次

本機の特長

高音質・多機能な本機SC-LX82およびSC-LX72の主な特長をまとめました。「本書の掲載ページ」に進むと、それぞれの機能や操作を楽しんでいただけます。

本書の掲載ページ

1 ダイレクトエナジー HDアンプ搭載

パイオニアとICEpower社とのコラボレーションにより、独自のリファレンスクラスDアンプ「ダイレクトエナジーHD（High fidelity class D)アンプ」を共同開発。ハイパワー（770 W（SC-LX82）／700 W（SC-LX72)同時出力)と高音質を実現。最新のマルチチャンネルデジタルコンテンツを理想的に再生します。

2 アドバンスドMCACC を搭載

MCACCでは実際の製作現場で行われる高精度な調整を家庭でも実現できるように自動化し、チャンネル間の空間情報の歪みを補正。正確なマルチチャンネルの音場を再現します。

P.43
「スピーカーの自動設定を行う～フルオート MCACC ～」
P.125
「部屋の残響特性の測定と残響を考慮した補正（EQ プロフェッショナル)」

3 Full Band Phase Control 機能

従来のPhase Controlによる正確な低域成分の再生に加え、スピーカーで発生する帯域間での位相のずれ(群遅延)を補正し、スピーカー全帯域(フルバンド)における正確な再生を実現します。

P.63
「位相乱れを補正する」

4 高音質を追求した低ジッター設計

HDMI接続によるLPCMマルチチャンネル音声のジッターレス伝送「PQLSマルチサラウンド」を実現(PQLS対応機器接続時)。CDのみならず、BDやDVDの映像を伴った音声においてもクオリティを損なうことなく高純度な再生を可能にします。さらに他の入力信号再生においても「SRC」（SC-LX82のみ)と高精度PLLを用いた「ジッターリダクション回路」を搭載。クロックジッターを低減し、高音質化を追求しています。

P.87
「PQLS の設定を行う」
P.67
「SRC（サンプリング レートコンバーター）について」

5 HOME MEDIA GALLERY を搭載

LAN端子でネットワークに接続されたパソコンに保存されている音楽ファイルを再生することができます。また、インターネットラジオ放送を受信することもできます。

P.71
ホームメディアギャラリーについて

6 HDMI（ロスレスサラウンドフォーマット対応）

ドルビー TrueHDやDTS-HD Master Audioなどのロスレスデジタル音声フォーマットに対応。また、高画質規格のDeep Color出力やx.v.Colorの伝送も可能。KURO LINK機能も搭載し、HDMI機器との連動動作も実現。

P.28
「HDMI で接続する」
P.142
「デジタル音声フォーマットについて」
P.85
「KURO LINK 機能で HDMI 機器を連動動作させる」

本機の特長

本書の掲載ページ

7 iPodやUSBに収録された曲を再生

iPodやiPhoneの音楽/ビデオファイルを再生することができます。また、USBメモリーに保存されている音楽を再生したり、写真をスライドショー再生することができます。

P.50
「iPod をつないで再生する」

P.52
「USB メモリーを再生する」

8 OPTIMUM SURROUND機能

OPTIMUM SURROUNDモードでは、ホームシアター環境のように、サウンドクリエーターが制作時に想定した音量よりも小さい音量で再生する場合でも、想定した音量で再生したときと同じ印象が得られるように、シーン毎に音声を最適化します。

P.55
「リスニングモードでいろいろな音を楽しむ」

9 その他の主な特長

- Air Studiosとの共同音質チューニング
- THX Ultra2 Plus（SC-LX82）／THX Select2 Plus（SC-LX72)の認証を取得
- 「ビデオスケーラー」、「I/P変換」、「デジタルビデオコンバーター」搭載で高画質映像の再生環境を実現
- 学習機能付き多機能リモコンを付属
- 省エネルギー設計（待機時0.6 W）
- ひと目でわかるGUI 画面

P.142
「デジタル音声フォーマットについて」

P.27
「映像の接続について（パイオニアビデオコンバーター）」

- "x.v.Color"および は、ソニー株式会社の商標です。

パイオニアの設計思想：アドバンスド・マルチチャンネル・ステレオフォニック思想

「原音再生とは、サウンドクリエーターの思い(soul)も伝えること」
という私たちの思想を実現するため、以下の3ステップをお約束します。
ステップ1）妥協を排した高音質設計
ステップ2）視聴環境の精密調整機能（Advanced MCACC)の搭載
ステップ3）原音製作者（エアースタジオ技術者）による音質チューニング
この思想は、映画制作のスタンダードであるルーカスフィルム社（ハリウッド）や、音楽レコーディング業界の最高峰エアースタジオ社（ロンドン）といった、実際の制作現場の技術者への徹底的なヒアリングにより構築されました。

本機の設定の流れ

本機は上級アンプに匹敵する機能や端子を装備した、本格的AVアンプですが、以下の手順で設定をするだけで、簡単にホームシアターを楽しむことができます。

手順の色は、以下の意味を表しています。

必ず行う手順

必要に応じて行う手順

1 準備する
- 付属品を確認する（→5ページ）
- リモコンに電池を入れる（→5ページ）

2 スピーカーの配置/使用パターンを選ぶ（→20ページ）
- ノーマルサラウンド接続
- 5.1chサラウンド & バイアンプ接続
- 5.1chサラウンド & ゾーン2接続
- 5.1chサラウンド & スピーカーB接続

3 スピーカーを接続する
- スピーカーを接続する（→23ページ）
- 一般的な接続（→24ページ）
- バイアンプ接続（→25ページ）

4 機器を接続する
- 端子の割り当てについて（→26ページ）
- 音声の接続について（→26ページ）
- 映像の接続について（パイオニアビデオコンバーター）（→27ページ）
- テレビと再生機器の接続（→28ページ）
- マルチゾーン接続（→36ページ）
- 電源コードの接続（→42ページ）

5 電源を入れる

6 サラウンドバックスピーカーの設定（→132ページ）

7 スピーカーの自動設定を行う（→43ページ）

8 入力端子の設定（→47ページ）

（推奨以外の方法で機器の接続を行っている場合のみ）

9 HDMI出力端子の設定（→95ページ）

10 再生する（→48ページ）

11 お好みで音声や映像の設定をする
- リスニングモードでいろいろな音を楽しむ（→55ページ）
- いろいろな状況ごとに最適な音場補正の設定を選択する（→62ページ）
- サラウンドバックch処理を切り換える（→59ページ）
- スピーカー出力レベルを調整する（→61ページ）
- 位相乱れを補正する（Phase Control/Full Band Phase Control）（→63ページ）
- EQタイプを選んで測定する（SYMMETRY、ALL CH ADJ、FRONT ALIGN）（→117ページ）
- オーディオ調整機能を使う（→65ページ）（ダイアログエンハンスメント機能やサウンドレトリバー機能など）
- ビデオ調整機能を使う（→69ページ）

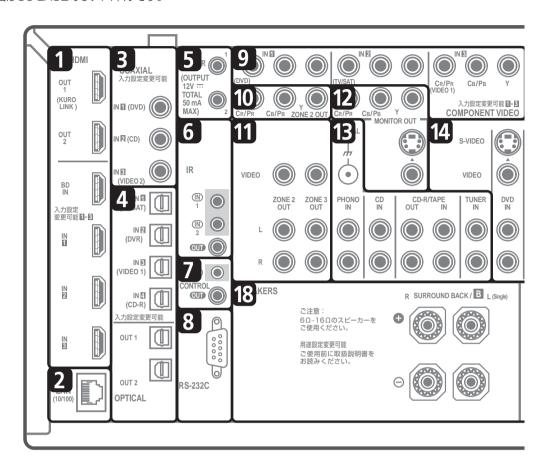
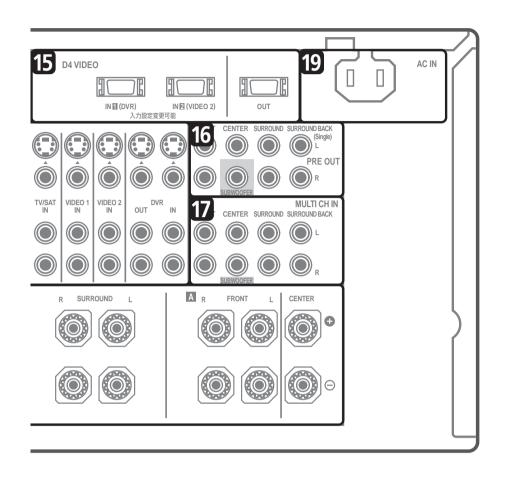
12 そのほかの調整や設定
- KURO LINK設定（→86ページ）
- PQLS設定（→87ページ）
- アドバンスドMCACC（→117ページ）
- スピーカーとシステムの設定（→132ページ）

13 リモコンを使いこなす

SC-LX82の場合：
- 複数のアンプを操作する（→96ページ）
- 他の機器を操作する（→103ページ）

SC-LX72の場合：
- 複数のアンプを操作する（→105ページ）
- 他の機器を操作する（→112ページ）

リアパネル

図はSC-LX82のリアパネルです。

1. HDMI入出力端子(→28 ～ 31ページ)
2. LAN(10/100)端子(→74ページ)
3. 同軸デジタル音声入力端子(→30 ～ 33ページ)
   端子に表示された機器と違う機器を接続するときはデジタル音声入力の設定が必要です。(→47ページ)
   SC-LX82：
   COAXIAL IN端子を3つ搭載しています。
   SC-LX72：
   COAXIAL IN端子を2つ搭載しています。
4. 光デジタル音声入出力端子(→28 ～ 33ページ)
   端子に表示された機器と違う機器を接続するときはデジタル音声入力の設定が必要です。(→47ページ)
5. 12 Vトリガー端子(→39ページ)
6. マルチゾーン用IR入出力端子(→38ページ)
7. コントロール入出力端子(→39ページ)
8. RS-232C端子(→40ページ)
   パソコンと接続するための端子です。
9. コンポーネントビデオ入出力端子(→30 ～ 31ページ)
   端子に表示された機器と違う機器を接続するときはコンポーネント/D4入力端子の設定が必要です。(→47ページ)
10. SC-LX82のみ：マルチゾーンコンポーネントビデオ出力端子(→36ページ)
11. マルチゾーン映像／音声出力端子(→36 ～ 37ページ)
12. モニター出力端子(→31ページ)
13. アナログ音声入出力端子(→35ページ)

14. アナログ音声入出力/ビデオ入出力端子(→28 ～ 33ページ)

15. D4ビデオ入出力端子(→30 ～ 31ページ)
 端子に表示された機器と違う機器を接続するときはコンポーネント/D4入力の設定が必要です。(→47ページ)

16. プリアウト端子(→24、38ページ)

17. マルチチャンネル入力端子(→34ページ)

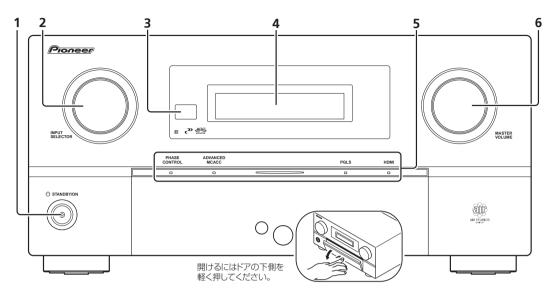
18. スピーカー端子(→23 ～ 25ページ)
 スピーカーインピーダンス6 Ω～ 16 Ωのスピーカーを使用できます。

19. AC IN端子(→42ページ)
 必ず一番最後に接続してください。

⚠ 注 意

製品の仕様により、本体部やリモコン(付属の場合)のスイッチを操作することで表示部がすべて消えた状態となり、電源プラグをコンセントから抜いた状態と変わらなく見える場合がありますが、電源の供給は停止していません。製品を電源から完全に遮断するためには、電源プラグ(遮断装置)をコンセントから抜く必要があります。製品はコンセントの近くで、電源プラグ(遮断装置)に容易に手が届くように設置し、旅行などで長期間ご使用にならないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

・「電源について」(→42ページ)もご覧ください。

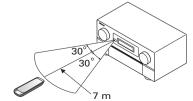
フロントパネル

1. ⏻STANDBY/ON
   本機の電源を入／切(スタンバイ)にします。
   電源をオンにすると、ボタン中央のインジケーターが点灯します。ただし、電源がスタンバイのときも、KURO LINK機能をONに設定している場合はインジケーターが点灯することがあります。(→85ページ)
2. INPUT SELECTORダイヤル
   本機の入力を切り換えます。
3. リモコン受光部
   「リモコンの操作範囲」を参照してください。(→下記)
4. 表示部(フロントパネルディスプレイ)
   (→16ページ)
5. PHASE CONTROLインジケーター
   Phase ControlまたはFull Band Phase ControlモードをONに設定しているときに点灯します。(→63 ページ)

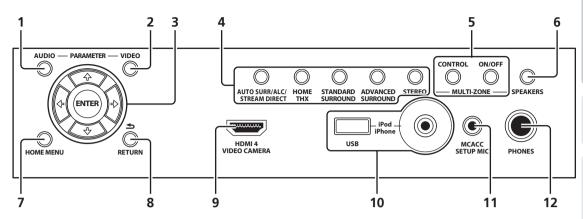
   ADVANCED MCACCインジケーター
   オーディオ調整機能で､｢EQ｣(周波数特性の補正)をオンにしているときに点灯します。(→65ページ)

   PQLSインジケーター
   PQLS機能が働いているときに点灯します。(→87ページ)

   HDMIインジケーター
   HDMI対応機器と接続処理中に点滅し、接続が完了すると点灯します。(→29ページ)
6. MASTER VOLUMEダイヤル
   音量を調節します。

リモコンの操作範囲

本機をリモコンで操作するときは、リモコンをフロントパネルのリモコン信号受光部に向けてください。

- リモコンと本機との間に障害物があったり、リモコン受光部との角度が悪いと操作ができない場合があります。
- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると誤動作することがあります。
- 赤外線を出す機器の近くで本機を使用したり、赤外線を利用した他のリモコン装置を使用したりすると、本機が誤動作することがあります。逆にこのリモコンを操作すると、他の機器を誤動作させることもあります。

フロントパネルドア内部

1. AUDIO PARAMETERボタン
   オーディオ調整機能の設定になります。(→65ページ)
2. VIDEO PARAMETERボタン
   ビデオ調整機能の設定になります。(→69ページ)
3. ⇧⇩⇦⇨/ENTERボタン
   オーディオ調整機能やビデオ調整機能、ホームメニューの操作を行います。
4. リスニングモードボタン(→55ページ)

   AUTO SURR/ALC/STREAM DIRECT
   オートサラウンド再生、ALC（オートレベルコントロール)、OPTIMUM SURROUNDおよびダイレクト再生を切り換えます。

   HOME THX
   THXの各モードを切り換えます。

   STANDARD SURROUND
   ドルビープロロジックⅡxやNeo:6のモードを切り換えます。

   ADVANCED SURROUND
   アドバンスドサラウンドモードを切り換えます。

   STEREO
   ステレオ再生とフロントサラウンド・アドバンス再生を切り換えます。
5. MULTI-ZONEボタン
   別の部屋で本機につないだ機器を再生する機能(マルチゾーン機能)に使用します。(→91ページ)

   CONTROL
   メインゾーンとサブゾーン(ZONE 2および ZONE 3)の調整したいゾーンを切り換えます。ZONE 2やZONE 3で再生する入力ファンクションを選んだり、MASTER VOLUMEダイヤルで別の部屋の音量を調整するときに使用します。

   ON/OFF
   マルチゾーン機能を入／切します。
6. SPEAKERSボタン
   スピーカーシステムを切り換えます。(→89ページ)
7. HOME MENUボタン
   本機のホームメニューを表示します。(→114ページ)
8. RETURNボタン
   ホームメニューで1つ前の画面に戻ります。(→114ページ)
9. HDMI入力端子
   HDMI対応機器(ビデオカメラなど)を接続します。(→41ページ)
10. iPod/iPhone/USB端子
    iPodやiPhone、またはマスストレージクラスに対応したUSBメモリーを接続して再生することができます。(→41ページ)
11. MCACC SETUP MIC端子
    音場設定の自動測定のときに、付属のセットアップマイクを差し込みます。(→43ページ)
12. PHONES端子
    ヘッドホンを接続します。(→49ページ)

フロントパネルディスプレイ

1. **音声入力信号インジケーター**
現在選択されている機器の音声入力信号の種類が点灯します。

2. **プログラムフォーマットインジケーター**
ドルビーデジタルやDTSなどの入力信号が持っているチャンネルを表示します。（本機から出力される音声の表示ではありません。）

L/R：フロント左/右

C：センター

SL/SR：サラウンド左/右

XL/XR：上記以外の2チャンネル（左/右）

XC：上記以外の1つのチャンネル、モノラルサラウンドチャンネル、マトリックスエンコードフラグのいずれか。

LFE：超低音の効果音（Low Frequency Effect）。超低音が再生されているときに(( ))が点灯します。

3. **デジタルフォーマットインジケーター**
それぞれのデジタル信号入力時に点灯します。

4. **S.RTRV**
サウンドレトリバー機能が働いているときに点灯します。（→66ページ）

5. **MULTI-ZONE**
マルチゾーン機能が選ばれているときに点灯します。（→91ページ）

6. **DSD PCM**
SACDのDSD信号をPCMに変換しているときに点灯します。（本機ではSACDのDSD信号は必ずPCMに変換されます）

PCM
PCM信号を再生しているときに点灯します。

7. **SOUND**
ミッドナイト/ラウドネスモード、または低音／高音の調整機能が選ばれているときに点灯します。（→65ページ）
また、ダイアログエンハンスメント機能がオンのときにも点灯します。（→66ページ）

8. **FULL BAND**
Full Band Phase Control機能がONのときに点灯します。（→64ページ）

9. **リスニングモードインジケーター**
選択されているリスニングモードに応じて点灯します。（→55ページ）

10. **(PHASE CONTROL)**
Phase ControlまたはFull Band Phase Control機能がONのときに点灯します。（→63ページ）

11. **アナログ信号インジケーター**
アナログ入力信号のレベルを補正しているときに点灯します。（→61ページ）

12. **UP MIX**
UP MIX機能をONにしているときに点灯します。（→60ページ）

13. **入力ファンクションインジケーター**
現在選ばれている入力が点灯します。

14. **(ミュート)**
ミュート（消音）しているときに点灯します。

15. **音量表示(dB)**
現在の主音量レベルを**–80 dB**から**+12 dB**（最大）で表示します。最小時は**---**が表示されます。

16. **スクロールインジケーター**
選択できる項目が上下に続いているときに点灯します。

17. **スピーカーインジケーター**
現在選択されているスピーカーシステムが点灯します。（→89ページ）

18. **SLEEP**
スリープタイマーが設定されているときに点灯します。（→94ページ）

19. **デコード処理インジケーター**
マトリックス・デコード処理時に点灯します。
DD PRO LOGICIIx：ドルビープロロジックII処理またはドルビープロロジックIIxデコード時。
Neo:6：Neo:6デコード時。

20. **MSTR**
DTS-HD Master Audioを再生しているときに点灯します。

21. **キャラクター表示部**
操作中の情報やリスニングモード、デコード情報（信号処理の内容）などを表示します。

22. **リモコン操作モードインジケーター**
アンプのリモコン操作モードが設定されているときに点灯します。（1に設定されているときは点灯しません。）

> 何らかの操作のあと、キャラクター表示部が2秒間点滅する場合は、操作禁止を意味します。

リモートコントロール（SC-LX82）

本機のリモコンは各操作ボタンごとに白はアンプおよびテレビコントロール、青は他機器コントロールと色分けされています。テレビや他機器の操作方法については、「他機器の操作について」（→103ページ）をご覧ください。

リモコンボタンおよび表示部の照明

リモコン照明ボタン

リモコン照明ボタンを押すと一部のボタンおよび LCD 表示部が点灯します。もう一度押すと消灯します。暗いお部屋で操作するときに便利です。ボタン操作したときやリモコンモード切り換えスイッチを切り換えるたびに一部のボタンおよび LCD 表示部の照明を点灯させることもできます。この場合はリモコン照明ボタンを 5 秒間押し続け、LCD 画面に「LIGHT M1」と表示させます。「LIGHT M1」で使用すると電池の寿命が短くなります。元に戻すときはリモコン照明ボタンを 5 秒間押し続け、LCD 画面に「LIGHT M2」と表示させます。

AV アンプ ⏻ ボタン
本機の電源を ON または OFF（スタンバイ状態）にします。

マルチコントロールボタン
本機の入力を切り換えます。また他機器を操作するときのリモコンの操作モードを切り換えます。

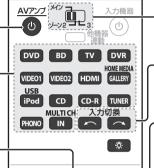
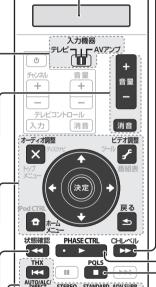
リモコン表示部
操作／設定時の表示画面です。

リモコン操作モード切り換えスイッチ
テレビ：テレビを操作するときに合わせます。（→ 103 ページ）
入力機器：他機器を操作するときに合わせます。（→ 103 ページ）
AV アンプ：本機の操作をするときに合わせます。

音量ボタン
＋ / －：本機の音量を調節します。
消音：消音します。

設定 / 調整ボタン
オーディオ調整：オーディオに関する調整を行います。（→ 65 ページ）
ビデオ調整：映像に関する調整を行います。（→ 69 ページ）
ホームメニュー：ホームメニューを表示します。（→ 114 ページ）
⇧/⇩/⇦/⇨/ **決定 / 戻る**：各種設定項目の選択 / 決定 / 戻る

状態確認ボタン
選択／設定されている機能や入力信号などの情報をディスプレイに表示します。（→ 95 ページ）

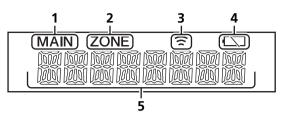
リスニングモードボタン
（THX、AUTO/ALC/DIRECT、STEREO、STANDARD、ADV SURR）:
いろいろな音場効果を加えることができます。（→ 55 ページ）

マルチゾーン用切り換えスイッチ
メインゾーン、ゾーン 2、ゾーン 3 の操作を切り換えます。

入力切換ボタン
本機の入力を切り換えます。

CH レベルボタン
チャンネルを選択し、⇦/⇨ でレベルを調整します。（→ 61 ページ）

PHASE CTRL ボタン
Phase Control または Full Band Phase Control モードの ON/OFF を切り換えます。（→ 63 ページ）

アンプ操作ボタン
音声切換：入力信号の種類（アナログ / デジタル /HDMI など）を切り換えます。（→ 49 ページ）
スリープ:スリープタイマーを設定します。（→ 94 ページ）
ディマー：フロントパネル表示部の明るさを切り換えます。（→ 94 ページ）
アナログ ATT：アナログ信号が入力されている場合、入力信号のレベルが高すぎて音が歪んでいるときに押すと聴きやすくなります。（→ 61 ページ）
SBch 処理：サラウンドバックチャンネルまたはバーチャルサラウンドバックチャンネルの ON/AUTO/OFF を切り換えます。（→ 59 ページ）
MCACC：MCACC MEMORY を選択します。（→ 62 ページ）
HDMI OUT：HDMI 信号の出力端子を切り換えます。（→ 95 ページ）
PQLS：PQLS 機能の AUTO/OFF を切り換えます。（→ 87 ページ）

リモコン表示部

1. リモコンがメインゾーン操作モードのとき点灯します。
2. リモコンがサブゾーン操作モードのとき点灯します。
3. リモコン操作信号を発信しているときに点灯します。
4. リモコンの電池残量が少ないときに点灯します。
5. 入力などの情報を表示します。

リモートコントロール（SC-LX72）

本機のリモコンは各操作ボタンごとに白はアンプおよびテレビコントロール、青は他機器コントロールと色分けされています。テレビや他機器の操作方法については、「他機器の操作について」（→112ページ）をご覧ください。

AV アンプ ⏻ ボタン

本機の電源を ON または OFF（スタンバイ状態）にします。

アンプ操作ボタン（AV アンプボタンを押してから操作します。）

入力切換：本機の入力を切り換えます。

HDMI OUT：HDMI 信号の出力端子を切り換えます。（→ 95 ページ）

音声切換：入力信号の種類（アナログ / デジタル /HDMI など）を切り換えます。（→ 49 ページ）

MCACC：MCACC MEMORY を選択します。（→ 62 ページ）

スリープ：スリープタイマーを設定します。（→ 94 ページ）

SBch 処理：サラウンドバックチャンネルまたはバーチャルサラウンドバックチャンネルの ON/AUTO/OFF を切り換えます。（→ 59 ページ）

アナログ ATT：アナログ信号が入力されている場合、入力信号のレベルが高すぎて音が歪んでいるときに押すと聴きやすくなります。（→ 61 ページ）

ディマー：フロントパネル表示部の明るさを切り換えます。（→ 94 ページ）

CH レベル：チャンネルを選択し、⇦/⇨でレベルを調整します。（→61 ページ）

アンプ設定 / 調整ボタン（AV アンプボタンを押してから操作します。）

オーディオ調整：オーディオに関する調整を行います。（→ 65 ページ）

ビデオ調整：映像に関する調整を行います。（→ 69 ページ）

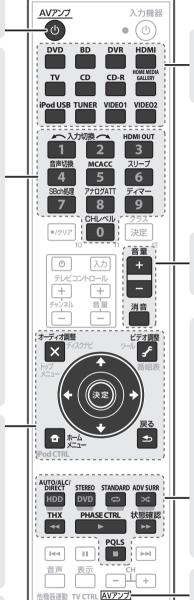
ホームメニュー：ホームメニューを表示します。（→ 114 ページ）

⇧⇩⇦⇨/ 決定 / 戻る：各種設定項目の選択 / 決定 / 戻る

リモコン設定ボタン

リモコンのプリセットコードを設定したり、リモコン操作モードを切り換えます。（→ 105 ページ）

マルチゾーン用切り換えスイッチ

メインゾーンとゾーン 2、ゾーン 3 の操作を切り換えます。

マルチコントロールボタン

本機の入力を切り換えます。また他機器を操作するときのリモコンの操作モードを切り換えます。

音量ボタン

＋ / －：本機の音量を調節します。

消音：消音します。

アンプ操作ボタン（AV アンプボタンを押してから操作します。）

リスニングモードボタン（AUTO/ALC/DIRECT、STEREO、STANDARD、ADV SURR、THX）：いろいろな音場効果を加えることができます。（→ 55 ページ）

PHASE CTRL：Phase Control または Full Band Phase Control モードの ON/OFF を切り換えます。（→ 63 ページ）

状態確認：選択／設定されている機能や入力信号などの情報をディスプレイに表示します。（→ 95 ページ）

PQLS：PQLS 機能の AUTO/OFF を切り換えます。（→ 87 ページ）

AV アンプボタン

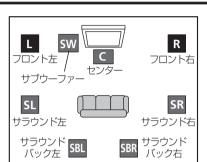
リモコンをアンプ操作モードにします。

リモコン照明ボタン

リモコン照明ボタンを押すと一部のボタンが点灯します。もう一度押すと消灯します。暗いお部屋で操作するときに便利です。

スピーカーの配置/使用パターンを選ぶ

7本のスピーカーと1台のサブウーファーを接続して、臨場感あふれるサラウンドサウンドが楽しめます。また、バイアンプ接続による高音質再生や、マルチゾーン機能で他の部屋で音楽を楽しむことが可能です。スピーカーが2本以上あれば、本機で高音質再生が楽しめます。

- フロントスピーカー左/右(L/R)は必ず接続してください。
- パターン1以外の接続を行う場合は、Surr Back System（スピーカー出力端子)の設定が必要です。(→43、132ページ)

サラウンド重視

☞ 6本のスピーカーをお持ちの場合、サラウンドバックを1本にするか、7.1chからセンターを除いた構成にするか選ぶことができます。

パターン1
ノーマルサラウンド接続(工場出荷時の設定)

■特長

最大7.1chまで接続できるサラウンド重視の接続方法で映画館のようなスピーカー配置を実現します。
また、SACDやDVDオーディオなどの高音質マルチチャンネル音楽ソースと映画の両方にこだわった使い方も可能です。

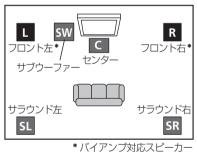
■接続

すべてシングルワイヤ(通常)接続(→24ページ)。
またはバイワイヤ接続(→25ページ)。

■スピーカー出力端子の設定

[**ノーマル**]（工場出荷時の設定）（→43、132ページ）

高音質重視

* バイアンプ対応スピーカー

パターン2
5.1chサラウンド & バイアンプ接続

■特長

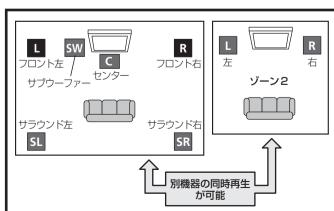
フロントスピーカーを高音質(バイアンプ)で再生し、最大5.1chまでのサラウンド再生が可能です。

■接続

フロントスピーカーのみバイアンプ接続(→25ページ)。
(通常のシングル接続も可能です。)
他のスピーカーはシングルワイヤ(通常)またはバイワイヤ接続。

■スピーカー出力端子の設定

[**Front Bi-Amp**]（→43、132ページ）

マルチゾーン

※ゾーン2ではMCACC設定は適用されません。
また、ゾーン2ではサブウーファーを使用できません。

☞ この接続パターン以外でも、他のアンプを接続してゾーン2機能を使うことができます。(→36ページ)

パターン3
5.1chサラウンド & ゾーン2接続

■特長

ゾーン2でメインゾーンとは別の機器のステレオ再生が可能です。
(入力機器の選択に一部制限があります。)
(→36ページ)

■接続

すべてシングルワイヤ(通常)接続
(→24ページ)。
またはバイワイヤ接続(→25ページ)。

■スピーカー出力端子の設定

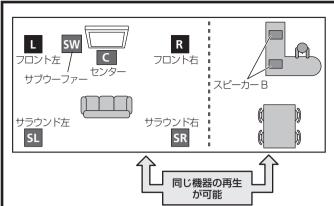
[**ZONE 2**]（→43、132ページ）

スピーカーB

パターン4
5.1chサラウンド & スピーカーB接続

■特長
スピーカー Aシステムで最大5.1ch再生をしながら、同じ機器の音をスピーカー Bでステレオ再生することが可能です。
Aのみ/Bのみ/AB両方の選択が可能です。
(→89ページ)

■接続
すべてシングルワイヤ(通常)接続
(→24ページ)。
またはバイワイヤ接続(→25ページ)。

■スピーカー出力端子の設定
[Speaker B] (→43、132ページ)

※スピーカー BではMCACC設定は適用されません。
また、スピーカー Bではサブウーファーを使用できません。

☞使い方の例
例1)別の場所(キッチンなど)でも同じ機器の音声を聞く。
例2)1つの部屋で、映画用(マルチチャンネル再生:スピーカーA)と音楽用(ステレオ再生:スピーカー B)の2つのシステムをつくる。

ヒント

- お手持ちのスピーカーが7本(およびサブウーファー 1台)無くても、お好きな接続方法が選べます。(フロント2本だけでも楽しめます。)(→24ページ)
- サブウーファーを接続しない場合、フロントスピーカーは低域再生能力のあるタイプを使用してください。サブウーファー用の低域成分がフロントスピーカーから出力されるため、低域再生能力のないタイプではスピーカーを破損する恐れがあります。
- **接続が終わったら、必ずフルオートMCACC(スピーカーの自動設定)を行ってください。(→43ページ)**

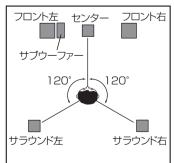
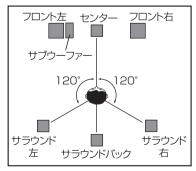
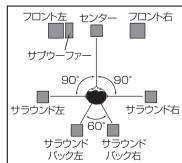
スピーカー配置について

最適なサラウンド再生を行うには、それぞれのパターンで以下のようにスピーカーを配置します。

• 5.1チャンネルの例

• 6.1チャンネルの例

• 7.1チャンネルの例

各部の名称 接続 基本設定 再生 応用操作 リモコン 応用設定 技術資料 困ったとき 付録

高音質のためのスピーカーセッティング

より本格的なサラウンドを目指すためには、正確にスピーカーを配置し、音量や音質の素性を均一にしてマルチchの音のピントを合わせせることが重要です。

設置場所と設置方法

建物に直接振動が伝わり音質が変わらないように、周りの壁から最低10 cm以上離してください。柔らかい床や棚板も音質に影響があるので、専用スタンドやコンクリートブロックなどの使用をお勧めします。

リスニングポジションからの角度

センタースピーカー（C)を使用する場合はフロントスピーカーを広め(60°程度)に、センタースピーカーを使用しない場合は狭め(45°程度)に配置することをお勧めします。ペアになる左右のスピーカーは、左右対称の角度に設置すると音の定位がよくなります。(図1・ITU-R推奨5.1chスピーカー配置を参照)

図1　ITU-R推奨5.1chスピーカー配置(ITU-R BS.775-1)

60°
100°～120°
リスニング
ポジション

電気通信分野における国際連合の専門機関である国際電気通信連合の無線通信部門ITU-R(International Telecommunication Union－Radiocommunication sector)の勧告に基づく配置法です。

スピーカーの高さ調整

フロントスピーカー：中高域を再生するユニットが、ほぼ耳の高さになるように調整します。

センタースピーカー：フロントスピーカーの高さにそろえられない場合は、仰角を調整してリスニングポジションに向けてください。

サラウンドスピーカー：耳の高さより下にならないように設置します。

リスニングポジションからの距離(奥行き)

センタースピーカー（C)はフロントスピーカー左右(L/R)と同一面、またはやや奥まった位置の方が、きれいな音場になります。

スピーカーの向き(振り角)

図2のように、リスニングポジションの後方30 cm～80 cm(サラウンドスピーカーとリスニングポジションの間)にすべてのスピーカーを向けると良好な定位感が得られます。

図2

サブウーファーの設置、調整

サブウーファーはセンタースピーカーとフロントスピーカーの間に配置すると、音楽ソースでも自然に再生できます(サブウーファーが1台の場合は、左右どちらの間に設置しても問題ありません)。ただし他のスピーカーの低音出力との打ち消し合いが起こらないような場所に配置してください。また、壁の近くに設置すると建物との共振により低音が極端に増強される場合がありますのでご注意ください。

モニター TVとスピーカーとの位置関係

フロントスピーカーはなるべくモニターから等距離になるようにします。

センタースピーカーは、なるべく画面に近い方がセリフや歌が自然に聞こえます。ただし、ブラウン管テレビの場合は、色ズレ防止のための防磁型スピーカーを使用してください。

また、センタースピーカーを床に置いて設置する際は、仰角を調整してリスニングポジションに向けてください。

センタースピーカーをテレビの上に設置するときは、適切な方法で固定してください。固定しないと地震などの外部の振動により、スピーカーが落下してケガをしたり、スピーカーを破損する原因となります。

注意 機器の接続を行う場合には、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

スピーカーを接続する

SURROUND BACK端子は、サラウンドバックスピーカーを接続するだけでなく、フロントスピーカーの高音質化や、別エリアでのステレオ再生に使用できます。(ただし、メインゾーンは最大5.1chまでとなります。)(→20ページ)
5.1ch/6.1ch/7.1chのノーマルサラウンド接続やマルチゾーン接続、スピーカー B接続を行う場合は「一般的な接続」(→24ページ)のようにスピーカーに接続します。フロントスピーカーのバイアンプ接続をするときは「バイアンプ接続」(→25ページ)をご覧ください。

スピーカーの接続について

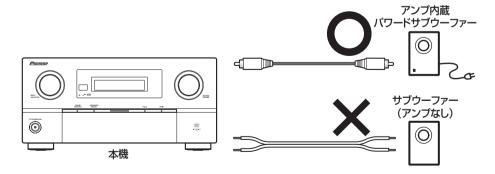
スピーカーの接続には市販のスピーカーコードを使用します。以下のように本機のSPEAKERS(スピーカー端子)に接続します。

① 線をねじる。
② スピーカー端子を緩め、スピーカーコードを差し込む。
③ スピーカー端子を締めつける。

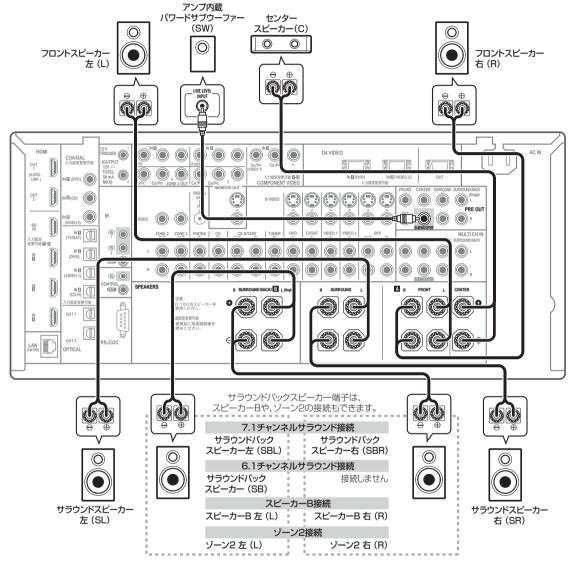
バナナプラグを接続することもできます(詳しくは、プラグの説明書をお読みください)。

注意
- 本機は公称インピーダンスが6 Ω ~ 16 Ωのスピーカーに対応しています。
- スピーカーと本機の⊕および⊖端子どうしを正しく接続してください。
- スピーカーコードを接続するときは、芯線をしっかりねじり、スピーカー端子からはみ出していないことを確認してください。芯線がリアパネルに接触したり、⊕および⊖が接触すると保護回路が働いて電源が切れる(スタンバイ状態になる)ことがあります。

サブウーファーの接続について

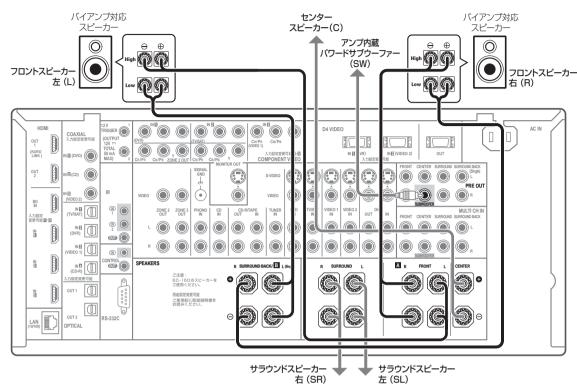
サブウーファーの接続にスピーカーコードを使用することはできません。アンプ内蔵サブウーファーとアナログピンケーブルによる接続を行ってください。

- THXサブウーファーをご使用の場合、THX入力端子またはTHXフィルタポジションをご使用ください。

一般的な接続

5.1chのスピーカーセットを接続するときは、FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/RおよびPRE OUTのSUBWOOFERに接続してください。SURROUND L/Rを接続せずにSURROUND BACKに接続すると正しく動作しません。

サラウンドバックスピーカー端子の用途によって、スピーカー出力端子の設定とスピーカーシステムの切り換えは以下のように行います。

- ノーマルサラウンド接続
  スピーカー出力端子の設定：**ノーマル**　　スピーカーシステム：**ON**または**OFF**になります。
- スピーカー B接続
  スピーカー出力端子の設定：**Speaker B**　　スピーカーシステム：**A**、**B**、**A+B**または**OFF**になります。
- ゾーン2接続
  スピーカー出力端子の設定：**ZONE 2**　　スピーカーシステム：**ON**または**OFF**になります。

バイアンプ接続

フロントch用スピーカーがバイワイヤリング対応であれば、さらに高品位なBi-Amp再生が可能です。

バイアンプ接続時は、スピーカー出力端子の設定とスピーカーシステムの切り換えは以下のように行います。

スピーカー出力端子の設定：Front Bi-Amp

スピーカーシステム：A+B（SP▶AB)が通常状態です。

スピーカー端子Aのフロント ch とスピーカー端子Bの出力は同じです。High/Low はA / Bのどちらとでも接続できます。

ネットワークが着脱できるスピーカーの場合、ネットワークが外れた状態では効果が得られませんのでご注意ください。

注 意

フロントスピーカーのBi-Amp接続をするときは、アンプへの悪影響を防ぐため、スピーカーに付属されているHigh-Lowのショート金具は必ず外してください。
詳しくはスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

Bi-wire(バイワイヤ)接続の場合

「ノーマル」または「Speaker B」でシステムを組む場合は、Bi-AmpではなくBi-wire接続が可能です。スピーカー端子Aに、バイワイヤリング対応スピーカーのHighとLowの2本を並列に接続してください。

1 本はバナナプラグを
用いると便利です

注 意

この方法で異なる 2 つのスピーカーを接続しないでください。

他機器の接続を行う前に

本機の入力ファンクションには、工場出荷時は以下の入力端子が割り当てられています(リアパネルの端子表記)。通常はこの割り当ての通りに接続することをお勧めしますが、これ以外の接続を行うことも可能です。その際は入力設定の変更が必要です。○は割り当てを変更でき、×は割り当てが固定されていて変更できません。

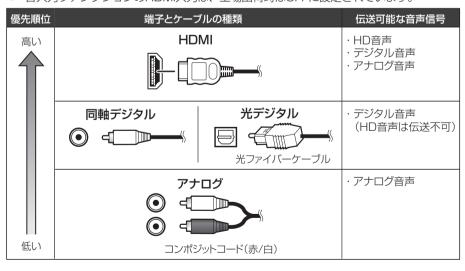
- BDおよびHDMI 4端子は設定を変更できません。
- KURO LINK設定をONにしているときは、HDMI端子は他の入力ファンクションに変更できません。

入力ファンクション	入力端子		
	デジタル音声	HDMI	コンポーネント/D4映像
DVD	COAX-1	○	IN-1
BD	×	(BD)	×
TV/SAT	OPT-1	○	○
DVR	OPT-2	○	IN-2
VIDEO 1	OPT-3	○	IN-3
VIDEO 2	COAX-3※1	○	○
HDMI 1	×	HDMI-1	×
HDMI 2	×	HDMI-2	×
HDMI 3	×	HDMI-3	×
HDMI 4	×	(HDMI-4)	×
CD	COAX-2	×	×
CD-R/TAPE	OPT-4	×	×
MULTI CH IN	×	○	×※2

※1 SC-LX82のみ。SC-LX72は○(割り当て可能)となります。
※2「マルチチャンネル入力を設定する」(→138ページ)でビデオ入力を選択できます。

音声の接続について

本機に音声信号を入力するには、光デジタル/同軸デジタルまたはアナログ音声コードによる接続を行います。HDMI対応機器であれば、HDMIケーブルで接続してHDオーディオを入力することも可能です。
音声入力信号の切り換えをAUTOに設定している場合、以下の優先順位で自動的に入力信号が選択されます。

- 各入力ファンクションのHDMI入力は、工場出荷時はOFFに設定されています。

■光ファイバーケーブルの取り扱いについて

- 急な角度に折り曲げないでください。保管するときは、直径が15 cm以上になるようにしてください。
- 接続の際は端子の向きを合わせてしっかり奥まで差し込んでください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉まらなくなることがあります。

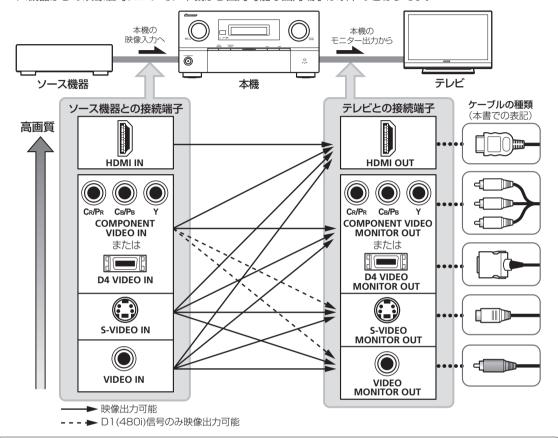
映像の接続について（パイオニアビデオコンバーター）

本機は、入力された映像信号を異なる種類の信号に変換できるビデオコンバーターを搭載していますので、以下のように映像コードの組み合わせを選ぶことができます。

映像をテレビに表示する

ソース機器からの映像信号について、本機から出力可能な出力端子は以下のとおりです。

本機の映像入力へ
本機のモニター出力から
ソース機器
本機
テレビ
ソース機器との接続端子
テレビとの接続端子
ケーブルの種類（本書での表記）
高画質
HDMI IN
CR/PR CB/PB Y
COMPONENT VIDEO IN
または
D4 VIDEO IN
S-VIDEO IN
VIDEO IN
HDMI OUT
CR/PR CB/PB Y
COMPONENT VIDEO MONITOR OUT
または
D4 VIDEO MONITOR OUT
S-VIDEO MONITOR OUT
VIDEO MONITOR OUT

→ 映像出力可能
- - → D1(480i)信号のみ映像出力可能

- コンポーネントまたはD4端子から入力された1080p信号は、HDMIからは出力されません。
- 入力された信号によっては、ビデオコンバーターが働かずに映像が出力されないことがあります。その場合はビデオコンバーターの設定をOFFにして、入力機器とテレビの両方を同じタイプのコードで接続してください。(→69ページ)
- テレビによっては、Sビデオ入力とコンポジット入力の両方を接続していると、信号の有無にかかわらず常にSビデオ入力が優先され、コンポジット端子でのみ接続している機器の映像を見ることができない場合があります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

映像を録画する

ソース機器からの映像信号を録画するには、コンポジットコードまたはSビデオコードを使用して、それぞれの機器と必ず同じ種類のコードで接続します。そのほかのケーブルを使用したり、異なった種類のケーブルが混在した接続では、正しく録画できません。(→32 ～ 35ページ)

機器の接続を行う場合には、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

テレビと再生機器の接続

テレビと再生機器(DVDプレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーなど)を本機に接続します。

HDMI で接続する

テレビと再生機器の両方にHDMI端子がある場合は、HDMIによる接続をお勧めします。

- KURO LINK対応のパイオニア製フラットテレビやブルーレイディスクプレーヤー、またはKURO LINKと互換性のある他社製品などを、HDMIケーブルで本機と接続することでこれらの機器との連動動作が可能になります。詳しくは、「KURO LINK機能でHDMI機器を連動動作させる」(→85ページ)をご覧ください。

HDMI対応テレビ
(フラットテレビなど)

HDMI 入力

HDMI対応再生機器

HDMI 出力

HDMI対応
ブルーレイディスクプレーヤーなど

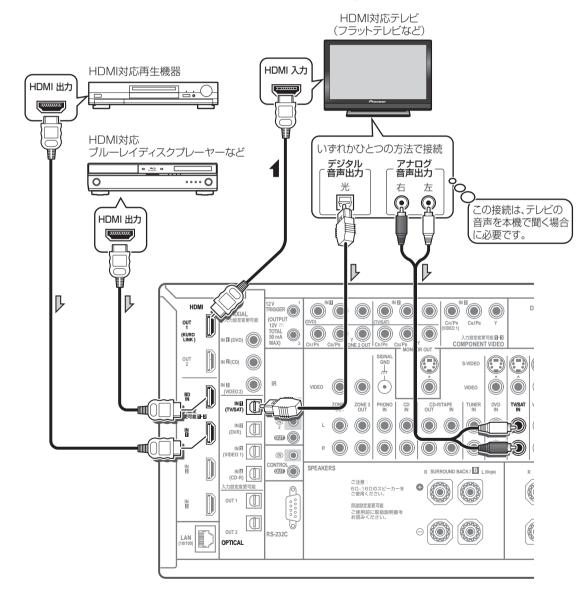
HDMI 出力

1

いずれかひとつの方法で接続

デジタル
音声出力
光

アナログ
音声出力
右 左

この接続は、テレビの
音声を本機で聞く場合
に必要です。

- HDMI INに入力された映像信号にはビデオコンバーター機能が働きませんので、必ずHDMI OUTからHDMI対応のフラットパネルディスプレイなどに接続してください。
- KURO LINK対応テレビおよびKURO LINKと互換性のある他社テレビを接続する場合は、HDMI OUT1端子に接続してください。KURO LINK機能はHDMI OUT 1端子のみ使用できます。
- HDMI OUT 2端子にテレビを接続した場合は、HDMI出力の設定を「HDMI OUT2」または「HDMI OUT ALL」に切り換えてください。(→95ページ)
- HDCP(デジタル内容保護)技術に対応していない機器には接続できません。接続した場合は「HDCP ERROR」と表示されます。HDCPに対応した機器を接続したときにもこの表示が出ることがありますが、映像がとぎれなく出力されれば不具合ではありません。
- HDCP対応機器でもDVIで接続した場合は、正常に動作しない場合があります。

AVアンプを経由するとHDMI機器が正しく動作しないときは

再生機器(DVDプレーヤーやビデオ、セットトップボックスなど)の仕様によっては、AVアンプを経由してテレビに映像や音声を出力できない場合があります。再生機器とテレビを直接接続すれば問題がなく、AVアンプを経由すると不具合が生じる場合は、再生機器の仕様をメーカーにお問い合わせください。
このような再生機器をそのままお使いになるときは、以下の2つの接続方法が選択できます。いずれの方法も、HDMIでしか伝送できない音声のフォーマットは再生できません。

接続例 1

■「再生機器にHDMI出力が無い場合の接続」(→30ページ)をご覧ください。
・メリット：再生時の操作方法が簡単です。
・デメリット：映像をアナログで伝送するため、HDMIの最高画質で楽しむことはできません。
・使用方法：他機器の再生と同様に操作します。

接続例 2

■ 再生機器とテレビをHDMIケーブルで直接接続してください。(映像のみ直接HDMI伝送します。)
■ 本機と再生機器を音声ケーブルで接続してください。
・メリット：映像はHDMIでのデジタル伝送のため、最高画質を楽しめます。
・デメリット：操作方法がやや複雑で、機器によっては2ch音声しか出力されないことがあります。
(HDMI接続されたテレビの音声チャンネル数を検知して、再生機器側で出力を自動設定するため。)
・使用方法：この再生機器を使用する場合は、本機とテレビの入力を両方切り換えてください。
テレビの音量を最小にして、本機に接続されたスピーカーとテレビから同時に音が出ないようにします。

HDMI接続について

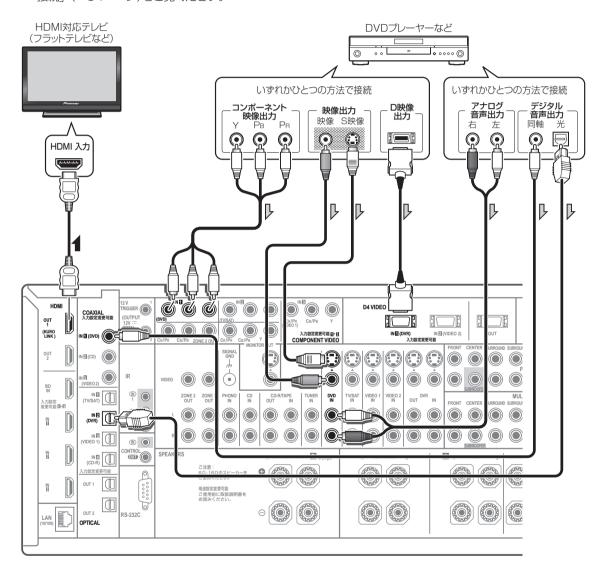
本機ではHDMI接続において以下のことに対応しています。

- HDCPで保護されたコンテンツの伝送
- Deep Color信号の伝送(対応機器接続時)
- x.v.Color信号の伝送(対応機器接続時)
- さまざまなデジタル音声信号の再生(「入力ファンクションの対応フォーマット」(→148ページ)をご覧ください。)
- KURO LINK機能を利用した連動動作(対応機器接続時)

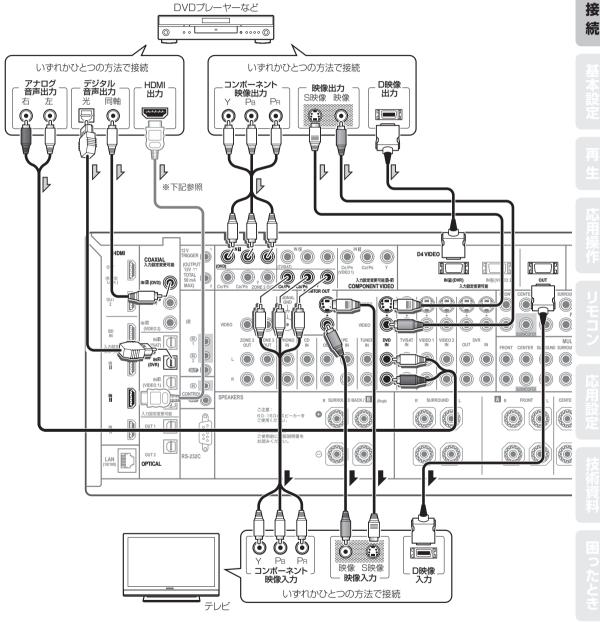
各部の名称
接続
基本設定
再生
応用操作
リモコン
応用設定
技術資料
困ったとき
付録

再生機器に HDMI 出力が無い場合の接続

テレビにHDMI入力端子があり、再生機器にHDMI出力端子が無い場合は、テレビのみHDMIで接続します。本機のビデオコンバーター機能により、アナログで入力された映像信号をHDMIでテレビに出力できます。

- テレビの音声を本機で聞く場合は、28ページをご覧になり、音声ケーブルの接続も行ってください。
- 再生機器にマルチチャンネルアナログ音声出力がある場合の接続については「マルチチャンネルアナログ機器の接続」（→34ページ）をご覧ください。

テレビにHDMI入力が無い場合の接続

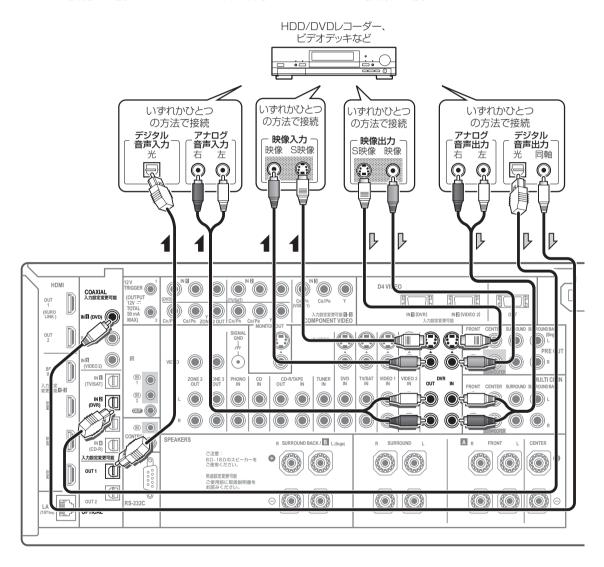
テレビにHDMI入力端子が無い場合は、それぞれの機器を映像信号はアナログで接続します。

- HDMI INに入力された映像信号にはビデオコンバーター機能が働きませんので、テレビにアナログ出力することはできません。
- 再生機器にマルチチャンネルアナログ音声出力がある場合の接続については「マルチチャンネルアナログ機器の接続」（→34ページ）をご覧ください。

※ ここでのHDMIケーブルによる再生機器の接続は、再生機器のHD音声を本機で聞く場合に使用するものです。映像をテレビで見るには、別途アナログで映像の接続を行ってください。再生機器によっては、HDMIと他の接続方法で映像を同時に出力することができなかったり、出力の設定が必要な場合があります。詳しくは再生機器の取扱説明書をご覧ください。

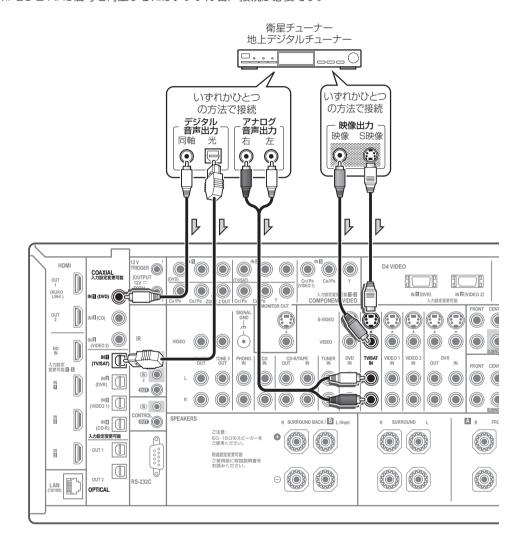
各機器との接続

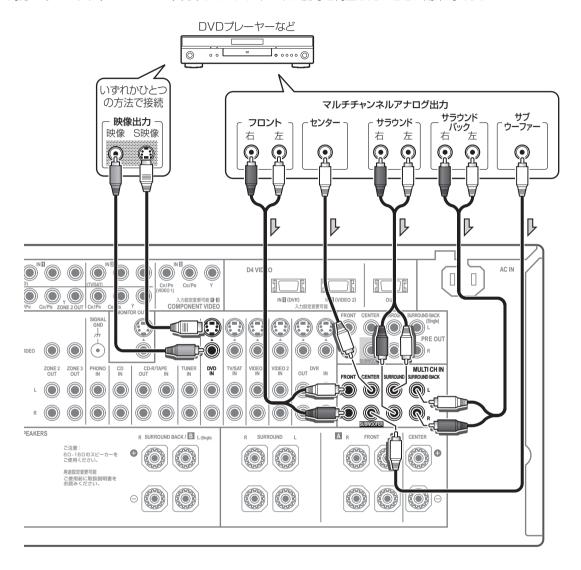
HDD/DVD レコーダーやビデオデッキの接続

HDD/DVDレコーダーやビデオデッキなどの録画機器を接続します。

- 録画することを前提とする場合は、ソース機器と録画機器の映像信号をコンポジットかSビデオのどちらかに統一して接続する必要があります。また音声信号についてもアナログ接続する必要があります。

地上デジタル / 衛星チューナーの接続

衛星放送やケーブルテレビチューナー、地上波デジタルチューナーなどの映像機器を接続します。

- チューナーにデジタル出力端子がない場合や、地上波放送などのアナログ信号を本機を通して楽しみたいときはアナログ音声接続を行ってください。
- MPEG-2 AAC信号を再生するにはデジタル音声接続が必要です。

マルチチャンネルアナログ機器の接続

ソース機器の5.1ch、6.1chまたは7.1chアナログ出力端子と本機のMULTI CH IN端子を接続して、マルチチャンネルアナログ信号を再生できます。HDMIを使用しないでDVDオーディオやSACDを再生する場合や、本機の対応フォーマット(→148ページ)以外のマルチチャンネル信号を再生したいときに効果的です。

- ソース機器によっては、5.1ch/6.1ch/7.1chアナログ出力の各種設定があるものもあります。出力のON/OFF設定はONにしてください。また、出力チャンネルの設定がある場合は、本機に接続しているスピーカーの数に合わせてください。詳しくは、ソース機器の取扱説明書をご覧ください。
- MULTI CH IN端子に入力された信号は本機でダウンミックス処理を行うことができません。
- サラウンドバックが1本のときはL端子につないでください。
- 5.1chのスピーカーセットを接続するときは、FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/RおよびPRE OUTのSUBWOOFERに接続してください。SURROUND L/Rを接続せずにSURROUND BACKに接続すると正しく動作しないことがあります。

その他の音声機器の接続

音声再生機器の接続には、アナログおよびデジタル接続ができます。ドルビーデジタルやDTSソフトを再生するには、デジタル接続が必要です。

CDレコーダー、
カセットデッキなど

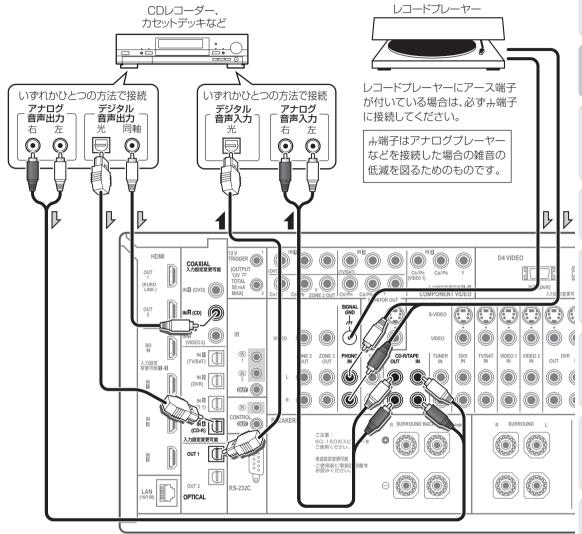
いずれかひとつの方法で接続
アナログ音声出力　右　左
デジタル音声出力　光　同軸

いずれかひとつの方法で接続
デジタル音声入力　光
アナログ音声入力　右　左

レコードプレーヤー

レコードプレーヤーにアース端子が付いている場合は、必ず⏚端子に接続してください。

⏚端子はアナログプレーヤーなどを接続した場合の雑音の低減を図るためのものです。

注意

PHONO 端子にレコードプレーヤー以外の機器またはイコライザー内蔵レコードプレーヤーを接続しないでください。大音量を出力し、スピーカーなどを破損する恐れがあります。

カセットデッキを設置する場所によっては、再生したときに雑音などが発生する場合があります。これはアンプのトランスによるリーケージフラックス（漏れ磁束）の影響によるものです。このようなときには、設置する場所を変えるか、アンプから離して設置してください。

マルチゾーン接続（ZONE 2/ZONE 3）

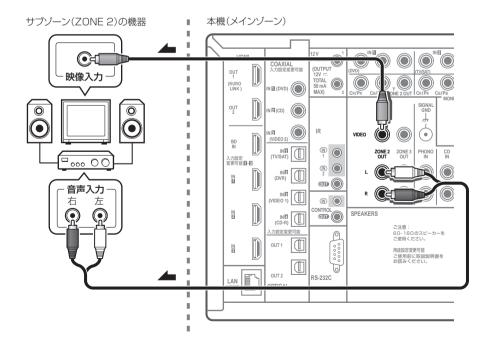
本機を操作して、本機のある部屋（メインゾーン）とは別の部屋（サブゾーン）で本機につないだ機器の再生を楽しめます（マルチゾーン機能）。本機ではメインゾーンとは別にZONE 2とZONE 3の2つのシステムを構築することができます。メインゾーンとサブゾーンで同時に同じソースを再生することはもちろん、別々のソースを再生することもできます。

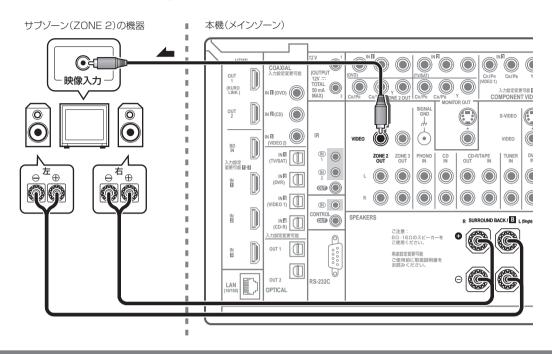
	ビデオ出力	Sビデオ出力	コンポーネントビデオ出力	アナログ音声出力	デジタル音声出力
ZONE2	○*3（VIDEO ZONE2 OUT）	×	○*2、3、4、5（COMPONENT VIDEO ZONE2 OUT）	○*1（AUDIO ZONE2 OUT）	×
ZONE3	○*3（VIDEO ZONE3 OUT）	×	×	○*1（AUDIO ZONE3 OUT）	×

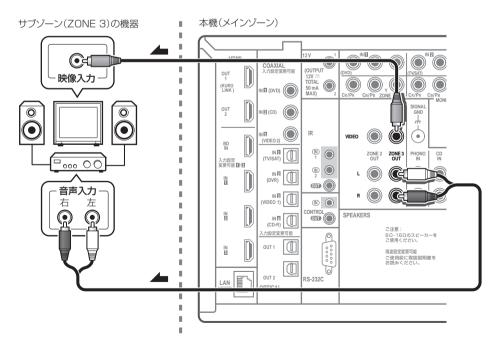
*1 MULTI CH INとPHONO入力を除くすべてのアナログ入力音声を出力します。HDMI音声は出力しません。また、リスニングモードや低音／高音調整などの各種音声機能は使えません。
*2 SC-LX82のみ
*3 USB入力のJPEG画像を再生することはできません。
*4 ビデオコンバート機能は働きませんので、COMPONENT VIDEO ZONE2 OUTでサブゾーンのモニターと接続するときは、入力機器ともCOMPONENT VIDEO IN端子で接続する必要があります。
*5 COMPONENT VIDEO ZONE2 OUTのみの接続ではOSD画面は表示されません。OSD画面を表示するときはVIDEO ZONE2 OUTも接続します。

2 つめの部屋のマルチゾーン接続（ZONE 2）

ZONE 2端子を使用したマルチゾーン接続

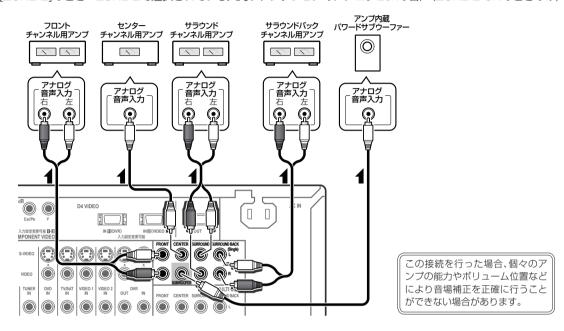
サブゾーン（ZONE 2）に別のアンプを用意して、図のようにもう一台のアンプとテレビモニターを本機に接続します。COMPONENT VIDEO ZONE2 OUT 端子を使ってコンポーネントビデオ接続を行うこともできます。

SURROUND BACK端子を使用したマルチゾーン接続

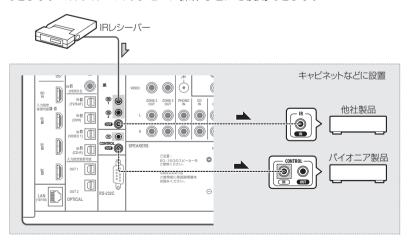
図のようにテレビモニターとスピーカーを本機に接続します。この接続の場合、メインゾーンは5.1chサラウンド出力までとなります。Surr Back Systemの設定はZONE 2を選択してください。（→43、132ページ）

3つめの部屋のマルチゾーン接続（ZONE 3）

サブゾーン（ZONE 3）に別のアンプを用意して、図のようにもう一台のアンプとテレビモニターを本機に接続します。

プリアウトを使ったパワーアンプの接続

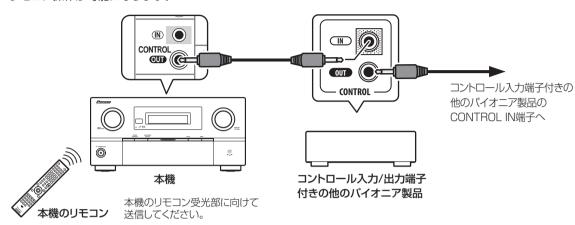
「Surr Back Systemの設定」（➞132ページ）と連動して、PRE OUT端子のSURROUND BACKから出力される音声が以下のように変わります。他のパワーアンプなどを接続する場合はご注意ください。

[ノーマル]のとき：サラウンドバックチャンネルの音声
[Speaker B]のとき：ダウンミックスされた2chの音声
[Front Bi-Amp]のとき：フロントチャンネルと同じ音声
[ZONE 2]のとき：ZONE 2で選択されている入力ファンクションのアナログ2chの音声（ZONE 2 ONのときのみ）

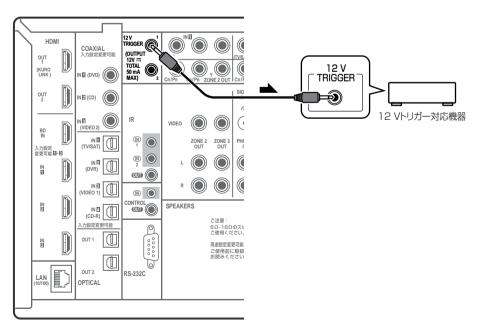
この接続を行った場合、個々のアンプの能力やボリューム位置などにより音場補正を正確に行うことができない場合があります。

IRレシーバーを使って集中コントロールする

ステレオ機器などを、キャビネット内などのリモコン信号が届かない場所に設置している場合でも、市販のIRレシーバーを使用して、リモコンでシステムの操作ができます。本機や接続した機器（パイオニア製品だけでなく、他社製品も含む）が操作できます。マルチルームのリモコン操作などにも使用できます。

- IR接続は、IR端子を装備している機器を使用してください。
- 接続に必要なケーブルの種類については、IRレシーバーに付属の取扱説明書を参照してください。
- IRレシーバーのリモコン受光部に蛍光灯から強い光が直接照射されている場合は、リモコン操作ができないことがあります。
- 他社製品ではIRという名称が使用されていない場合があります。お使いの機器に付属の取扱説明書で確認してください。
- フロントパネルのリモコン受光部とIRレシーバーのリモコン受光部が同時に受信した場合は、IRレシーバーが優先されます。

他のパイオニア製品をつないで集中コントロールする

コントロール入力/出力端子の付いた複数のパイオニア機器を、本機のリモコン受光部を使って集中コントロールすることができます。リモコン受光部を持たない機器や、受光部が信号を受けられないところに設置した機器もリモコン操作が可能になります。

- 本機のCONTROL IN端子にコントロールコードを接続すると、リモコンを本機に向けて直接操作することはできません（リモコン信号受光部が機能しなくなります）。
- 接続には市販のモノラルミニプラグ付きコード（抵抗なし）をお使いください。
- コントロール端子の接続をする場合は、必ずオーディオコード、映像ケーブルまたはHDMIケーブルも接続してください。デジタル接続だけでは、システムコントロールは正しく動作しません。

12 Vトリガー対応機器の接続

12 Vトリガー対応機器を本機に接続することで、システム動作を行います。本機の入力ファンクションを選ぶだけで、12 V TRIGGER端子に接続された機器へ制御信号が送られます。連動設定については「12 Vトリガー端子の連動設定」（→138ページ）をご覧ください。

- 接続には市販のモノラルミニプラグコード（抵抗なし）をお使いください。
- 12 V TRIGGER端子からは最大でDC 12 V/50 mA (2端子トータル)が出力されます。

パソコンを接続して各データを転送する

アドバンスドMCACC（➞43、125ページ）で測定した部屋の残響特性やスピーカーの群遅延特性、MCACCのパラメーターを、パソコンの画面上で詳しく確認できます。
各データをパソコンの画面で確認する場合には、測定前にあらかじめ本機とパソコンをRS-232Cケーブルで接続します。
パソコンに転送して表示するには、以下の条件を満たしている必要があります。

パソコン本体

- OS（オペレーティング・システム）が、Microsoft® 「Windows Vista Home Basic/Home Premium/Ultimate SP1」、「Windows® XP Professional/Home Edition SP3」、「Windows® 2000 Professional SP4」であること
- 画面解像度が 800 × 600 ドット以上であること
- RS-232Cポートを搭載していること
  （COMポートの設定についてはパソコンのメーカーへお問い合わせください）

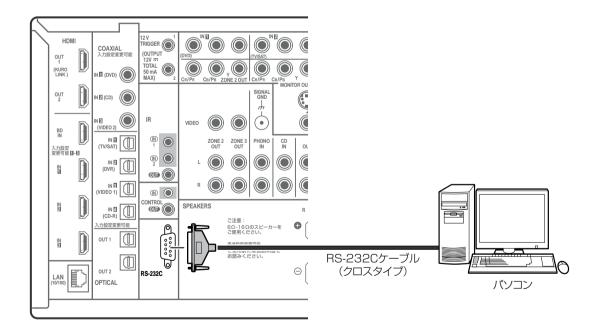
RS-232Cケーブル

- メス - メス：クロスタイプ（インターリンク、リバースタイプなど）を使用すること

専用アプリケーション・ソフトおよび専用取扱説明書

- 下記URLでお客様登録をしたあと、ソフトウェアダウンロードへ進み、ダウンロードしてください。
  http://pioneer.jp/support/

- 詳しくはダウンロードしたPCアプリケーションの取扱説明書をご覧ください。

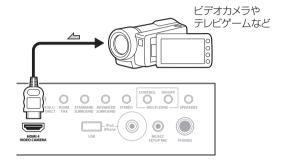
> ノートパソコンなどRS-232C端子がないパソコンの場合は、市販のUSB－RS-232C変換ケーブル(USB - シリアルケーブル)を使い、USB経由で接続することも可能です。

Microsoft®，Windows®Vista，Windows®XP，Windows®2000 は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

前面端子に機器を接続する

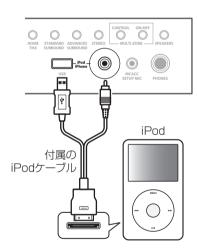
前面端子にHDMI対応機器やiPod、USBメモリーを接続して、本機で音声や映像を楽しめます。
前面端子を使用するときは、ドアの下側を軽く押してください。接続の前に本機の電源をオフにしてください。

HDMI 対応機器を接続する

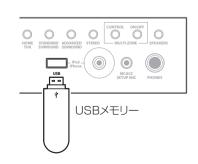
HDMI出力端子があるビデオカメラやテレビゲーム機などを前面端子に接続して、簡単にこれらの機器の映像や音声を楽しめます。接続にはHDMIケーブルを使用します。

接続する機器によっては、専用の接続コードが付属している場合があります。詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

iPod を接続する

iPodを接続して、iPodの音楽や映像を本機で楽しめます。接続には付属のiPodケーブルを使用します。
iPodの再生については、「iPodをつないで再生する」(→50ページ)をご覧ください。

- iPodの接続には、iPodに付属のケーブルも使用できますが、その場合はiPodの映像を本機を通して見ることはできません。
- iPodの接続については、iPodに付属の取扱説明書もご覧ください。

USB メモリーを接続する

お手持ちのUSBメモリーを接続して、USBメモリーに記録されている音楽/画像ファイルを本機で再生できます。
USBメモリーの再生については、「USBメモリーを再生する」(→52ページ)をご覧ください。

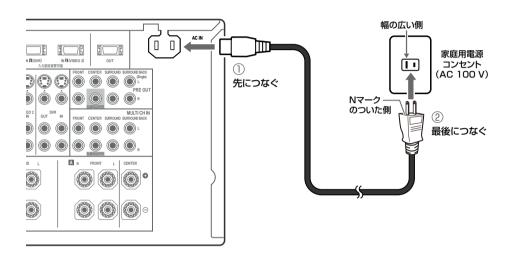
- 本機とパソコンをUSBケーブルで接続して音楽ファイルを再生することはできません。本機が対応しているUSBメモリーは、外付けハードディスクや携帯フラッシュメモリー、マルチカードリーダー、デジタルカメラ、デジタルオーディオ再生機(FAT12、FAT16、FAT32のフォーマットに対応)などのUSBマスストレージクラスに属する機器です。
- 本機ではすべてのUSBメモリーの再生、および電源の供給を保証できない場合があります。また、本機と接続したことで、USBメモリーのファイルが万一損失した場合、当社は一切の責任を負うことができませんので、あらかじめご了承ください。

電源コードの接続

すべての接続が終了したら、電源コードを家庭用電源コンセント(AC 100 V)に接続します。

電源コードのつなぎかた

本機の電源コードは極性管理されています。音質向上のため、極性を合わせせることをお勧めします。下図のように電源プラグの N マークのある側をコンセントの幅の広い方（アース側）に合わせて差し込んでください。

警告

本機の電源コードは着脱式になっていますが、付属しているコード(電流容量15 A、機器側2Pプラグインソケット方式)以外の電源コードはご使用にならないでください。

- 電源コードをコンセントに差し込むと本機の電源がスタンバイ状態になります。この際、2秒から10秒間、HDMIに関する初期化動作を行います。初期化中はHDMIインジケーターが点滅しますので、点滅が終了してから本機の操作を行ってください。KURO LINK設定(→86ページ)をOFFにすることで、この処理は行われなくなります。
- 旅行などで長期間本機を使用しない場合は、必ず電源コンセントから電源コードを抜いておいてください。長期間、電源コードを抜いた状態でも、本機で設定した各種設定が消去されることはありません。
- 電源コードを抜くときは必ず本体をスタンバイ状態(STANDBY/ONボタン中央のインジケーターが消灯した状態)にしてください。

電源について

本機の電源は、リモコンのAVアンプ⏻ボタン(またはフロントパネルの⏻STANDBY/ONボタン)を押すたびに、**オン**と**スタンバイ**が切り換ります。オンのときは⏻STANDBY/ONボタン中央のインジケーターが点灯します。ただし、スタンバイ状態でもKURO LINK設定がONになっているときは、インジケーターが点灯することがあります。(→86ページ)

※電源を入れることを「オンにする」、電源を切ることを「スタンバイにする」といいます。

重要

SC-LX82とSC-LX72では付属のリモコンをAVアンプ操作モードにする方法が異なります。SC-LX82はリモコン操作モード切り換えスイッチをAVアンプに合わせます。SC-LX72は AVアンプ を押します。本取扱説明書にて「リモコンをAVアンプ操作モードにする」という操作手順のときは、それぞれ上記の操作を行ってください。

スピーカーの自動設定を行う ～フルオート MCACC ～

本機のフルオートMCACCでは、従来のマニュアル調整では難しかったさまざまな設定を、自動で高精度に測定、設定することができます。スピーカーから出力されるテストトーンを付属のセットアップ用マイクで測定し、解析します。フルオートMCACCでの測定項目と全体の流れは右記のとおりです。

右記①～⑩の測定／解析にかかる時間

合計３～７分程度

測定中は大きな音でテストトーンが出力されます。近隣住宅や小さなお子様などへのご配慮をお願いします。

- Surr Back System の設定
- 測定、設定値の保存先選択

初期測定（測定環境のチェック）

① 暗騒音（部屋の騒音）の測定
② マイク感度の診断
③ 各 ch のスピーカー有り無し、および極性の判定

お客様によるスピーカーの有り無し、および極性判定結果の確認(または修正)

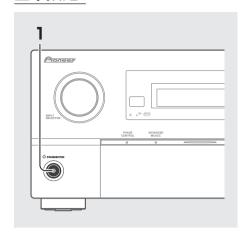
システム全体の解析 / 測定

④ スピーカーシステム
（各 ch の低域再生能力を判定）
⑤ スピーカーの出力レベル
（各 ch の出力バランスを補正）
⑥ スピーカーまでの距離
（最適なディレイ値を解析）
⑦ 定在波制御
（定在波の影響を軽減）
⑧ 残響特性の測定
⑨ 視聴環境の周波数特性
（出力音声の音色を統一）

スピーカー位相乱れの解析 / 測定

⑩ スピーカーの群遅延特性
（高域に対する低域の遅れを補正）

- 入力がiPod USBまたはHOME MEDIA GALLERYになっているときは、自動設定を行うことができません。また、ZONE 2やZONE 3がONのときも自動設定を行うことができません。
- 測定は静かな環境で行ってください。
- セットアップ用マイクは、三脚などを使用してリスニングポジションの耳の高さに設置してください。(三脚が無い場合は、なるべく三脚に代わるものを用意してください。テーブルやソファの上などに置くと、正しく測定できない場合があります。)
- スピーカーとリスニングポジション(マイク)の間に障害物があると、正確に測定できない場合があります。
- 測定中はリスニングポジションから離れて、各スピーカーの外側からリモコンで操作を行ってください。
- 自動設定中に静止画面を5分間放置すると画面にスクリーンセーバー機能が働きますが、いずれかのボタンを押すことで再び同じ画面を表示します。
- 測定を途中で中断したときは、それまでの測定内容は確定されません。

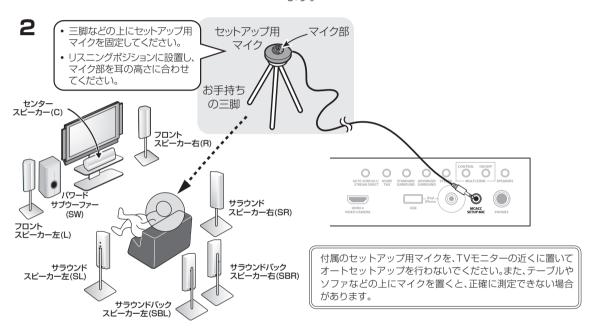
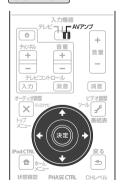
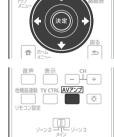
基本設定

1 本機とテレビの電源を入れる。

本体の⏻ STANDBY/ONボタンを押します。

- サブウーファーを接続しているときは、測定のためサブウーファーの電源を入れてボリュームレベルを適度に上げておいてください。
- テレビに本機のGUIメニュー画面が表示されるようテレビ側の入力切換を合わせてください。

2 付属のセットアップ用マイクを接続する。

リスニングポジションにマイクを配置します。
マイクの接続は以下のように行います。
マイクを差し込むとフルオートMCACC画面が表示されます。

付属のセットアップ用マイクを、TVモニターの近くに置いてオートセットアップを行わないでください。また、テーブルやソファなどの上にマイクを置くと、正確に測定できない場合があります。

SC-LX82

SC-LX72

3 リモコンをAVアンプ操作モードにしてから、⬆ボタンでSurr Back Systemを選択して、⬅➡ボタンでサラウンドバックスピーカー端子の用途を選ぶ。

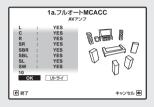
Surr Back Systemの項目は、用途によって以下の設定を選択します。

- ノーマルサラウンド接続の場合：[ノーマル]
- バイアンプ接続の場合：[Front Bi-Amp]
- ゾーン2接続の場合：[ZONE 2]
- スピーカーB接続の場合：[Speaker B]

詳しくは、「スピーカーの配置/使用パターンを選ぶ」(→20ページ)をご覧ください。

4

5

6

エラーが表示されたら

判定結果でエラーが表示された場合は、スピーカーの接続を間違えている可能性があります。[リトライ]しても結果が同じような場合は一度電源を切り、スピーカーの接続を確認してください。また、途中で測定エラーによる警告が表示されている場合がありますので、そのときは画面の指示に従ってください。指示の詳しい内容については「ホームメニューでのMCACC(音場補正)時に表示されるメッセージの意味」(→158ページ)をご覧ください。

スピーカー有り無しの確認画面で、SWを「NO」から「YES」に直して決定すると、サブウーファーのレベルを確認するためにサブウーファーのみ再測定を行います。

4 ⬆⬇ボタンで[スタート]を選択して決定する。

オートセットアップの自動測定に進みます。
手順5へお進みください。

注 意
オートセットアップのテストトーンは大音量です。小さなお子様が近くにいる場合などはご注意ください。
ボリュームを下げることもできますが、正しく設定されない場合があります。

測定／設定値の保存先(EQ：SYMMETRYの保存先)を変更したいときは、⬆ボタンで項目を選択し、⬅➡ボタンで内容を変更してから[スタート]を選択します。

5 自動測定が開始されます。

最初に初期測定(測定環境チェック)が行われます。
暗騒音：暗騒音(部屋の騒音)の測定
マイクロフォン：マイクの感度を診断
スピーカー YES/NO：各スピーカーの有り無し、および極性の判定
「暗騒音」および「マイクロフォン」のチェックでエラーが表示されたときは、測定環境およびマイクの接続をもう一度確認し、[リトライ]を選んでもう一度測定することをお勧めします。➡で[次へ進む]を選択し、次の測定へ進むこともできます。

6 スピーカー有り無しの確認画面になります。

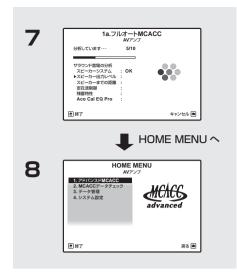
スピーカーの判定結果にエラーや逆相がなく、確認画面で何も操作がないときは10秒後に自動で手順7へ進み、オートセットアップが再開されます。
スピーカー有り無し判定については、以下の表をご覧ください。

スピーカー有り無し確認画面の見かた

有無 / スピーカー	接続している	接続していない	規定外の接続
L/R フロント左右	YES	エラー	– – –
C センター	YES	NO	– – –
SL/SR サラウンド左右	YES	NO	エラー
SBL/SBR サラウンドバック	YES	NO または – – –	エラー
SW サブウーファー	YES	NO	– – –

スピーカー有り無し判定結果が正しいとき
[OK]を選んで決定ボタンを押します。

もう一度自動測定をやり直すとき
[リトライ]を選んで決定ボタンを押します。

スピーカー有り無し判定結果が間違っているとき
[リトライ]を選んでもう一度自動測定をやり直してみてください。それでも間違ってしまうときは、⬆⬇⬅➡ボタンで正しい設定に直したあと決定ボタンを押します。

フルオートMCACCで測定した部屋の残響特性を確認することができます(→125ページ)。ここでは補正後の残響特性を予測値で表示します。実測による補正後の残響特性を確認したい場合は、残響特性の測定を行ってください(→125ページ)。

逆相と表示された場合は、スピーカー接続の極性(+/−)が間違っている可能性があります。

接続が間違っているとき

電源を切って電源コードをコンセントから抜き、スピーカーを正しく接続し直してください。接続が終わったら、もう一度フルオートMCACCを行ってください。

接続が正しいとき

さまざまな要因により逆相と表示される可能性があります(→156ページ)。その場合は、[次へ進む]を選んで決定ボタンを押してください。

7 補正用測定が開始されます。

スピーカーシステム：各スピーカーの低域再生能力判定
スピーカー出力レベル：各chの出力バランスを補正
スピーカーまでの距離：スピーカーまでの距離を解析
定在波制御：定在波の影響を軽減
残響特性：残響特性の測定
Aco Cal EQ Pro：出力音声の音色を統一
群遅延特性：スピーカーの群遅延測定
これらの自動設定には接続しているスピーカーの数によって3 ～ 7分程度かかりますので、手順8の画面になるまでしばらくお待ちください。

8 HOME MENU画面が表示されたら自動測定は終了です。

必ずセットアップ用マイクを本機から抜いてください。

入力端子の割り当てを変更する

機器の接続をする場合は、「他機器の接続を行う前に」(→26ページ)の表をご覧になり、入力ファンクションが割り当てられた端子に接続することをお勧めします。それ以外の接続をした場合は、各入力ファンクションの入力端子の割り当てを変更します。
そのほか、以下の接続を行ったときも必ず設定を行ってください。

- **リアパネルのデジタル音声入力端子に記載された工場出荷時の設定と異なる接続をしたとき。**
  →デジタル音声入力の設定(Digital In)
- **HDMI1 ～ 3端子に接続したHDMI対応機器を、HDMI1 ～ 3以外の入力で再生したいとき。**
  →HDMI入力の設定(HDMI Input)
  HDMI入力の設定をする場合は、KURO LINK設定(→86ページ)をOFFにしてください。
- **コンポーネントビデオ映像入力端子、またはD4ビデオ映像入力端子に映像機器を接続したとき。**
  →コンポーネント/D4ビデオ映像入力の設定(Comp/D In)

SC-LX82　SC-LX72

1 **リモコンをAVアンプ操作モードにする。**

SC-LX82:　SC-LX72:

入力機器
テレビ　AVアンプ

2 **ホームメニューボタンを押す。**
ホームメニュー画面が表示されます。

3 **[4. システム設定]を選んで決定する**

4 **[b. 入力端子の設定]を選んで決定する。**

5 **変更したい入力ファンクションを選ぶ。**

6 **変更したい設定を選んで、割り当てたい入力端子を設定する。**
たとえば、光デジタル端子(IN2)を使ってDVDプレーヤーを接続したときは、「入力」で「DVD」を選び「Digital In」の設定を[OPT-2]に変更します。また、D4 VIDEO IN1に入力した映像信号を再生したいときは、「Comp/D In」の設定を[IN-1]に設定します。

7 **戻るボタンを押す。**
[入力端子の設定]を終了します。
ホームメニューを終了するときは、ホームメニュー を押します。

- コンポーネント端子の使用については、「映像の接続について」(→27ページ)をご覧ください。
- 同じ入力ファンクションで複数の機器を選択することはできません。
- 「- - -」と表示されているときは割り当てられる入力端子がないことを表しています。

3

HOME MENU
AVアンプ
1. アドバンスドMCACC
2. MCACCデータチェック
3. データ管理
4. システム設定

4

5

6

基本再生

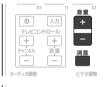
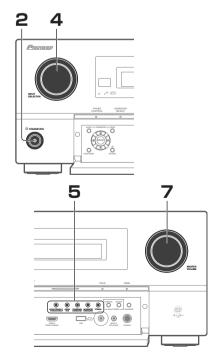
重要

SC-LX82とSC-LX72では付属のリモコンをAVアンプ操作モードにする方法が異なります。SC-LX82はリモコン操作モード切り換えスイッチをAVアンプに合わせます。SC-LX72は AVアンプ を押します。本取扱説明書にて「リモコンをAVアンプ操作モードにする」という操作手順のときは、それぞれ上記の操作を行ってください。

アンプから音を出す ～基本再生～

接続した機器を再生するときの手順です。本機では、「音声入力信号の切り換え」(→49ページ)で入力信号を選んで、「リスニングモードでいろいろな音を楽しむ」（→55ページ)でリスニングモードを選ぶことが主な操作です。

SC-LX82

SC-LX72

1 再生する機器の電源を入れる。

2 AVアンプ 本機の電源を入れる。

（本体の場合は、⏻STANDBY/ONを押します。）

3 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

SC-LX82：入力機器 テレビ AVアンプ　SC-LX72：AVアンプ

4 再生する機器を選ぶ。

SC-LX82：

SC-LX72：入力切換 1 2

ボタンを押すたびに入力機器が切り換わります(本体の場合はINPUT SELECTORで選択します)。

マルチコントロールボタンで直接選択することもできます。

また、必要に応じて音声入力信号の種類を選びます。「音声入力信号の切り換え」（→49ページ）

5 お好みのリスニングモードを選ぶ。

「リスニングモードでいろいろな音を楽しむ」（→55ページ）

SC-LX82：THX、AUTO/ALC/DIRECT PGM、STEREO メニュー、STANDARD、ADV SURR

SC-LX72：AUTO/ALC/DIRECT HDD、STEREO DVD、STANDARD、ADV SURR、THX

6 再生機器の再生を開始する。

7 音量を調節する。

SC-LX82：＋ 音量 －　消音　SC-LX72：音量 ＋ －　消音

－－－ dB（最小値)から＋12 dB（最大値)

の範囲で調節できます(本体の場合はMASTER VOLUMEで調節します)。

一時的に音を消したいときは、消音ボタンを押します。もう一度押すか、音量を調節することで解除します。

音量について

- MCACCなどにより正確にチャンネルレベルを補正した場合、0 dBが映画館での再生音量とほぼ同等になります。(0 dBは大音量です。近隣住宅や小さなお子様などへのご配慮をお願いします。）
- 大音量が出力されないように、最大音量を制限することができます。「音量制限を設定する」(→139ページ)をご覧ください。

音声入力信号の切り換え

本機では各入力についてアナログとデジタルの入力信号を切り換えることができます。

SC-LX82　SC-LX72

- デジタル入力端子、およびHDMIが割り当てられていない機器の音声入力は、ANALOGに固定されています。
- 非対応のデジタル信号は再生できません。その場合はアナログ接続を行い、音声入力でANALOGを選択してください。
- カラオケ機器のマイク音声、およびアナログオーディオのみ収録されているLDの音声はデジタル出力されません。これらを再生するには必ずANALOGを選択してください。

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

SC-LX82：　SC-LX72：

2 再生したい入力信号を選択する。

SC-LX82：音声切換 1

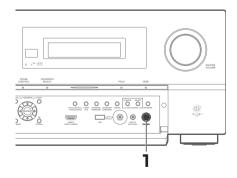
SC-LX72：音声切換 4

音声切換ボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

→ AUTO → ANALOG → DIGITAL → HDMI → PCM →

- AUTOにしたときは、HDMI→DIGITAL→ANALOGの優先順位で自動的に入力信号を選択します。
- AUTOが選択されているとCDなどのPCM音声を再生したときに曲の頭が切れることがあります。その場合はPCMを選択してください。
- PCM選択時は、PCM音声のみ出力します。PCM音声専用のため、PCM以外の信号では音が出ずにノイズが出ることがあります。
- 「HDMI音声出力の設定」（→66ページ）で「THROUGH」を設定していると、音声は本機からではなくテレビから出力されます。

- 音声切換ボタンでANALOGを選択した状態でDTS対応のLDを再生すると、DTSの原信号がそのまま再生されるため、ノイズが発生します。入力信号は必ずDIGITALを選択してください。
- DVDプレーヤーの機種によっては、再生できるデジタル信号に制限があります（DTS信号を出力しないなど）。詳しくは、お使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

ヘッドホンで聴く

1 ヘッドホンをPHONES端子に差し込む。

差し込むとスピーカーからは音が出なくなります。

- リスニングモードは「STEREO」、「ALC」、「OPTIMUM SURROUND」「PURE DIRECT」または「PHONES SURROUND」が選択できます。
- 各リスニングモードの効果は2chにダウンミックスされます。
- ヘッドホンを差し込むとスピーカーからは音が出なくなります。ただし、MULTI CH IN入力のときはサブウーファーからのみ音が出ます。
- MULTI CH IN入力のときは、L/Rチャンネルの音声のみをヘッドホンから出力します。
- ヘッドホンを差し込んでいるときは、ホームメニュー画面で各種設定を行うことはできません。

iPodをつないで再生する

本機とiPodを接続して、iPodの音楽や映像を本機で楽しむことができます。
iPodの接続については、「iPodを接続する」(→41ページ)をご覧ください。

iPod の音楽を再生する

SC-LX82

SC-LX72

2

- メインゾーン

- サブゾーン

1 本機とテレビの電源を入れる。

2 (SC-LX82のみ)リモコンを入力機器操作モードにする

入力機器 テレビ AVアンプ

3 iPod USBボタンを押す。

SC-LX82: USB iPod

SC-LX72: iPod USB

フロントパネルの表示部に「Loading」と表示され、iPodが正しく接続されているかどうかの確認が行われます。
接続が完了すると、テレビ画面にiPodのトップメニューが表示されます。
iPod再生中または一時停止中に本機と接続した場合は、自動で再生が始まります。

- iPod USBボタンを押したあと、フロントパネル表示部に「No Device」と表示された場合は、電源を切ってから本機とiPodの接続をやり直してみてください。

4 再生したいカテゴリーを選んで決定する。

カテゴリーは以下の中から選びます。
選んだカテゴリーのリストが表示されます。
Playlists
Artists
Albums
Songs
Podcasts
Genres
Composers
Audiobooks
Shuffle Songs

5 再生したいリスト(ジャンル、アルバムなど)を選んで決定する。

6 手順5を繰り返して、聞きたい曲を再生する。

再生機能を使っていろいろな再生が可能です。詳しくは「再生機能について」(→51ページ)をご覧ください。

- 本機は、iPod nano、iPod classic、iPod touch、iPhoneの音声および映像の再生に対応しています。第5世代以降のiPodは音声の再生のみ対応しています。ただし、モデルによっては一部機能が制限されます。
- iPod shuffleには対応しておりません。
- iPodのソフトウェアが古いと正常に動作しないことがあります。必ず最新のiPodソフトウェアでお使いください。
- iPodは、著作権のないマテリアル、または法的に複製･再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製･再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。
- パイオニア製品からiPodのイコライザーを操作することはできません。本機にiPodを接続する前に、iPodのイコライザーを「オフ」に設定することをお勧めします。
- 本機とiPodを組み合わせてご使用の際、iPodのデータに不具合が生じても、当社は一切の責任を負うことができませんのであらかじめご了承ください。
- 本機のGUI画面で表示できない文字がiPodに記録されている場合、その文字は「＃」で表示されます。また、ゾーン2画面で表示できる文字は英数字のみです。

再生機能について

■ 再生画面について

ファイルの再生を行うと以下の画面が表示されます。

- メインゾーン

- サブゾーン

■ iPodの操作について

マルチコントロールボタンのiPod USBを押すとリモコンがiPod USB操作モードになり、リモコンで以下の操作ができます。

ボタン	機能
▶	再生を開始します。
II	一時停止 / 一時停止解除します。
◀◀ / ▶▶	押し続けている間、早戻しまたは早送りをします。
I◀◀	再生中のトラックの先頭に戻ります。続けて押すと、前のトラックに戻ります。
▶▶I	次のトラックの先頭に進みます。
（リピート）	リピート再生を設定します。押すたびに1曲リピート、リピートオール、リピートオフに切り換わります。
（シャッフル）	シャッフル再生を設定します。押すたびにシャッフル曲、シャッフルアルバム、シャッフルオフに切り換わります。

ボタン	機能
表示	フロントパネル表示の内容を切り換えます。
←/→	フォルダー/ファイルリストの階層を前後へ切り換えます。
↑ / ↓	Audiobook を再生中に再生の速さを変更します。 やや速く ↔ ノーマル ↔ やや遅く
トップメニュー	トップメニューを表示します。
戻る	前の画面に戻ります。

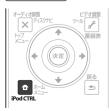
iPod の操作を切り換える

iPodの操作を本機とiPod本体とで切り換えることができます。

SC-LX82

SC-LX72

1 SC-LX82：

SC-LX72：

iPod CTRL

iPod CTRLを押して、操作をiPod側に切り換える。

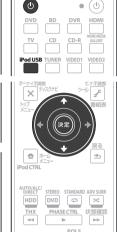
iPod本体で操作できるようになり、本体画面が表示されます。本機での操作はできなくなり、GUI画面は表示されません。

2 **もう一度iPod CTRLを押して、操作を本機側に切り換える。**

- 本機能はiPod第5世代およびiPod nano第1世代には対応しておりません。
- iPodの操作をiPod側に切り換えて、iPodで映像を再生すると、本機を通して映像を見ることができます。

USBメモリーを再生する

お手持ちのUSBメモリーを本機に接続することで、USBメモリーに記録されている音楽ファイルや写真ファイルを本機で再生することができます。音楽ファイルはステレオまたはモノラル音声で再生します。
USBメモリーの再生可能なファイルフォーマットは「入力ファンクションの対応フォーマット」(→148ページ)をご覧ください。
USBメモリーの接続については、「USBメモリーを接続する」(→41ページ)をご覧ください。

SC-LX82 SC-LX72

1 本機とテレビの電源を入れる。

2 (SC-LX82のみ)リモコンを入力機器操作モードにする

3 iPod USBボタンを押す。

SC-LX82: USB iPod
SC-LX72: iPod USB

フロントパネルの表示部に「Loading」と表示され、USBメモリーが正しく接続されているかどうかの確認が行われます。
接続が完了すると、テレビ画面にUSBトップメニューが表示されます。
- 音楽の再生については、「音楽ファイルを再生する」(→53ページ)を、写真の再生については「写真ファイルを再生する」(→54ページ)をご覧ください。

2
- メインゾーン

- サブゾーン

■ エラーメッセージについて

USBメモリーの消費電力が大きすぎると「Over Current」と表示されます。この場合、下記の操作を行ってみてください。
- 本機の電源を切ってから、再度電源を入れてみてください。
- 本機の電源を切ってからUSBメモリーを抜き、再度USBメモリーを接続して電源を入れてみてください。
- ACアダプターが付属しているUSBメモリーをお使いの場合は、ACアダプターを接続して使用してみてください。

上記の操作を行っても「Over Current」が表示されるときは、USBメモリーが本機に対応していません。

- 本機とパソコンをUSBケーブルで接続して音楽ファイルを再生することはできません。本機が対応しているUSBメモリーは、外付けハードディスクや携帯フラッシュメモリー、デジタルオーディオ再生機(FAT12、FAT16、FAT32のフォーマットに対応)などのUSBマスストレージクラスに属する機器です。
- 本機ではすべてのUSBメモリーの再生、および電源の供給を保証できない場合があります。また、本機と接続したことで、USBメモリーのファイルが万一損失した場合、当社は一切の責任を負うことができませんので、あらかじめご了承ください。
- 容量の大きいUSBメモリーを接続したときは、読み込みに多少時間がかかることがあります。
- 本機はUSBハブには対応していません。
- 本機で再生できないファイルが選択された場合は、自動的に次の再生可能なファイルが再生されます。
- 曲のタイトルがファイルに記録されていない場合は、ファイル名がGUI画面に表示されます。アルバム名やアーティスト名が記録されていない場合は、それらは表示されません。
- 本機のGUI画面で表示できない文字がUSBメモリーに記録されている場合、その文字は「#」で表示されます。また、ゾーン2画面で表示できる文字は英数字のみです。
- GUI画面を表示させるには、本機の映像出力端子とテレビの入力端子をHDMIケーブルまたはビデオコードで接続してください。
- USBメモリーに収録された最後の曲まで再生すると、再生が終了します。
- 著作権保護のかかった音楽ファイルは再生できません。

音楽ファイルを再生する

USBメモリーに収録されている音楽ファイルを再生します。8階層のフォルダーまで、30 000フォルダー /ファイルまで表示・再生できます。

1

USB Top
AVアンプ
音楽
写真
スライドショー設定
1 / 3

2

1 USBトップメニューから[音楽]を選んで決定する。

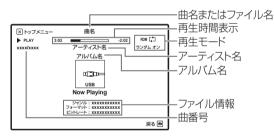
2 再生したいフォルダを選んで決定する。

3 手順２を繰り返して、聞きたい曲を再生する。

音楽再生機能について

■ 再生画面について

ファイルの再生を行うと以下の画面が表示されます。

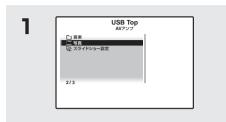
- メインゾーン

- サブゾーン

■ USBメモリーの操作について

マルチコントロールボタンのiPod USBを押すとリモコンがiPod USB操作モードになり、リモコンで以下の操作ができます。

ボタン	機能	ボタン	機能
▶	再生を開始します。	(ランダム)	ランダム再生を設定します。押すたびに ランダムオン、ランダムオフに切り換わります。
❚❚	一時停止 / 一時停止解除します。		
◀◀ / ▶▶	押し続けている間、早戻しまたは早送りをします。	表示	フロントパネル表示の内容を切り換えます。
I◀◀	再生中のトラックの先頭に戻ります。続けて押すと、前のトラックに戻ります。		
▶▶I	次のトラックの先頭に進みます。	⬅/➡	フォルダー/ファイルリストの階層を前後へ切り換えます。
(リピート)	リピート再生を設定します。押すたびに 1曲リピート、リピートフォルダー、リピートオール、リピートオフに切り換わります。	トップメニュー	USB TOPメニューを表示します。
		戻る	前の画面に戻ります。

写真ファイルを再生する

USBメモリーに収録されている写真ファイルを再生します。8階層のフォルダーまで、30 000フォルダー /ファイルまで表示・再生できます。

- スライドショーを一時停止したまま5分経過すると、リスト画面に戻ります。
- 写真ファイルはサブゾーンでは再生できません。

1 **USBトップメニューから[写真]を選んで決定する。**

2 **再生したいフォルダを選んで決定する。**

3 **手順2を繰り返して、見たい写真を再生する。**
選んだ写真が再生され、全画面表示でスライドショー再生が始まります。

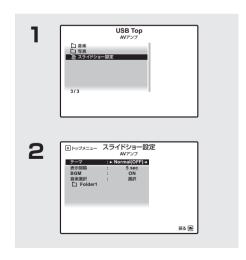
■ 写真ファイルの操作について

写真ファイル再生中は以下の操作ができます。

ボタン	機能
決定、▶	写真の表示とスライドショー再生を始めます。
戻る、⬅	再生を停止し、リスト画面に戻ります。
⏮ *	前の写真に戻ります。
⏭ *	次の写真に進みます。
⏸ *	スライドショーを一時停止/一時停止解除します。
表示 *	写真情報を表示します。

* スライドショー設定のテーマが「Normal(OFF)」に設定されているときのみ使用できます。

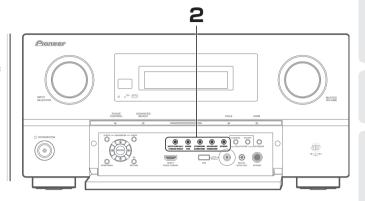
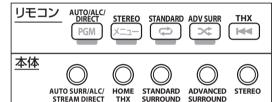
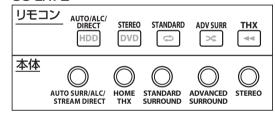
スライドショーの設定を行う

写真ファイルのスライドショー再生について各種設定を行います。

1 **USBトップメニューから[スライドショー設定]を選んで決定する。**

2 **⬆⬇で設定したい項目を選んで、⬅➡で設定を変更する。**
テーマ：スライドショーに効果を加えます。
表示間隔：スライドショーの表示間隔を設定します。テーマの設定によっては、この項目は設定できないことがあります。
BGM：USBメモリーに収録された曲を再生しながら、写真を表示します。
音楽選択：BGMをONにしたときに、再生する曲を選択します。

3 戻る **戻るボタンを押して終了する。**
USBトップメニューに戻ります。

リスニングモードでいろいろな音を楽しむ

再生機器からの信号にいろいろな音場効果を加えることができます。

SC-LX82：

SC-LX72：

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2 リスニングモードを選ぶ。

タイプによっては、ボタンを押すたびにモードの種類を切り換えて選択できます。
それぞれのリスニングモードについて以下の設定が選べます。

モードのタイプ	ボタン	概要	選択肢	用途
HOME THX	リモコン SC-LX82：THX SC-LX72：THX 本体 HOME THX	**映画の再生に適したモードです。** デコード処理後THX独自技術を付加することで、映画館や収録スタジオの音場が再現されます。 ＊ THX時は、「オーディオ調整機能」の一部使用が制限されます。 （入力信号や設定により、リスニングモードの選択肢が変わります。）	**■2ch信号入力時**	
			ⅮⅮPro Logic IIx MOVIE+THX CINEMA	映画
			ⅮⅮPro Logic+THX CINEMA	古い映画
			Neo:6 CINEMA+THX CINEMA	映画
			ⅮⅮPro Logic IIx MUSIC+THX MUSIC	音楽
			Neo:6 MUSIC+THX MUSIC	音楽
			ⅮⅮPro Logic IIx GAME+THX GAMES	ゲーム
			THX Ultra2/Select2* GAMES	ゲーム
			■マルチチャンネル信号入力時	
			THX Surround EX	映画/音楽
			ⅮⅮPro Logic IIx MOVIE+THX CINEMA	映画
			THX Ultra2/Select2* CINEMA	映画
			ⅮⅮPro Logic IIx MUSIC+THX MUSIC	音楽
			THX Ultra2/Select2* MUSIC	音楽
			THX Ultra2/Select2* GAMES	ゲーム

※ SC-LX82はUltra2、SC-LX72はSelect2になります。

リスニングモード

<table>
<tr><th>モードのタイプ</th><th>ボタン</th><th>概要</th><th>選択肢</th><th>用途</th></tr>
<tr><td>STANDARD SURROUND</td><td>リモコン
SC-LX82：
STANDARD
SC-LX72：
STANDARD
本体
STANDARD SURROUND</td><td>いつでもサラウンド再生で楽しみたい方に適したモードです。
サラウンド再生のためのデコードを行います。2chソースはマトリックス･サラウンド･デコードをします。
（入力信号や設定により、リスニングモードの選択肢が変わります。）
• サラウンドバックスピーカーが1本の接続（設定）の場合、5.1ch信号入力時でも ◻◻Pro Logic IIx MOVIEは選択できません。</td><td>■2ch信号入力時
◻◻Pro Logic IIx MOVIE
◻◻Pro Logic IIx MUSIC
◻◻Pro Logic IIx GAME
◻◻Pro Logic
Neo:6 CINEMA
Neo:6 MUSIC
Neural THX
■マルチチャンネル信号入力時
◻◻Pro Logic IIx MOVIE
◻◻Pro Logic IIx MUSIC
Dolby Digital EX
DTS-ES
DTS Neo:6</td><td>
映画
音楽
ゲーム
古い映画
映画
音楽
音楽

映画
音楽
映画/音楽
映画/音楽
映画/音楽</td></tr>
<tr><td>ADVANCED SURROUND</td><td>リモコン
SC-LX82：
ADV SURR
SC-LX72：
ADV SURR
本体
ADVANCED SURROUND</td><td>ソースに応じた多彩なサラウンドが楽しめるモードです。
デコード処理とパイオニア独自の技術を組み合わせたサラウンド再生モードです。
数種類からの選択が可能です。
（デコード処理を変更することはできません。）</td><td>ACTION
DRAMA
SCI-FI
MONOFILM
ENT.SHOW
EXPANDED
TV SURROUND
ADVANCED GAME
SPORTS
CLASSICAL
ROCK/POP
UNPLUGGED
EXT.STEREO
PHONES SURROUND</td><td>アクション映画
ドラマ
SF映画
モノラル音声の映画
ミュージカル/映画
映画/音楽
TV放送
ゲーム
スポーツ
クラシック
音楽
アコースティック
音楽
ヘッドホン使用時</td></tr>
<tr><td>STEREO</td><td>リモコン
SC-LX82：
STEREO
メニュー
SC-LX72：
STEREO
DVD
本体
STEREO</td><td>すべての信号を2ch（最大2.1ch）で再生します。
通常のステレオ再生のほかに、フロントサラウンド･アドバンスではフロント左右の2本のスピーカーだけでサラウンド感を楽しめます。
• STEREOモードでは、設定や入力ソースによっては、サブウーファーからも音が出力される場合があります。</td><td>STEREO
F.S.SURR FOCUS
F.S.SURR WIDE</td><td>音楽
映画/音楽
映画/音楽</td></tr>
<tr><td>AUTO SURROUND/ ALC/ STREAM DIRECT</td><td>リモコン
SC-LX82：
AUTO/ALC/ DIRECT
PGM
SC-LX72：
AUTO/ALC/ DIRECT
HDD
本体
AUTO SURR/ALC/ STREAM DIRECT</td><td>入力信号に収録されたチャンネル数に応じて、再生チャンネル数を自動的に選択します。
ALCは、iPodやUSBメモリー、レコーダーなど、複数のソースを収録した機器の音声を入力しているときに適しています。
（工場出荷時はAUTO SURROUNDが選ばれています。）</td><td>AUTO SURROUND
ALC
DIRECT
PURE DIRECT

OPTIMUM SURROUND</td><td>すべてのソース
音量差のあるソース
すべてのソース
アナログ信号、
PCMソース、
SACD
すべてのソース</td></tr>
</table>

より詳しくは「リスニングモードの詳細と出力チャンネル数の一覧」（→147ページ）をご覧ください。

HOME THX および STANDARD SURROUNDモードについて

以下の4つの条件の組み合わせにより、選択肢が変化します。
- Surr Back Systemの設定(→132ページ)
- 入力信号の種類
- 接続(設定)したサラウンドバックスピーカーの本数(→132ページ)
- SBch処理の設定(→59ページ)

「リスニングモードの詳細と出力チャンネル数の一覧」(→147ページ)もご覧ください。

ADVANCED SURROUNDモードについて

理想の視聴空間形状や、各ソフトに収録された音声の研究などにより開発された、パイオニアオリジナルのサラウンドモードです。映画/音楽/TV放送/ゲームなど多岐にわたるいかなるソフトでも、快適なサラウンド再生が提供できるよう、多種のモードをご用意いたしました。各ソースはデコード処理(2chソースはマトリックス･デコード処理)後、それぞれに合わせたオリジナルの処理を加えています。
- デコード処理の方法は、各モードに最適な技術を組み合わせてありますので、お客様が変更することはできません。

STEREOモードについて

- 設定や入力ソースにより、サブウーファーからも音が出力される場合があります。

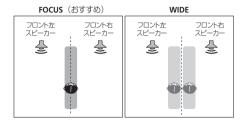
ALC(オートレベルコントロール)モードについて

- 音量差を本機で自動的に均一にして再生します。「オーディオ調整」のEFFECT設定で、効果を調整することができます。(→67ページ)

OPTIMUM SURROUNDモードについて

- OPTIMUM SURROUNDモードでは、ホームシアター環境のように、サウンドクリエーターが制作時に想定した音量よりも小さい音量で再生する場合でも、想定した音量で再生したときと同じ印象が得られるように、シーン毎に音声を最適化します。(→56ページ)

FRONT STAGE SURROUND(フロントサラウンド･アドバンス:F.S.SURR)モードについて

F.S.SURR FOCUSまたはF.S.SURR WIDEを選ぶことで、左右のフロントスピーカーとサブウーファーのみで自然なサラウンド再生を行います。それぞれの効果は以下のとおりです。
- F.S.SURR FOCUS:臨場感のある自然なサラウンド効果が得られます。フロントスピーカーから等距離の直線上(前後は移動可能)で視聴してください。
- F.S.SURR WIDE:FOCUSモードよりも横に広い範囲でサラウンド効果が得られます。お二人で横に並んで視聴するときに便利です(この場合、フルオートMCACC(→43ページ)でオートセットアップを行うことで、より自然なサラウンド効果が得られます)。

AUTO SURROUND/ALC/STREAM DIRECTモードについて

入力信号に収録されたチャンネル数に応じて、再生チャンネル数を自動的に選択します。
- CDなどの2ch信号入力時
  →ステレオ再生
- Dolby Surround信号入力時
  →DDPro Logic IIx MOVIEなど
- デジタル5.1ch信号入力時
  →Dolby Digital、DTSなど
- 6.1ch再生検出信号付きデジタルマルチch信号入力時
  →DDPro Logic IIx MOVIE、Dolby Digital EX、DTS-ES
- HOME MEDIA GALLERY入力でNeural Music Directにアクセスしているとき
  →Neural THX(→79ページ)

AUTO SURROUND、ALC、DIRECT、PURE DIRECTの4種類について、詳しくは「リスニングモードの詳細と出力チャンネル数の一覧」(→147ページ)をご覧ください。
- PURE DIRECTモードでは、スピーカーBからは音が出ません。
- PURE DIRECTモードでPCM以外のソースを再生すると、再生直前にノイズが出ることがあります。この場合はDIRECTかAUTO SURROUNDにすることをお勧めします。

デコードとは

デジタル信号処理回路などにより、圧縮記録されたデジタル信号を、もとの信号に変換させる技術です。また、2chの音源をマルチch化させたり、5.1ch信号を6.1chや7.1chに伸長させる技術もデコード(マトリックス・デコード)と呼ぶことがあります。

AUTO SURROUND/ALC/STREAM DIRECT 選択時の音の設定や機能対応表

以下の表で○のついている設定や機能は、設定されているとおりの内容が対応されることを表しています。○のついていない設定や機能は対応されないことを表し、（　）で記載されている内容は強制的にその設定になることを表します。

	AUTO SURROUND	ALC	OPTIMUM SURROUND	STEREAM DIRECT			
				DIRECT	PURE DIRECT		
					アナログ信号入力時*1	PCM 2ch 入力時*2	デジタル信号入力時
スピーカーシステム	○	○	○	○			○
スピーカー出力レベル	○	○	○	○	○	○	○
スピーカーまでの距離	○	○	○	○			○
Acoustic Cal EQ	○	○	○	○			(OFF)
定在波制御	○	○	○	○			(OFF)
Full Band Phase Control	○	○	○	○			(OFF)
Phase Control	○	○	○	○			(OFF)
Boundary Gain Compensation	○	○	(OFF)	○			○
Xカーブ	○	○	(OFF)	○			(OFF)
サウンドディレイ、オートディレイ	○	○	○	○			○
ハイビット (SC-LX72のみ)	○	○	(OFF)	○			(OFF)
アナログATT	○	○	○	○			—
DIGITAL SAFETY	○		○	○			(OFF)
サラウンドバックch処理	○	○	○	(AUTO)			(AUTO)
バーチャルサラウンドバックモード	○		○	(OFF)			(OFF)
デジタルノイズリダクション機能	○		(OFF)	(OFF)			(OFF)
ミッドナイト／ラウドネスモード	○		(OFF)	(OFF)			(OFF)
低音の調整／高音の調整	○	○	(0 dB)	(0 dB)			(0 dB)
ダイアログエンハンスメント機能	○		(OFF)	(OFF)			(OFF)
ダイナミックレンジコントロールの設定	○	○	○	(OFF)			(OFF)
LFEアッテネーターの設定	○	○	○	○			○
SACDゲインの設定	○	○	○	○			
サウンドレトリバー機能	○	○	(OFF)	(OFF)			(OFF)
センターイメージの調整	○			○			○

*1 アナログ信号が、DSPを経由しないで直接アンプに入力されるモードです。（ANALOG DIRECT）

*2 PCM信号が、DSPを経由しないで直接D/A変換され、アンプに入力されるモードです。（PCM DIRECT）

- DIRECTとPURE DIRECTモード選択時は、SBch処理をONに設定することができません。この場合、AUTOまたはOFFが選択されるため、AUTO SURROUNDとはデコード状態が変わることがあります。詳しくは「リスニングモードの詳細と出力チャンネル数の一覧」(→147ページ)をご覧ください。
- マルチチャンネル信号入力時、すべてのスピーカーから音を出したいときは AUTO SURROUNDモードにして、SBch処理をONに設定することをお勧めします。

最適な設定でサラウンド再生する

サラウンドバック ch 処理を切り換える

サラウンドバックスピーカーを接続しているとき

SBch ON：サラウンド成分からサラウンドバック成分を生成するマトリックスデコード処理がオンになります。

SBch AUTO：サラウンド成分からサラウンドバック成分を生成するマトリックスデコード処理を自動で切り換えます。入力信号からサラウンドバックチャンネル信号を検出した場合のみ、マトリックスデコード処理を行います。

SBch OFF：サラウンド成分からサラウンドバック成分を生成するマトリックスデコード処理がオフになります。

サラウンドバックスピーカーを接続していないとき

Virtual SB ON：リスニングモードによって、仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出します。

Virtual SB AUTO：入力信号やリスニングモードによって、仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出します。

入力信号、リスニングモードの種類や組み合わせによって、サラウンドバックスピーカーからの音の出力が異なります。詳しくは「リスニングモードの詳細と出力チャンネル数の一覧」（→147ページ）の表をご覧ください。

Virtual SB OFF：仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出しません。

SC-LX82　SC-LX72

1　**リモコンをAVアンプ操作モードにする。**

SC-LX82：入力機器（テレビ／AVアンプ）

SC-LX72：AVアンプ

2　SC-LX82：SBch処理 5

SBch処理モードを選択する。

ボタンを押すたびに、ONとAUTOおよびOFFが切り換わります。

SC-LX72：SBch処理 7

- 以下のときはSBch処理モードまたはバーチャルサラウンドバックモードを切り換えることができません。
  - MULTI CH IN入力を選んでいるとき
  - 「スピーカー設定」（→132ページ）で、サラウンドスピーカーがNO（無し）に設定されている、または「Surr Back Systemの設定」（→132ページ）でSpeaker B、Front Bi-Amp、ZONE 2が選ばれているとき
  - 「オーディオ調整機能」（→65ページ）のHDMI音声出力を「THROUGH」に設定しているとき
  - サラウンドバックスピーカーが2本接続されている場合に、6.1chまたは7.1ch信号が入力されているとき
  - ヘッドホンを挿入しているとき
  - STREAM DIRECTモードのとき
  - STEREOまたはフロントサラウンド・アドバンスモードが選択されているとき
  - AUTO SURROUNDモードで入力信号が2chのとき
- サラウンドchが収録されていないソース（シーン）では、仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出すことはできません。

UP MIX機能を使う

本来の5.1chサラウンドチャンネルは斜め後方から聞こえるように収録されていますが、7.1chサラウンドの推奨スピーカー配置では、サラウンドスピーカーをリスニングポジションの真横に配置するため、5.1chのサラウンドチャンネル音声が真横から聞こえてしまいます。UP MIX機能では、サラウンドチャンネル音声をサラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーでミックスし、リスニングポジションの斜め後方から聞こえるように出力します。

- UP MIX機能は、7.1chスピーカーを16ページの推奨図の通りに配置したときに効果があります。
- スピーカーの配置場所や再生している音源によっては、効果が得られないことがあります。その場合はOFFに設定してください。

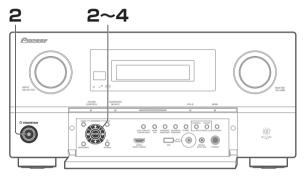
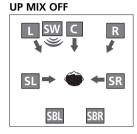
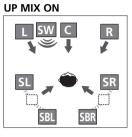
UP MIX OFF

UP MIX ON

UP MIX機能オン

UP MIX ◀OFF▶

UP MIX機能オフ

- ここでの設定に関わらず、DTS-HD信号を再生しているときは、UP MIX機能がONになります。
- UP MIX機能がONに設定されていても、入力信号やリスニングモードによっては、自動的にOFFになることがあります。

1 電源を切る(スタンバイ状態にする)。

2 ENTERを押しながら⏻STANDBY/ONボタンを押す。

表示部にRESET ◀NO ▶と表示されます。

3 ⬆/⬇ボタンを繰り返し押して、UP MIX ◀ON ▶を表示させる。

4 ⬅/➡ボタンを繰り返し押して、UP MIX ONまたはUP MIX OFFを選ぶ。

UP MIX ONに設定すると、フロントパネル表示部のUP MIXインジケーターが点灯します。

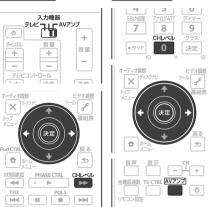
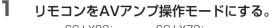
再生中にスピーカーの出力レベルを調整する

再生している音を聴きながら、チャンネルごとに出力レベルを調整できます。

SC-LX82　SC-LX72

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

SC-LX82：

SC-LX72：

2 スピーカーのチャンネルを選択する。

SC-LX82：CHレベル ▶▶

SC-LX72：CHレベル 0

ディスプレイに「L ◄+0.5dB►」などと表示されます。押すたびにチャンネルが切り換わります。

3 出力レベルを調整する。

−10.0 dBから+10.0 dBの範囲内で、0.5 dB間隔で調整できます。

アナログ入力信号の歪みを低減する

アナログ音声信号が過度に入力され（フロント表示部のOVERインジケーターが点灯して）音が歪んでしまうとき、入力信号レベルを下げて歪みを低減することができます。

SC-LX82　SC-LX72

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

SC-LX82：

SC-LX72：

2 アナログATTボタンを押す。

SC-LX82：アナログATT 8

SC-LX72：アナログATT 4

押すたびにインプットアッテネーター機能のONとOFFが切り換わり、ONのときにATTインジケーターが点灯します。

状況に応じて MCACC のメモリーを使い分ける

「フルオートMCACC」や「マニュアルMCACC」で、あらかじめ設定した音場補正(MCACC MEMORY)を選択します。

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

SC-LX82: 入力機器 テレビ AVアンプ
SC-LX72: AVアンプ

2 SC-LX82: MCACC 6
SC-LX72: MCACC 5

MCACC MEMORYを選ぶ。

押すたびにMCACC MEMORYが切り換わります。

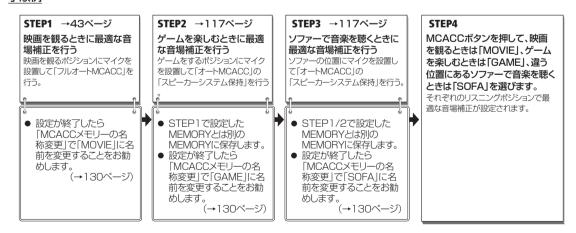
- スピーカーシステムの設定は、すべてのMCACC MEMORYで共通の設定です。
- 工場出荷時は「M1:MEMORY1」に設定されています。
- MCACCボタンを押してから⬅/➡ボタンで選ぶこともできます。
- ヘッドホン使用時には効果がありません。

いろいろな状況に合わせた音場補正で最適なサウンドを楽しむ

「映画鑑賞のときとゲームを楽しむときで座る位置が違う」という場合などは、それぞれのリスニングポジションでMCACC(音場補正)を行うと、常に最適な状態でサラウンドを楽しむことができます。
MCACCでは6個までメモリーを持つことができるため、音場ごとにあらかじめ測定を行い、再生時にそれらのMCACC MEMORYを選択してください。

活用例

- 映画はモニターから離れた位置で観たい
- ゲームはモニターの近くで楽しみたい
- 普段のリスニングポジションとは違う位置のソファーで音楽を聴きたい

手順例

各音場補正の設定(MCACC MEMORY)の名前を変更することができます。
たとえば、「SYMMETRY」、「ALL CH ADJ」、「FRONT ALIGN」のEQ補正を聞き比べたいときは、同じリスニングポジションでそれぞれの補正を行い、「MCACCメモリーの名称変更」(→130ページ)で名前を変更します。
それぞれ「SYMMETRY」、[ALL ADJ]、[F.ALIGN]と名前をつければ、MCACC MEMORYを選択する際に内容がわかりやすく便利です。

位相乱れを補正する

音の入り口から出口までの時間と位相を精密に管理することで、従来にない高音質なサウンドが実現できます。この「時間と位相を管理する」トータルコンセプトがパイオニアオリジナルの「フェイズコントロール」です。本機にはAVアンプで発生している低域の位相乱れ(群遅延)を補正する「Phase Control」機能と、スピーカーで発生している全帯域にわたる位相乱れ(群遅延)を補正する「Full Band Phase Control」機能を搭載しています。

- 工場出荷時は、Phase Control機能がONの状態です。フルオートMCACC(「スピーカーの自動設定を行う」(43ページ))を行うか、オートMCACCの「Full Band Phase Ctrl」(117ページ)を行うと、測定後Full Band Phase Control機能は自動的にONになります。Full Band Phase ControlをONにすることで、Phase Control機能もONになるので、通常はFull Band Phase Control:ONでのご使用をお勧めします。
- 位相とは2つの音波の時間的関係を表しています。2つの音波の山と山が合っている状態を位相が合っている、合っていない状態を位相がズレていると言います。

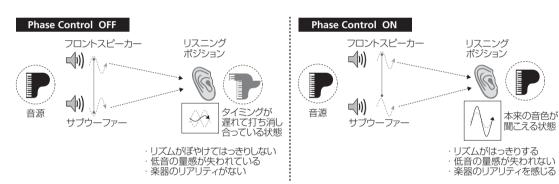
低域の位相乱れを補正する（Phase Control）

マルチチャンネル再生する際、LFE（超低域）信号や各チャンネルに含まれる低音成分はサブウーファーや他の最適なスピーカーに振り分けられる処理がされます。しかし、この処理には原理上、位相がズレてしまう周波数(群遅延)が発生するという問題があり、低域だけが遅れて聞こえたり他のチャンネルとの干渉により低音が打ち消されるなどの現象が発生します。本機では、Phase ControlをONにすることで、原音に忠実な力強い低音を再現できます。

SC-LX82

SC-LX72

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

SC-LX82: 入力機器 テレビ AVアンプ
SC-LX72: AVアンプ

2 PHASE CTRL ▶ PHASE CONTROLを選ぶ。

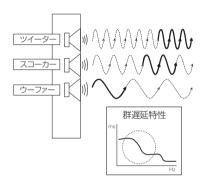
インジケーターが点灯します。
ボタンを押すたびにONとOFFが切り換わります。

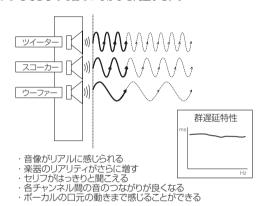
- Phase Control機能はヘッドホン使用時にも効果があります。
- サブウーファー本体にPHASE切換スイッチがついているときはプラス側(0°側)に設定してください。ただし、本機のPhase ControlをONにしても効果がわかりにくいときは、サブウーファーの固体差が考えられますので、効果の大きい方を選んでください。また効果がわかりにくいときは、サブウーファーの向きや場所を少しずつ変えてみることもお勧めします。
- サブウーファー内蔵のLowpassフィルタスイッチをOFFにしてください。OFFにできないサブウーファーの場合は、カットオフ周波数を高く設定してください。
- スピーカーの距離を正しく設定しないと、Phase Controlの効果が正しく出ない場合があります。
- 以下のときはPhase ControlモードをONにできません。
  – PURE DIRECTモードのとき
  – MULTI CH IN入力のとき
  – 「オーディオ調整機能」のHDMI音声出力を「THROUGH」に設定しているとき

全帯域にわたる位相乱れを補正する（Full Band Phase Control）

Full Band Phase Controlは、スピーカーの周波数位相特性を測定し、補正する機能です。一般的なオーディオ用のスピーカーでは、複数のスピーカーユニットで周波数帯域を分割して再生します。たとえば代表的な3wayスピーカーの場合、ツイーターで高域、スコーカー（ミッドレンジ)で中域、ウーファーで低域音声を出力します。この際、スピーカーは広帯域にわたって周波数振幅特性(いわゆるF特)がフラットになるよう設計されていますが、周波数位相特性はフラットにならないことが多く、音声信号再生時、高域に対して低域が遅れるという群遅延(帯域間での位相特性のズレ)が発生します。本機ではスピーカーから出力されたテスト信号を付属のマイクで測定することによってスピーカーの周波数位相特性を解析し、音声信号再生時の周波数位相特性がフラットになるように補正します(L/Rでペアになっているスピーカー 1組に対して同じ補正を行います)。

Full Band Phase Control　OFF

位相乱れ（群遅延）の影響で、高音域に対して低音域が遅れている（スピーカー構成によってはこの遅れ度合いもバラバラなので、音のつながりにも影響する）。

Full Band Phase Control　ON

位相乱れ（群遅延）を補正することで帯域間の遅延時間差が縮まり、全帯域のタイミングがそろう（各チャンネル間のタイミングもそろうので音のつながりも向上する）。

SC-LX82

SC-LX72

1　リモコンをAVアンプ操作モードにする。

SC-LX82：

入力機器
テレビ　AVアンプ

SC-LX72：

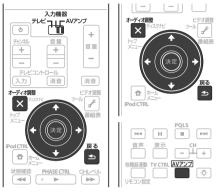
2　PHASE CTRL ▶　FULL BAND PHASEを選ぶ。

Phase ControlとFull Band Phase Controlの機能がONになります。FULL BANDと インジケーターが点灯します。
ボタンを押すたびにONとOFFが切り換わります。

- スピーカーの周波数位相特性を解析するための測定は、フルオートMCACC(「スピーカーの自動設定を行う」(43ページ))を行うか、オートMCACCで「Full Band Phase Ctrl」(117ページ)を行ってください。測定を行っていない状態では「FULLBAND PHASE」を選択することはできません。
- Full Band Phase Controlは周波数位相特性のみを補正しており、周波数振幅特性(F特)には影響を与えません。
- サブウーファーはFull Band Phase Controlの補正対象外です。また、原理的に群遅延が発生しないスピーカー(フルレンジスピーカー)や可聴帯域外の超高音域(スーパーツイーターなど)も補正対象外です。
- 以下のときはFull Band Phase ControlモードをONにすることができません。
  – ヘッドホンを挿入しているとき
  – PURE DIRECTモードのとき
  – MULTI CH IN入力のとき
  – 「オーディオ調整機能」のHDMI音声出力を「THROUGH」に設定しているとき

オーディオ調整機能を使用する

ここでは、以下の表にある音声に関する「設定項目」をお好みで設定します。それぞれの機能の内容をご確認のうえ、お好みで設定する項目を選んで設定を行ってください。

SC-LX82

入力信号や本機の設定などによって、調整することができない項目があります。その場合は設定項目として表示されません。

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

SC-LX82:　入力機器 テレビ AVアンプ

SC-LX72:

2 オーディオ調整　オーディオ調整機能にする。

3 設定項目を選ぶ。

以下の表の設定項目から、お好みで調整したい項目を選びます。

4 手順3で選んだ項目の調整を行う。

以下の表の設定内容のとおりにお好みで調整します。

5 戻る　オーディオ調整を終了する。

●：工場出荷時の設定
（※印が付いている項目には、設定の出現条件や制限などがあります。67 ページをご覧ください。）

設定項目	設定・効果の内容	表示と設定
◀M1. MEMORY 1 ▶ MCACCメモリー ※ 1	MCACC MEMORYの選択 （MCACCメモリーデータの名前を変更(→130ページ)しているときは変更した名前で表示されます。）	●MCACC : M1.MEMORY 1 M1.MEMORY 1 ～ M6.MEMORY 6
EQ ◀ON ▶ 周波数特性の補正 ※ 1, 2, 3	選択されているMCACC MEMORYの周波数特性の補正のON/OFF設定。 それぞれのMEMORYごとに設定できます。	●EQ : ON ○EQ : OFF
S-WAVE ◀ON ▶ 定在波制御 ※ 1, 3	選択されているMCACC MEMORYの定在波制御の効果のON/OFF設定。 それぞれのMEMORYごとに設定できます。	●S-WAVE : ON ○S-WAVE : OFF
DELAY 0.0fr▶ サウンドディレイの調整 ※ 3	音声全体の遅延時間の調整 （DVDソフトなどで、映像の動きの方がセリフなどの音声より遅れている場合、音声全体を遅らせることで、映像の動きと音声とを合わせることができます。）	●DELAY : 0.0fr 0.0frame～10.0frameまで(0.1間隔) ・ 1frame＝1/30秒　(NTSC)
◀MID/LDN OFF▶ ミッドナイト/ラウドネスモード ※ 1, 3, 4, 5	夜間や小音量再生でも、音量に応じて効果を調整し、聴き取りやすくする機能 MIDNIGHT : マルチチャンネル再生向き LOUDNESS : 2チャンネル再生向き	●MID/LDN : OFF 両機能ともにOFF ○MIDNIGHT : ON ○LOUDNESS : ON
TONE ◀BYPASS▶ トーンコントロール ※ 1, 4, 6, 7	「低音の調整」「高音の調整」をする/しないの設定	●TONE : BYPASS(OFF) ○TONE : ON

オーディオ調整

設定項目	設定・効果の内容	表示と設定
BASS ◀ 0dB ▶ **低音の調整** ※ 1, 3, 4, 6, 8	低音のレベル調整	●BASS : 0dB －6dB～＋6dB（1 dB間隔）
TREBLE ◀ 0dB ▶ **高音の調整** ※ 1, 3, 4, 6, 8	高音のレベル調整	●TREBLE : 0dB －6dB～＋6dB（1 dB間隔）
S. RTRV ◀OFF▶ **サウンドレトリバー機能** ※ 1, 3, 4, 5, 9	圧縮音声は圧縮処理される際、削除されてしまう部分が発生します。サウンドレトリバー機能をONにすると、DSP処理によってその削除されてしまった部分を補い、音の密度感、抑揚感を向上させます。	●S.RTRV : OFF ○S.RTRV : ON
DNR ◀OFF▶ **デジタルノイズリダクション機能** ※ 1, 3, 4, 5	雑音が多く含まれるソフトのノイズを低減する機能（→68ページ「デジタルノイズリダクション」参照）	●DNR : OFF ○DNR : ON
DIALOG E. ◀OFF▶ **ダイアログエンハンスメント機能** ※ 1, 3, 4, 5	センター成分の定位感の調整機能 （映画やドラマのセリフ、または音楽のボーカルを際立たせ、より聴き取りやすい音にします。）	●DIALOG E : OFF ○DIALOG E : ON
SC-LX72のみ ⇕HIBITSMP◀OFF▶ **ハイビット/ハイサンプリング機能** ※ 1, 3, 6	デジタル音声信号への、ダイナミックレンジの拡大と周波数方向の広帯域化をする機能（PCM 16 bitまたは圧縮音声20 bitを24 bitに再量子化し、データ処理時に高域成分の補間を行うことで、より滑らかで繊細な音楽表現を可能にします）	●HIBITSMP : OFF ○HIBITSMP : ON
DUAL ◀ CH1 ▶ **デュアルモノラル音声の設定**	1+1デュアルモノラル信号入力時、どちらの音声を再生させるかの設定（→68ページ「1+1デュアルモノラル信号とは」参照）	●DUAL : CH1 ○DUAL : CH2 ○DUAL : CH1 CH2（左右同時再生）
DRC ◀AUTO▶ **ダイナミックレンジコントロールの設定** ※ 1, 3, 4, 10	音量の最も小さい部分と最も大きい部分の圧縮比率の調整 （ダイナミックレンジを圧縮すると、音量を下げて映画などを楽しむ場合でも、微小な音が聴き取りやすくなりますが、大きい音量で楽しむときは、OFFにすることをお勧めします。）	●DRC : AUTO（ドルビーTrueHD信号に対してのみ圧縮） ○DRC : MAX（最大圧縮） ○DRC : MID ○DRC : OFF（圧縮無し : 高音質再生）
LFE ◀ 0dB **LFEアッテネーターの設定**	ドルビーデジタルやDTS 音声には、LFE（超低域音声成分）が含まれていることがあります。LFE レベルが大きくて、スピーカーからの音声に歪みが生じるときは、LFE レベルをアッテネート（減衰）します。	●LFE : 0dB －5dB、－10dB、－15dB －20dB、OFFから選択
SACD GAIN ◀ 0▶ **SACDゲインの設定** ※ 1, 3, 6	SACDを歪みなく再生するための調整 （工場出荷時の「0」は、高レベルで記録されているディスクを再生しても音が歪まない設定になっています。「+6」に設定すると、SACDのデジタル処理に+6 dBのゲインを持たせ、SACDディスクの情報をより忠実に引き出すことができ、高音質再生が可能になります。）	●SACD GAIN : 0 0 : 音声が歪む場合 +6 : 高音質再生を望む場合
HDMI ◀ AMP ▶ **HDMI音声出力の設定** ※ 11	HDMI INに入力された音声を、どのように再生するかの設定 「THROUGH」に設定したときは、本機からは音が出なくなります。	●HDMI : AMP 本機と接続したスピーカーで再生 ○HDMI : THROUGH HDMI OUTと接続したテレビ（フラットテレビなど）で再生

設定項目	設定・効果の内容	表示と設定
A. DELAY ◀OFF▶ オートディレイ (オートリップシンク)の設定 ※ 12	HDMIどうしで接続された機器に対する機能で、音声と映像の遅延時間を自動で調整し、映像の動きと音声を自動で合わせます。	●A.DELAY : OFF ○A.DELAY : ON
C. WIDTH ◀3▶ センター幅の調整 (⧈PLIIx MUSIC時のみ) ※ 1, 4, 13	センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーにどの程度振り分けるかの調整（音色の不一致を緩和して、音楽再生に適した音場を創り出すことができます。）	●C.WIDTH : 3 0〜7 0 : センタースピーカーからのみ再生 7 : すべて左右のフロントスピーカーに振り分け
DIMENSION ◀ 0▶ ディメンションの調整 (⧈PLIIx MUSIC時のみ) ※ 1, 4	音場の強さのバランス調整 (お好みの音場を創り出すことができます。)	●DIMENSION : 0 −3〜+3 −3 : 後方の音場が強くなる +3 : 前方の音場が強くなる
PANORAMA ◀OFF▶ パノラマ調整 (⧈PLIIx MUSIC時のみ) ※ 1, 4	前方の音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンドchにつなげるような効果を加える機能（正確な定位よりも雰囲気を楽しむための機能です。）	●PANORAMA : OFF ○PANORAMA : ON
C. IMAGE ◀ 3▶ センターイメージの調整 (Neo:6 CINEMAまたは Neo:6 MUSIC時のみ) ※ 1, 4, 13	センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーにどの程度振り分けるかの調整 (音色の不一致が緩和された音楽再生に適した音場を創り出すことができます。)	●C.IMAGE : Neo:6 CINEMA 10 : Neo:6 MUSIC 3 0〜10 0 : ほぼすべて左右のフロントスピーカーに振り分け 10 : 主にセンタースピーカーから再生
EFFECT ◀50▶ ADVANCED SURROUND モードやALCモードの効果の調整 ※ 1, 4	現在選択しているADVANCED SURROUNDの各モード、またはALCモードの効果の調整	●EFFECT : 50 10〜90 (EXTENDED STEREOのみ90が初期値)

※1 HDMI音声出力の設定が「THROUGH」のときは選択できません。
※2 EQ OFFを選択すると、MCACCインジケーターが消灯します。
※3 リスニングモードがPURE DIRECTモードのときは調整できません。
※4 リスニングモードがSTREAM DIRECTモードのときは選択できません。
※5 各入力ごとに設定できます。
※6 MULTI CH IN入力では選択できません。
※7 リスニングモードがSTEREO、AUTO SURROUND(STEREO時)、ALC(STEREO時)のみ選択できます。
※8 TONEをONにしたときのみ調整できます。
※9 iPod USBおよびHOME MEDIA GALLERY入力のときの工場出荷時の設定はONです。
※10 ダイナミックレンジコントロール対応のドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHD、DTS、DTS-HD Master Audio信号にのみ効果があります。
※11 アンプ連動モードを使用しているときは切り換えることができません(→88ページ)。本機の電源がOFF(スタンバイ)の状態でHDMIの音声と映像をテレビから出力したいときは、アンプ連動モードをONにする必要があります(→88ページ)。
※12 HDMIで接続されたリップシンク対応のディスプレイにのみ有効です。ONに設定しても音声全体の遅延時間が改善されないときは、OFFに設定して「サウンドディレイの調整」(→65ページ)を手動で調整してください。
※13 「スピーカー設定」(→132ページ)で、センタースピーカーがNO(無し)に設定されているときは選択できません。

SRC(サンプリング レート コンバーター)について (SC-LX82のみ)

SC-LX82は、SRCと高精度クロックシステムとの組み合わせによるジッターレスデザインで高音質を追求しています。
SRC機能ではデジタル音声信号への、ダイナミックレンジの拡大と周波数方向の広帯域化を行います。(PCM 16 bitまたは圧縮音声20 bitを24 bitに再量化し、データ処理時のサンプリング周波数を上げることでより滑らかで繊細な音楽表現を可能にします。)
SRC機能にON/OFFの設定はなく、マルチチャンネル入力とアナログ入力のPURE DIRECTモード以外のすべてのモードでSRC機能が働きます。

1+1デュアルモノラル信号とは

モノラルの音声チャンネルを2つ持つデジタル信号の名称です。

- BSデジタル放送(MPEG-2 AAC)のモノラルの二カ国語放送や音声多重放送など
- 二カ国語放送などをDVDレコーダーのドルビーデジタル·デュアルモノラルモードで録画したもの
- ステレオの二カ国語放送などは、デュアルモノラルとは異なるフォーマットになります。
- 録画モードの名称は機器によって異なります。詳しくは、DVDレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

デジタルノイズリダクション

- 以下の場合は、ON にしてもノイズが十分に低減されないことがあります。
  - 突然のノイズ
  - 極端に大きいノイズ
  - 高い周波数成分を非常に多く含む信号
  - もともとノイズの少ない録音状態の良い信号
- 各音源に対し、デジタルノイズリダクションは以下のような改善効果があります。
  ステレオ再生時
  - アナログ入力...10 dB ～18 dB
  - デジタル入力...10 dB ～15 dB
- STREAM DIRECTモードがONになっているときは使用できません。

ビデオ調整機能を使用する

ここでは、以下の表にある映像に関する「設定項目」をお好みで設定します。それぞれの機能の内容をご確認のうえ、お好みで設定する項目を選んで設定を行ってください。

- ビデオ調整機能は、iPod USB、HOME MEDIA GALLERY、CD、CD-R、BD、PHONO、HDMI1 ～ 4入力のときは使用できません。

SC-LX82

SC-LX72

入力信号や本機の設定などによって、調整することができない項目があります。その場合は設定項目として表示されません。

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

SC-LX82：入力機器 テレビ AVアンプ　SC-LX72：

2 ビデオ調整　ビデオ調整機能にする。

3 設定項目を選ぶ。

以下の表の設定項目から、お好みで調整したい項目を選びます。

4 手順3で選んだ項目の調整を行う。

以下の表の設定内容のとおりにお好みで調整します。

5 戻る　ビデオ調整を終了する。

●：工場出荷時の設定
（※印が付いている項目には、設定の出現条件や制限などがあります。70 ページをご覧ください。）

設定項目	設定・効果の内容	表示と設定
V.CONV ◀ON ▶ **ビデオコンバーターの設定**	HDMI以外の映像入力信号をMONITOR OUTに対してビデオコンバートする機能（ソース機器とテレビモニターを違う種類のコードで接続していても、映像を出力することができる便利な機能です。）（→27ページ）	●V.CONV : ON ○V.CONV : OFF
以下の項目は、ビデオコンバーターの設定がONのときのみ調整できます。		
RES ◀AUTO ▶ **解像度の設定** ※ 1	入力信号を出力する際の解像度の設定（RES ： 480Pは、480p/576pの解像度指定を指します。）	●RES : AUTO ○RES : PURE ○RES : 480P ○RES : 720P ○RES : 1080i ○RES : 1080P
ASP ◀THROUGH▶ **アスペクト比の設定** ※ 2	モニター出力映像のアスペクト比（縦横比）の設定（THROUGHは入力した映像信号をそのまま出力します。NORMALは上下または左右に黒帯を付加します。）	●ASP : THROUGH ○ASP : NORMAL
PCINEMA ◀AUTO▶ **PURE CINEMAモードの設定** ※ 3, 4, 5	映画素材の映像をプログレッシブ映像に変換出力する設定（通常はAUTOに設定しますが、映像が乱れる場合はOFFにしてください。PALはPAL映画（576i）の映像を入力し、変換出力するのに適した設定です。）	●PCINEMA : AUTO ○PCINEMA : PAL ○PCINEMA : OFF

ビデオ調整

設定項目	設定・効果の内容	表示と設定
P.MOTION ◀ 0▶ **プログレッシブモーションの調整** ※ 3, 4	プログレッシブ映像に効果を与える設定（プログレッシブ映像の動画や静止画が鮮明になるように調整します。）	●P.MOTION : 0 −4～+4
YNR 0▶ **輝度信号の調整** ※ 3	入力信号の輝度(Y)信号のノイズを軽減する調整	●YNR : 0 0～+8
DETAIL ◀ 0▶ **ディテールの調整** ※ 3	画像の輪郭強調の調整	●DETAIL : 0 −4～+4
SHARP ◀ 0▶ **シャープネスの調整** ※ 3, 6	画像の輪郭をはっきりさせたり、ぼかしたりする調整	●SHARP : 0 −4～+4
BRIGHT ◀ 0▶ **画像の明るさの調整** ※ 3	画面全体の明るさの調整	●BRIGHT : 0 −6(暗い)～+6(明るい)
CONTRAST ◀ 0▶ **画質のコントラスト調整** ※ 3	画面の最も明るい部分と最も暗い部分との明るさの比率調整	●CONTRAST : 0 −6(比率最小)～+6(比率最大)
HUE ◀ 0▶ **画質の色あい調整** ※ 3, 7	緑色と赤色のバランス調整	●HUE : 0 −6(緑強調)～+6(赤強調)
CHROMA ◀ 0▶ **彩度の調整** ※ 3	色の濃さを調整	●CHROMA : 0 −6(薄い)～+6(濃い)

※1 ・ テレビ(モニター)が対応していない解像度に設定した場合は映像が出なくなります。そのときは設定を変更し直してください。また、DVI対応機器から映像を入力した場合や、テレビ(モニター)の能力によっては、設定した解像度で出力されない場合があります。1080pへの変換は入力信号が480i/576i/480p/576pのときのみです。576i(PAL)/576p/720p50/1080i50の映像を入力して出力するには、対応したテレビが必要です。
・ 「AUTO」を選択するとHDMIで接続されたテレビ(モニター)の能力に合わせて自動的に解像度が選ばれます。また、「PURE」を選択すると、入力された解像度そのままで出力されます(このとき、入力された映像端子と同じ種類の映像出力端子からのみ映像を出力します)。
・ テレビ(モニター)をHDMIで接続していて、解像度の設定をPURE以外に設定すると、480i/576iアナログ信号入力時、コンポーネント/D4出力端子からは480p/576p信号が出力されます。
※2 ・ 解像度の設定をPUREに設定しているときは調整できません。
・ アナログビデオ入力をHDMI出力する際に有効な設定です。
・ HDMI出力にのみに有効です。
・ NORMALの設定は、480i/576iまたは480p/576p信号を入力しているときのみ表示されます。
※3 480i/576i信号を入力しているときのみ表示されます。
※4 HDMIおよびコンポーネント/D4出力に有効です。
※5 AUTOまたはPALを選択したときに映像が正しく表示されない場合は、OFFを選択してください。
※6 HDMI出力には無効です。
※7 コンポジット入力のときのみ表示されます。

ホームメディアギャラリーについて

ホームメディアギャラリーでは、LAN端子を使うことで以下の機能をお楽しみいただくことができます。

パソコン*にためた音楽ファイルを本機で再生

パソコン*などに保存されているたくさんの音楽ファイルを本機で再生することができます。お手持ちのネットワーク機器の取扱説明書とあわせてご確認ください。

* パソコン以外にも、DLNA1.0に準拠したメディアサーバー機能を持つ機器(たとえば、ネットワーク型ハードディスクやネットワーク対応のオーディオシステムなど)であれば保存されているファイルを本機で再生することができます。

インターネットラジオ放送の受信

パイオニア専用に編集、管理されているvTunerが提供する放送局リストから、お好きな放送局を選んで再生することができます。

Neural Music Direct放送の受信

Neural Audio Corporationが管理、運営しているインターネットラジオ放送局を再生することができます。

ホームメディアギャラリーをお楽しみいただくためのステップ

ステップ1 「LAN端子でネットワークに接続する」(→74ページ)

▼

ステップ2 「接続しているサーバーに本機を認証させる」(→75ページ)

▼

ステップ3 「ネットワークの設定を行う」(→81ページ)

▼

ステップ4 「ホームメディアギャラリー入力で再生する」(→75ページ)

ホームメディアギャラリーの再生

再生できるネットワーク機器について

本機は下記の機器に保存されているネットワーク上の音楽ファイルを再生できます。

- OS がMicrosoft Windows XP Service Pack 2で、Windows Media Connect がインストールされているパソコン
- OS がMicrosoft Windows Vista またはXP Service Pack 2で、Windows Media Player 11がインストールされているパソコン
- DLNA1.0に準拠したメディアサーバー（パソコンやネットワーク型ハードディスクなど）

ネットワーク上の機器に保存されている音楽/画像ファイルやインターネットラジオを再生するには、**ルーターのDHCPサーバー機能がONになっている**必要があります。DHCPサーバー機能がないルーターの場合はネットワークの設定を行わなければネットワーク上の音楽ファイルやインターネットラジオの再生ができません。詳しくは「ネットワークの設定を行う」（→81ページ)をご確認ください。

- 本機は下記の技術を使ってネットワーク上の機器に保存されている音楽ファイルを再生します。各技術の詳細については「用語解説」もあわせてご覧ください。
  - Windows Media Player 11
  - Windows Media Connect
  - Windows Media DRM
  - DLNA
- 本機が対応している形式のファイルでも再生できないことがあります。
- 画像/動画ファイルは再生できません。
- 放送局リストで選択できる放送局でも再生できないことがあります。
- 接続している機器の種類やソフトウェアのバージョンによって働かない機能があります。
- 対応しているファイルの形式は接続している機器によって異なります。接続している機器が対応していない形式のファイルは表示されません。詳しくはお使いの機器のメーカーにお問い合わせください。
- 接続している機器の性能や状態によって再生が停止したり、正しく再生できないことがあります。
- ネットワークの通信が混雑していると、ファイルが表示されない、または再生できないことがあります。ネットワーク上の機器と接続するときは100BASE-TXのご利用をお勧めします。
- ネットワーク上の複数の機器が同じファイルを同時に再生すると再生が停止することがあります。
- 接続している機器にインターネットセキュリティーソフトウェアなどがインストールされているとネットワークに接続できないことがあります。
- 当社は、本機とネットワーク上で接続している機器の不具合やファイルまたはデータの破損などに関して、一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。接続している機器のメーカー、またはプロバイダーにお問い合わせください。

再生できるファイルフォーマットについて

本機のホームメディアギャラリー入力は以下のファイルフォーマットに対応しています。

■ 音楽ファイル

種別	拡張子	ストリーム		
MP3	.mp3	・MPEG-1 オーディオレイヤー3	サンプリング周波数	8 kHz~48 kHz
			量子化ビット数	16 bit
			チャンネル数	2 ch
			ビットレート	8 kbps~320 kbps
			VBR/CBR	対応/対応
LPCM	–	・LPCM	サンプリング周波数	8 kHz~44.1 kHz
			量子化ビット数	16 bit、20 bit、24 bit
			チャンネル数	2 ch
WAV	.wav	・LPCM	サンプリング周波数	8 kHz~44.1 kHz
			量子化ビット数	16 bit、20 bit、24 bit
			チャンネル数	2 ch
WMA	.wma	・WMA2/7/8	サンプリング周波数	8 kHz~48 kHz
			量子化ビット数	16 bit
			チャンネル数	2 ch
			ビットレート	5 kbps~320 kbps
			VBR/CBR	対応/対応
		・WMA9	サンプリング周波数	8 kHz~48 kHz
			量子化ビット数	16 bit
			チャンネル数	2 ch
			ビットレート	5 kbps~320 kbps
			VBR/CBR	対応/対応
AAC	.m4a .aac .3gp .3g2	・MPEG-4 AAC LC ・MPEG-4 HE AAC (aacPlus v1/2)	サンプリング周波数	32 kHz~48 kHz
			量子化ビット数	16 bit
			チャンネル数	2 ch
			ビットレート	16 kbps~320 kbps
			VBR/CBR	対応/対応
FLAC	.flac	・FLAC	サンプリング周波数	8 kHz、16 kHz、22 kHz 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
			量子化ビット数	8 bit、16 bit
			チャンネル数	2 ch(8 bitのモノラルは非対応)
			ビットレート	–
			VBR/CBR	非対応/対応

- 本機が対応している形式のファイルでも再生できないことがあります。
- 接続している機器の種類やソフトウェアのバージョンによって働かない機能があります。
- 対応しているファイルの形式は接続している機器(サーバー)によって異なります。接続している機器が対応していない形式のファイルは表示されません。詳しくはお使いの機器(サーバー)のメーカーにお問い合わせください。
- MPEG Layer-3音声復号化技術は、Fraunhofer IIS および Thomson multimediaからライセンスされています。
- ヘッダーのないLPCMファイルはサーバーからのストリーミングデータのみ対応のため、拡張子はありません。
- サーバーによっては本機が対応していないフォーマットを変換(トランスコード)して出力できるものもあります。詳しくはサーバーの取扱説明書をご確認ください。

接続する

機器の接続を行う場合あるいは変更を行う場合には、本機の電源を切って（スタンバイ状態にして）から行ってください。

LAN 端子でネットワークに接続する

LAN端子を使ってネットワークに接続することで、パソコンなどのネットワーク上の機器に保存されている音楽ファイルやインターネットラジオをお楽しみいただくことができます。
本機のLAN端子とルーター（DHCPサーバー機能付きなど)のLAN 端子をストレートLANケーブル(CAT-5以上）で接続します。
ルーターのDHCPサーバー機能をオンにします。ルーターにDHCPサーバー機能がない場合はネットワークを手動で設定する必要があります。詳しくは「ネットワークの設定を行う」（→81ページ)をご覧ください。

SC-LX82

LANケーブル（市販品）

◀ モデム

▼ ルーター

LAN 3 2 1 WAN

インターネットへ

LANケーブル
（市販品）

LAN端子へ

LAN端子へ

▲ パソコン1

▲ パソコン2

LAN端子の仕様

LAN（10/100)端子
....................1系統、10BASE-T/100BASE-TX

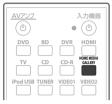
- インターネットラジオを聴くには、インターネットサービスを提供しているプロバイダーとの契約が必要です。
- 画像/動画ファイルは再生できません。
- Windows Media ConnectまたはWindows Media Player 11をお使いの場合、本機では著作権保護のかかっている音楽ファイルも再生することができます。

接続しているサーバーに本機を認証させる

ホームメディアギャラリーを使ってサーバーに保存されているファイルを再生するには、あらかじめサーバーが本機を認証(許可)している必要があります。認証(許可)方法は接続しているサーバーによって異なります。詳しくはサーバーの取扱説明書をご覧ください。

ホームメディアギャラリー入力で再生する

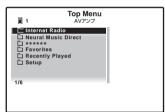
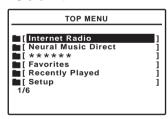
SC-LX82

SC-LX72

1 (SC-LX82のみ)
リモコンを入力機器操作モードにする。

2 SC-LX82：HOME MEDIA GALLERYボタンを押して入力をホームメディアギャラリーにする。

SC-LX72：

ネットワークに接続するため、多少時間がかかることがあります。起動後は以下の画面が表示されます。▮の横の数字は接続されているサーバーの数を表しています。

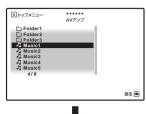
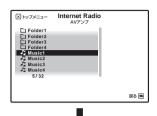
- メインゾーン

- サブゾーン

3 再生したいカテゴリーを選んで決定する。

カテゴリーは以下の中から選びます。
Internet Radio：インターネットラジオ
Neural Music Direct：サラウンドに対応したインターネットラジオ
サーバー名：ネットワーク上のサーバー
Favorites：登録されたお気に入りのファイル
Recently Played：インターネットラジオの受信履歴(最新20件)
選んだカテゴリーによってファイルや放送局などのリストが表示されます。

4

再生したいフォルダーやファイル、放送局などを選んで決定する。

⬆⬇ボタンで画面をスクロールできます。前の画面に戻るには戻るボタンを押します。
選んだ項目が音楽ファイルの場合、再生画面が表示され、再生が始まります。

Server の場合

Internet Radio の場合

再生できるのは♫マークのついている音楽ファイルです。⬆⬇、**決定**ボタンでファイルを選びます。

5 **手順4を繰り返して、聞きたい曲を再生する。**

それぞれの詳しい操作は以下をご確認ください。

サーバー：「ネットワーク上の機器の再生について」（→77ページ）
インターネットラジオ：「インターネットラジオの再生について」（→77ページ）
Neural Music Direct：「Neural Music Directの再生について」（→79ページ）

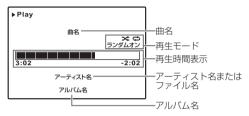
- 本機で表示できない文字は「#」で表示されます。
- Windowsのネットワーク環境で、ドメインが構成されている場合、ドメインにログオンしているとパソコンに接続できません。ドメインではなくローカルマシンにログオンしてください。
- 可変ビットレート（VBR）で圧縮されたファイルも再生できますが、経過時間が正しく表示されないことがあります。
- 再生画面からフォルダー/ファイルリスト画面を表示させたとき、フォルダー/ファイルリスト画面で10秒間操作がないと自動的に再生画面に戻ります。
- 5分間何も操作がないときはスクリーンセーバー機能が働きます。スクリーンセーバー機能を解除するときは何かボタンを押します。

ネットワーク上の機器の再生について

■ 再生画面について

ファイルの再生を行うと以下の画面が表示されます(ファイルによってはすべての項目が表示されないことがあります)。

- メインゾーン

- サブゾーン

本機のリモコンで以下の操作ができます。再生しているカテゴリーによっては使用できないボタンがあります。

ボタン	機能
▶	再生を開始します。
❚❚	一時停止 します。
■	再生を停止してリスト画面に戻ります。
⏮/⏭	頭出しします。
リピート	リピート再生を設定します。押すたびに1曲リピート、リピートオール、リピートオフが切り換わります。
ランダム	ランダム再生を設定します。押すたびにランダムオンとランダムオフが切り換わります。
⬅/➡	フォルダー/ファイルリストの階層を前後へ切り換えます。
表示	フロントパネル表示の内容を切り換えます。
決定	再生と一時停止の切換をします。
トップメニュー	トップメニューを表示します。
戻る	前の画面に戻ります。

インターネットラジオの再生について

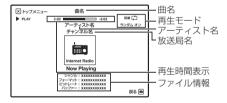
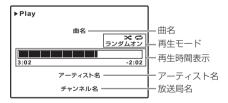
■ インターネットラジオについて

インターネットラジオとは、インターネットを通じて配信しているラジオのことです。インターネットラジオの放送局には個人が運営するものから地上波の放送局が運営するものまで、さまざまな放送局が世界中に多数存在しています。地上波のラジオは電波の届く範囲でのみ放送を聴くことができますが、インターネットラジオではインターネットを通じて世界中の放送を聴くことができます。本機ではジャンル別、地域別に放送局を選択することができます。

- インターネットラジオを聴くときはインターネットをブロードバンドで接続してください。56 KモデムやISDNでは十分にお楽しみいただけないことがあります。
- インターネットラジオは放送局によってポート番号が異なりますので、ファイアウォールの設定をご確認ください。
- vTunerから提供されている放送局リストは予告なく停止される場合があります。
- ラジオ局によっては放送が中止、中断されていることがあります。この場合は放送局リストで選択できる放送局でも再生することができません。
- 放送局によっては曲名などが正しく表示されない場合があります。

■ 再生画面について

放送局を受信すると以下の画面が表示されます。(以下の画面は一例で、実際の表示はラジオ局によって異なります)

- メインゾーン

- サブゾーン

■ ラジオ局のリストについて

本機のインターネットラジオ局リストは、ラジオ局データベースサービス(vTuner)を利用しています。このデータベースサービスは、本機用に編集・作成されたリストです。vTunerについて、詳しくは「用語の解説」(→83ページ)をご確認ください。

■ 放送局の記憶と呼び出し

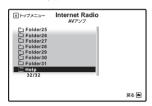
インターネットラジオの放送局を記憶したり、記憶した放送局を簡単に呼び出すことができます。詳しくは「インターネットラジオの応用操作」(→80ページ)をご覧ください。

ホームメディアギャラリーの再生

■ パイオニア専用サイトからvTunerのリストにない放送局を登録する

本機ではvTunerから配信される放送局リストにない放送局を登録し、再生することができます。本機で登録に必要なアクセスコードを確認し、そのアクセスコードを使ってパイオニア専用のインターネットラジオサイトにアクセスし、お気に入りの放送局の登録などを行います。パイオニア専用のインターネットラジオサイトは以下のアドレスです。
http://www.radio-pioneer.com

1 **インターネットラジオのリスト画面を表示する。**
 75ページの手順1 ～ 3を行います。

2 **⬆/⬇ボタンで「Help」を選んで決定する。**

3 **⬆/⬇ボタンで「Get access code」を選んで決定する。**
 パイオニア専用のインターネットラジオサイトでの登録に必要なアクセスコードが表示されるので、メモを取っておきます。

「Help」画面では以下の点を確認できます。

- Get access code ーパイオニア専用インターネットラジオサイトの登録に必要なアクセスコードが表示されます。
- Show Your WebID/PW ーパイオニア専用インターネットラジオサイトで登録したあと、登録されたIDとパスワードが表示されます。
- Reset Your WebID/PW ーパイオニア専用インターネットラジオサイトで登録した内容をすべてリセットします。リセットすると登録した放送局もすべて消えてしまいますので、同じ放送局を聞きたいときはリセット後、再度登録をしなおしてください。

4 **お手持ちのパソコンでパイオニア専用のインターネットラジオサイトへアクセスし、登録操作を行う。**
 http://www.radio-pioneer.com
 上記サイトへアクセスし、手順3のアクセスコードを使い、画面に従ってユーザー登録を行います。

5 **パソコンの画面に従ってお気に入りの放送局を登録する。**
 vTunerのリストにない放送局はもちろん、vTunerの放送局リストにある放送局も登録できます。この場合はお気に入りの放送局として本機に登録され、再生することができます。

Neural Music Directの再生について

■ Neural Music Directについて
Neural Music Directは、Neural Audio Corporationが管理、運営しているインターネットラジオ放送局です。Neural Music Directの放送局はマルチチャンネルサラウンドで放送されています。Neural THXサラウンドモードが自動で選択され、マルチチャンネルサラウンド再生をお楽しみいただくことができます。Neural THXについて、詳しくは、「Neural-THX Surround」（➞145ページ）をご確認ください。

Favoritesの再生について

■ Favoritesフォルダーについて
お気に入りの曲やインターネットラジオ局を、Favoritesフォルダーに最大20まで登録することができます。

■ Favoritesフォルダーへの登録と削除
登録したい曲の再生画面または登録したい曲がリストで選ばれているときに**PGM**ボタンを押します。選んだ曲がFavoritesフォルダーに登録されます。
登録された曲を削除するときは、Favoritesフォルダーを選択し、削除したい曲を選んで**クリア**ボタンを押します。選んだ曲がFavoritesフォルダーから削除されます。

ホームメディアギャラリー入力用ソフトウェアを更新する

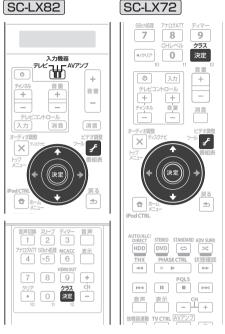
ソフトウェア更新に関する情報を弊社ホームページ上で公開することがあります。
http://pioneer.jp/support/
上記アドレスから、単品コンポーネントに関するお客様サポート、またはソフトウェアダウンロード情報をご確認ください。

Windows Media DRMについて

Windows Media デジタル著作権管理(DRM)(以下、WMDRM)は、コンピューター、デジタルオーディオプレーヤー、ネットワーク機器などの再生を防いだり、デジタルコンテンツを安全に配信するためのプラットフォームです。ホームメディアギャラリーのネットワークオーディオでは、WMDRM 10 for networked devices に基づいて機能します。WMDRM で保護されたコンテンツはWMDRM の機能を有するメディアサーバーと接続したときのみ再生できます。コンテンツ所有者は、著作権を含む知的所有権を保護するためにWindows Media デジタル著作権管理テクノロジー(WMDRM)を使用します。本製品は、WMDRM で保護されたコンテンツにアクセスするためにWMDRM ソフトウェアを使用します。WMDRM ソフトウェアがコンテンツの保護に失敗した場合、コンテンツ所有者は保護されたコンテンツの再生やコピーのためにWMDRMを使用しているソフトウェアの能力を無効にするよう、マイクロソフトに要請することがあります。無効化は、保護されていないコンテンツには影響を与えません。保護されたコンテンツに対するライセンスをダウンロードするときは、マイクロソフトがそのライセンスと一緒に失効リストを含ませることがあることに同意する必要があります。コンテンツ所有者は、それらのコンテンツのアクセスに対してWMDRM をアップグレードすることを要求することがあります。もしもアップグレードを断ると、アップグレードを要求するコンテンツへアクセスすることができなくなります。
本製品は、米国Microsoft Corporation の知的所有権により保護されています。米国Microsoft Corporationの許可を得ずにこの技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。

インターネットラジオの応用操作

インターネットラジオの放送局を記憶する

本機では、よく聴く放送局をA ～ Gの7つのクラスに各9局、合計63局まで記憶することができます。

ここから読む場合は75 ～ 76ページの手順1 ～ 4を行ってから以下の手順へお進みください。

1 入力機器 テレビ AVアンプ　(SC-LX82のみ)
リモコンを入力機器操作モードにする。

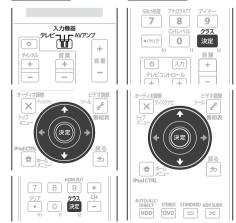
2 記憶させたい放送局を再生する。
75 ～ 76ページの手順1 ～ 4を行い記憶させたい放送局を再生します。

3 放送局の記憶モードにする。

4 SC-LX82：クラス 決定　SC-LX72：クラス 決定
記憶させるクラスを選択する。
A ～ Gのいずれかを選びます。

5 決定
記憶させるステーション番号を選んで決定する。
数字ボタンでステーション番号を選ぶこともできます。1 ～ 9のいずれかを選びます。

記憶したインターネットラジオの放送局を呼び出す

放送局を呼び出すには、その前に放送局を記憶する必要があります。放送局を記憶していない場合は、上記の「インターネットラジオの放送局を記憶する」をご覧ください。

1 入力機器 テレビ AVアンプ　(SC-LX82のみ)
リモコンを入力機器操作モードにする。

2 SC-LX82：クラス 決定　SC-LX72：クラス 決定
呼び出したいクラスを選択する。
ボタンを押すたびにA ～ Gのクラスが切り換わります。

3 決定
呼び出したいステーション番号を選んで決定する。
数字ボタンでステーション番号を選ぶこともできます。
記憶されていないステーションを選ぶと「Preset Not Stored」と表示されます。

ネットワークの設定を行う

機能をONにするだけで、ネットワークの設定を行う必要はありません。DHCPサーバー機能がないネットワークに接続しているときのみ以下のネットワークの設定を行います。設定の際はプロバイダー、またはネットワーク管理者からの設定値を確認してから設定してください。ネットワーク上の機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

IP Address:
入力するIP アドレスは下記の範囲で設定してください。下記以外のIP アドレスではネットワーク上のファイルやインターネットラジオを再生することができません。
CLASS A: 10.0.0.1 ～ 10.255.255.254
CLASS B: 172.16.0.1 ～ 172.31.255.254
CLASS C: 192.168.0.1 ～ 192.168.255.254

Subnet Mask:
xDSLモデムやターミナルアダプタを直接本機に接続している場合は、プロバイダーから書面などで通知されたサブネットマスクを入力します。通常は255.255.255.0 が入ります。

Gateway IP:
ゲートウェイ(ルーター)に接続している場合は、そのIPアドレスを入力します。
DNS Server Preferred/DNS Server Alternate:
プロバイダーから書面などで通知されたDNS アドレスが1 つの場合は、「DNS Server Preferred」に入力してください。2つ以上の場合は、もう1つを「DNS Server Alternate」に入力してください。

Proxy Hostname/Proxy Port:
インターネットにプロキシサーバーを経由して接続する際に設定します。「Proxy Hostname」にはプロキシサーバーのアドレスまたはドメイン名を入力してください。「Proxy Port」にはプロキシサーバーのポート番号を入力してください。

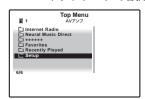
ネットワークの設定で使用するボタン

(SC-LX82のみ)
入力機器 テレビ AVアンプ → 決定 または 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 → 戻る

- 数字やアルファベットの入力には、⬆⬇または数字ボタンを使用します。入力を間違えたときは⏮またはクリアボタンで消去します。
- 数字やアルファベットの入力画面で、戻るを押すかカーソルが一番左にあるときに⬅を押すと「Cancel Key Editing Lose Changes?」と表示されます。このとき、**決定**を押すと入力画面をキャンセルします。入力画面に戻したいときは**戻る**を押してください。

1 入力機器 テレビ AVアンプ
(SC-LX82のみ)
リモコンを入力機器操作モードにする。

2 **HOME MEDIA GALLERYボタンを押して入力をホームメディアギャラリーにする。**
ネットワークに接続するため、多少時間がかかることがあります。起動後は以下の画面が表示されます。

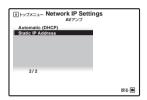
3 **「Setup」を選んで決定する。**
ネットワークの設定画面になります。

4 「Network Setup」を選んで決定する。

Network Setup画面になります。

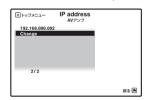
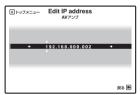
5 「Network Found」または「No Network Found」と表示されるので、ネットワーク接続状況を確認後決定する。

Network Found：ネットワーク上の機器に接続している状況です。
No Network Found：ネットワーク上の機器に接続していない状況です。
Network IP Settings画面になります。

6 「Static IP Address」を選んで決定する。

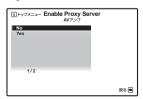
IP Address（IPアドレス）の表示画面になります。

Automatic（DHCP）を選択すると、ネットワークを自動で設定しますので手順7～8の設定は必要ありません。手順9へお進みください。

7 「Change」を選んで決定する。

IP Address（IPアドレス）の入力画面になります。

8 IPアドレスを入力する。

⬆⬇または数字ボタンで数字を選び、⬅➡でカーソルを移動させます。最後の数字を選択したあと、➡または**決定**を押します。
Enable Proxy Server（プロキシサーバーの設定）画面になります。

9 プロキシの設定でNoかYesを選んで決定する。

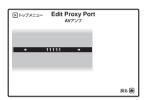
Noを選んだときは手順14へお進みください。
Yesを選んだときは手順10へお進みください。Proxy Hostnameの表示画面になります。

10 「Change」を選んで決定する。

Proxy Hostnameの表示画面になります。

11 プロキシサーバーのアドレスまたはドメイン名を入力する。

入力後に➡または**決定**を押します。
Proxy Port（プロキシポート）の表示画面になります。

12 「Change」を選んで決定する。

Proxy Port（プロキシポート）の入力画面になります。

13 プロキシサーバーのポート番号を入力する。

入力は数字ボタンで行います。
入力後に➡または**決定**を押します。
「Setting OK?」と表示されます。

14 決定を押してネットワークの設定を終了する。

Top Menu画面へ戻ります。

15 AVアンプ 本機の電源をオフ（スタンバイ状態）にする。

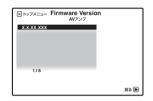
- DHCPサーバー機能のないネットワーク環境で、ネットワーク環境を変更したときは、本機のネットワークの設定を再度行ってください。

ネットワークの設定を確認する

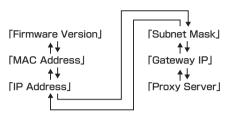
本機に設定されている「Mac Address」、「IP Address」、「Subnet Mask」、「Gateway IP」、「Proxy Server」や「Firmware Version」(本機のホームメディアギャラリー用ファームウェアのバージョン)を確認することができます。

ここから読む場合は81ページの手順1 ~ 3を行ってから以下の手順へお進みください。

4 [Information]を選んで決定する。

本機のホームメディアギャラリー用ファームウェアのバージョン確認画面になります。

注：イラスト中のファームウェアバージョンは一例です。

5 ネットワークの設定を確認する。

⬆⬇ボタンで表示を切り換えます。ボタンを押すたびに設定表示が切り換わります。

6 戻るボタンを押す。

ネットワークの設定に戻ります。Top Menu画面に戻るには、繰り返し**戻る**ボタンを押します。

用語の解説

■ AAC

AACとは、「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG-2、MPEG-4 で使用される音声圧縮技術に関する基本フォーマットです。AAC データは、作成に使用したアプリケーションによってファイル形式と拡張子が異なります。

■ aacPlus

AACデコーダーは、Coding Technologiesによって開発されたaacPlusを使用しています。

(www.codingtechnologies.com)

■ イーサネット(Ethernet)

同じ場所にある複数のパソコンなどを接続してローカルエリアネットワーク(LAN)を構築するときに使われる規格です。現在は、100BASE-TXと呼ばれる方式が最も普及しています(10BASE-Tと呼ばれる方式もあります)。通常はLANケーブルとハブを使って複数のパソコンを接続します。

■ サブネットマスク

IPアドレスの何ビット分をネットワークグループの識別のために使うかを定義する32ビットの数値です。「255.255.255.0 」のように表示されます。

■ デフォルトゲートウェイ

ネットワーク外(インターネットなど)の機器にアクセスするとき、「出入り口」になるルーターなどの機器です。

■ DHCP

Dynamic Host Configuration Protocolの略です。ネットワークに関する設定(IP アドレスの取得など)を自動で行う機能です。

■ DLNA

Digital Living Network Alliance (デジタル・リビング・ネットワーク・アライアンス)の略です。ローカルエリアネットワーク(LAN)上で接続したメーカーの異なるパソコンやデジタル家電の動画、音楽、または画像データなどを相互で視聴できるようにするためのデータの圧縮方式や転送方式の標準化を進めている団体の名称です。本機はDLNA Home Networked Device Interoperability Guidelines v1.0 に準じています。

DLNA CERTIFIED™ Audio Player
DLNA およびDLNA CERTIFIED はDigital Living Network Allianceの商標です。

■ DNS
「ドメインネームシステム」の略で、ホームページの閲覧時に使用する「http://pioneer.jp」のようなドメイン名を、実際の通信に使用するIPアドレス(「63.83.249.102」など)に置き換える仕組みのことです。

■ FLAC
Free Lossless Audio Codecの略です。可逆圧縮方式であるため、MP3やAACなどの圧縮音声とは違いFLACは音質を劣化させることなく圧縮します。
FLACについてのより詳しい情報は以下のウェブサイトをご覧ください。
FLAC Webサイト:http://flac.sourceforge.net/

■ IP アドレス
インターネットなどのI P(インターネットプロトコル)ネットワークに接続されたパソコンに割り振られた識別番号です。通常は「192.168.130.106 」のように、0 から255 までの数字を4 つ並べて表示します。

■ LAN
Local Area Networkの略です。同じ建物の中にあるパソコンやプリンタなどを専用ケーブルで接続してデータを送受信するネットワークです。最も普及している規格はイーサネット(Ethernet)規格で、通信速度が10 Mbps 、最大伝送距離が100 mの10BASE-T やその10倍の通信速度を実現できる100BASE-TX が主流です。

■ MAC アドレス
イーサネットカードに付与される固有のI D 番号です。これを元にカード間でデータが送受信されます。IEEE(Institute of Electrical and Electronic Engineers=電気電子学会)が割り当てる番号と各メーカーが独自に割り当てる番号の組み合わせによって表示されます。

■ Windows Media
Windows Mediaは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。WMAファイルは、米国Microsoft Corporationの認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正常に動作しないことがあります。

■ Windows Media DRM
Windows Mediaデジタル著作権管理(DRM)は、パソコン、デジタルオーディオプレーヤー、またはネットワーク機器などで再生するファイルを保護して、安全に配信できる技術です。WMDRMで保護されているファイルはWMDRMに対応している機器でのみ再生できます。

■ Windows Media Player 11
Windows Media Connect
Windows Media Player 11とWindows Media Connectは、パソコンに保存されている動画、音楽、または画像ファイルなどをネットワーク上で共有するソフトウェアです。現在、Windows Media Connect はマイクロソフト社のウェブサイトでダウンロードできません。Windows Media Connect がお使いの機器にインストールされていないときは、同じ機能が使えるWindows Media Player 11 for Windows XP をインストールしてください(マイクロソフトウェブサイトからダウンロードできます)。詳しくは、マイクロソフトウェブサイトをご覧ください。

■ vTuner
インターネットラジオのオンラインコンテンツサービスです。vTunerについて、詳しくは以下のウェブサイトをご覧ください。
http://www.radio-pioneer.com
本製品は、NEMS および BridgeCo の知的財産権により保護されています。当該技術の本製品以外での使用または配布は、NEMS および BridgeCo の許諾がない限り禁止されています。

KURO LINK機能でHDMI機器を連動動作させる

KURO LINK対応のパイオニア製フラットテレビやブルーレイディスクプレーヤー、またはKURO LINKと互換性のある他社製品などを、HDMIケーブルで本機と接続することでこれらの機器との連動動作が可能になります。具体的な操作や設定方法などについては、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

- パイオニア製KURO LINK対応機器、およびKURO LINKと互換性のある他社製品(➞86ページ)以外との連動動作は保証外です。KURO LINKと互換性のある他社製品であっても、すべての連動操作を保証するものではありません。
- KURO LINK機能を使うときはHigh Speed HDMI™ケーブルをお使いください。それ以外のHDMIケーブルではKURO LINK機能が正しく動作しないことがあります。

KURO LINK 対応機器を接続する

本機にはKURO LINK対応テレビのほかに、最大5台のHDMI機器を接続して連動動作させることができます。接続にはHigh Speed HDMI™ケーブルをご使用ください。接続方法については、「HDMIで接続する」(➞28ページ)をご覧ください。接続が終わったら「KURO LINKモードを設定する」(➞86ページ)を行ってください。

- KURO LINK対応機器の接続終了後、本機の電源コードをコンセントに差し込むと本機の電源が入ります。この際、HDMIに関する初期化動作を2秒から10秒程度行います。初期化中はHDMIインジケーターが点滅します。本機の操作は点滅が終了してから行ってください。「KURO LINKモードを設定する」(➞86ページ)でKURO LINK機能をOFFにすることで、この処理は行われなくなります。
- 本機のKURO LINK機能を十分に発揮するために、HDMI機器は本機に直接接続してください。
- KURO LINK対応テレビの音声出力と本機の音声入力を接続し、KURO LINK対応テレビのリモコンでアンプ連動モードにすることで、テレビのチャンネルを切り換えたときなど、本機の入力が自動で切り換わり本機から音が出るようになります。このときテレビの音声は消音されます。接続は光デジタルまたはアナログのいずれかで接続してください。

KURO LINKについてのご注意

- 本機とテレビは直接接続してください。本機以外のアンプやAVコンバーター(HDMIスイッチ)などに接続してから本機に接続すると、誤動作の原因となります。
- 本機のHDMI入力にはソース機器(ブルーレイディスクプレーヤーなど)を直接接続してください。本機以外のアンプやAVコンバーター(HDMIスイッチ)などを接続すると誤動作の原因となります。
- KURO LINK機能を使用する場合、本機とテレビの接続にはHDMI OUT1端子をご使用ください。HDMI OUT2端子にKURO LINK対応機器を接続すると、誤動作することがあります。HDMI OUT2端子にKURO LINK対応機器を接続する場合は、KURO LINK対応機器のKURO LINK設定をOFFにしてください。
- KURO LINKを ON に設定すると、入力端子の設定のHDMI入力(HDMI Input)は自動的にOFFになります。
- PQLS効果が有効のときに、AUTO SURROUND、ALC、DIRECT、PURE DIRECT、OPTIMUM SURROUND、STEREO以外のリスニングモードを選ぶと、PQLS効果は無効になります。
- HDMI接続でのPQLSに対応したパイオニア製プレーヤーと本機をHDMIケーブルで接続し、CDを再生したときやHDMI再認証(HDMIインジケーターが点滅)を行ったときにPQLS効果は有効となり、リスニングモードがAUTO SURROUND、ALC、DIRECT、PURE DIRECT、OPTIMUM SURROUND以外のときはAUTO SURROUNDになります。
- 本機のKURO LINKモードがONのときは、本機の電源がOFF(スタンバイ状態)であっても、KURO LINK対応機器(ブルーレイディスクプレーヤーなど)と対応テレビで接続しているときのみ、本機から音を出さずにプレーヤーからの音声と映像をHDMIを通してテレビに出力できます。このとき本機の電源はオンの状態となり、STANDBY/ONインジケーターとHDMIインジケーターが点灯します。

KURO LINKと互換性のある他社製品との接続について

本機のKURO LINKと互換性のある他社製テレビと接続してお使いになると、下記の連動動作ができます。(お使いのテレビによっては、すべてのKURO LINK機能が働くわけではありません。)

- テレビのメニュー画面で、本機に接続したスピーカーから音を出すか、テレビのスピーカーから音を出すか、どちらかに設定できます。
- テレビのリモコンで、本機の音量調節や消音(ミュート)操作ができます。
- テレビの電源を切る(スタンバイ状態にする)と、本機の電源もOFF (スタンバイ状態)になります。(本機にHDMI接続されている機器の入力を選択しているときや、テレビを視聴している場合のみ。)
- テレビ放送やテレビに接続した外部入力の音声も、本機に接続したスピーカーから出力できます。(HDMIケーブルのほかに光デジタルケーブルなどの接続が必要です。)

本機のKURO LINKと互換性のある他社製プレーヤーやレコーダーと接続してお使いになると、下記の連動動作ができます。

- プレーヤーやレコーダーの再生を開始すると、本機の入力がその機器を接続しているHDMI入力に切り換わります。

KURO LINKと互換性のある他社製品

- 以下の他社製テレビと互換性があります。（順不同）
  - ・ シャープ製AQUOSファミリンク対応の液晶テレビ「アクオス」
  - ・ パナソニック製ビエラリンク対応のテレビ
  - ・ 東芝製レグザリンク対応のテレビ
  - ・ 日立製Woooリンク対応のテレビ
- 以下の他社製プレーヤーやレコーダーと互換性があります。（順不同）
  - ・ シャープ製AQUOSファミリンク対応のデジタルハイビジョンレコーダー「AQUOSハイビジョンレコーダー」、ブルーレイディスクレコーダー「AQUOSブルーレイ」（シャープ製AQUOSファミリンク対応の液晶テレビ「アクオス」とあわせてお使いのときのみ）
  - ・ パナソニック製ビエラリンク対応のプレーヤーおよびレコーダー（パナソニック製ビエラリンク対応テレビとあわせてお使いのときのみ）
  - ・ 東芝製レグザリンク対応のプレーヤーおよびレコーダー（東芝製レグザリンク対応テレビとあわせてお使いのときのみ）
  - ・ 日立製Woooリンク対応のレコーダー（日立製Woooリンク対応テレビとあわせてお使いのときのみ）
- **上記以外の他社製テレビやプレーヤー、レコーダーとの連動動作は保証外です。**
- **互換性のある他社製品の型名など最新の情報については、パイオニアホームページをご覧ください。**

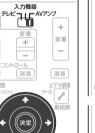
※ AQUOSファミリンクは、シャープ株式会社の登録商標です。
※ その他文中の商品名、技術名および会社名等は、当社や各社の商標または登録商標です。

KURO LINK モードを設定する

本機のKURO LINK機能を有効にするかどうかを設定します。KURO LINK機能を有効にした場合、Display Power Off機能により、テレビの電源をオフにしたときに本機の電源も連動して電源オフ（一斉電源オフ）にするかどうかの設定ができます。本機の設定以外にも、本機と接続するKURO LINK対応機器の設定も必要です。詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

SC-LX82

SC-LX72

6
7

4d1.KURO LINK設定
AVアンプ
KURO LINK : ON
Display Power Off : YES
終了
終了

1 **リモコンをAVアンプ操作モードにする。**

SC-LX82： 入力機器 テレビ AVアンプ　SC-LX72：

2 ホームメニュー **ホームメニューボタンを押す。**

ホームメニュー画面が表示されます。

3 **[4. システム設定]を選んで決定する。**

4 **[d. その他の設定]を選んで決定する。**

5 **[1. KURO LINK設定] を選んで決定する。**

6 **KURO LINK機能のON/OFFを選択する。**

ON：KURO LINK機能が有効になります。
OFF：KURO LINK機能は無効になり、連動動作することはできません。

7 **（手順6でONを選択したときのみ）Display Power off機能のYES/NOを選択する。**

YES：テレビの電源オフに連動して、本機の電源もオフになります。この機能は、HDMIで接続している機器の入力を選んでいる場合や、テレビを見ている場合のみ有効です。
NO：テレビを電源オフにしても、本機の電源は連動しません。

8 戻る **戻るボタンを押す。**

KURO LINKモードの設定を終了します。
ホームメニューを終了するときは、ホームメニュー を押します。

PQLSの設定を行う

本機はPQLS機能に対応しています。PQLS（Precision Quartz Lock System)とは、KURO LINK機能を使ったデジタル音声の伝送制御技術です。より高音質な再生を行うため、本機からPQLS対応プレーヤーなどに対して、音声信号を制御します。これにより、音質に悪影響をおよぼす伝送時に発生するジッターの影響を除去できます。ここではその機能を自動で有効にするか、OFFにするかを切り換えます。ジッターの影響を除去すると、音の立体感や距離感などが鮮明になります。

- PQLS マルチサラウンド機能に対応したプレーヤーと接続した場合、プレーヤーから出力されるすべてのソースでPQLS機能が働きます。プレーヤーの音声出力をリニアPCMに設定してください。
- PQLS 2ch オーディオ機能に対応したプレーヤーと接続した場合、プレーヤーで音楽CDを再生しているときにPQLS機能が働きます。

この機能は、KURO LINK機能をオンにしたときのみ有効です。

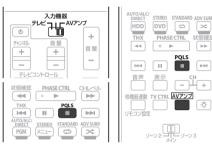
SC-LX82

2 PQLS AUTO

PQLS OFF

- プレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- PQLS機能に対応するプレーヤーについては、パイオニアホームページをご覧ください。

1 **リモコンをAVアンプ操作モードにする。**

SC-LX82: SC-LX72:

2

PQLSの設定を選ぶ。

ボタンを押すたびに以下のように設定が切り換わります。設定はフロントパネルに表示されます。

PQLS AUTO：HDMIの機能としてPQLSに対応したプレーヤーで上記の対応ソースを再生した場合、PQLS機能が有効になります。

PQLS OFF：PQLS機能は働きません。

連動動作を開始する前に動作確認する

接続と設定が終了したら、下記の確認作業を必ず行ってください。

1 **すべての機器の電源をオフ（スタンバイ状態）にする。**

2 **テレビ以外のすべての機器の電源をオンにする。**

3 **テレビの電源をオンにする。**

4 **テレビの入力を本機が接続されたHDMI入力に切り換える。**

5 **本機の入力をHDMI機器が接続されたHDMI入力に切り換える。**

6 **手順5で選んだHDMI入力に接続した機器を再生する。**

テレビに映像が表示されることを確認します。

7 **手順5 ～ 6を繰り返し、すべてのHDMI入力を確認する。**

アンプ連動モードを使う

KURO LINK対応テレビのリモコンでアンプ連動モードにすることができます。アンプ連動モードでの動作は以下の説明をご覧ください。これらの機能はテレビのメニュー画面で設定します。詳しくは、KURO LINK対応テレビの取扱説明書をご覧ください。

アンプ連動モードでの連動動作について

アンプ連動モード使用中は、本機と接続したKURO LINK対応機器が以下のように連動動作します。

- テレビのリモコンで、本機の音量調節や消音(ミュート)操作ができます。
- テレビの電源を切る(スタンバイ状態にする)と、本機の電源もOFF(スタンバイ状態)になります。(本機にHDMI接続されている機器の入力を選択しているときや、テレビを視聴している場合のみ。)
- KURO LINK対応機器の再生操作に連動して、本機の入力が自動的に切り換わります。
- テレビのチャンネルを切り換えると、本機の入力が連動して切り換わります。
- 本機の入力をHDMI以外に切り換えても連動モードは継続されます。

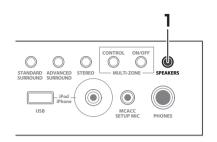
パイオニア製KURO LINK対応フラットテレビでは以下の動作も可能です。

- 本機の音量、消音などを操作したときに、その状態をフラットテレビの画面に表示します。
- フラットテレビでメニュー言語を切り換えると、本機の言語設定も連動して切り換わります。

アンプ連動モードの解除

- アンプ連動モードを解除すると、テレビでHDMI入力またはテレビ放送を視聴していた場合、本機の電源が切れます。
- アンプ連動モードのときに、本機の電源を切ることでアンプ連動モードは解除されます。このとき再度アンプ連動モードにするには、テレビのリモコンでアンプ連動を選びます。
- アンプ連動モードのときに、テレビのメニュー画面等でテレビから音を出すように操作すると、アンプ連動モードが解除されます。

スピーカーシステムを切り換える

スピーカーシステムA/Bを切り換えると、再生されるスピーカーが切り換わります。必要に応じて使用するスピーカーシステムを選択してください。

- ヘッドホンをPHONES端子に差し込んでいる間は自動的にOFFに切り換わります。（ただし、「Speaker B」に設定されているときは、スピーカー端子Bからは音が出ます。）
- リスニングモードをPURE DIRECTモードにしているときは、スピーカーBからは音が出ません。（→57ページ）

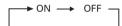
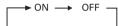
1

スピーカーシステムを切り換える。

「Surr Back Systemの設定」（→132ページ）によって選択できるモードが異なります。ボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

「ノーマル」に設定している場合

「Speaker B」に設定している場合

「Front Bi-Amp」に設定している場合

「ZONE 2」に設定している場合

各スピーカーシステム選択時の出力音声について

「ノーマル」に設定している場合

A (SP▶A)　：すべてのスピーカーから出力されます。

「Speaker B」に設定している場合

A (SP▶A)　：スピーカー端子A に接続されたスピーカーから出力されます。（サラウンド再生が可能です。）
B (SP▶B)　：スピーカー端子B に接続されたスピーカーからのみ出力されます。（2chステレオ再生のみ可能です。）MULTI CH INでは音が出力されません。
A+B (SP▶AB)：上記A (SP▶A)とB (SP▶B)の音声が同時に出力されます。

「Front Bi-Amp」に設定している場合

A+B (SP▶AB)：すべてのスピーカーから出力されます。スピーカー端子Bから出力される音声はスピーカー端子Aのフロント出力と同じ音声です。

「ZONE 2」に設定している場合

A (SP▶A)　：スピーカー端子Aに接続されたスピーカーから、メインゾーンで選択されている音が出力されます。ZONE 2がONのときはスピーカー端子Bに接続されたスピーカーからZONE 2で選択されている音が出力されます。

上記の全設定共通

OFF (SP▶　)：スピーカーから出力されません。このとき「Surr Back Systemの設定」（→132ページ）を「ZONE 2」に設定していて、ZONE 2がONのときは、SP▶Bから音が出ます。
(プリアウト端子からは常に音声が出力されているため、サブウーファーからは音が出る場合があります。)

別の部屋で本機の音や映像を再生する ～マルチゾーン機能～

本機を操作して、本機のある部屋（メインゾーン）とは別の部屋（サブゾーン）で本機につないだ機器の再生を楽しめます（マルチゾーン機能）。本機ではメインゾーンとは別にZONE 2とZONE 3の2つのシステムを構築することができます。メインゾーンとサブゾーンで同時に同じソースを再生することはもちろん、別々のソースを再生することもできます。Surr Back Systemの設定で「ZONE 2」を選択しているときは、スピーカー端子からの音声出力もできます。
サブゾーンで再生可能な入力信号は以下の通りです。

	ビデオ出力	Sビデオ出力	コンポーネント ビデオ出力	アナログ音声 出力	デジタル音声 出力
ZONE2	○*3 (VIDEO ZONE2 OUT)	×	○*2、3、4、5 (COMPONENT VIDEO ZONE2 OUT)	○*1 (AUDIO ZONE2 OUT)	×
ZONE3	○*3 (VIDEO ZONE3 OUT)	×	×	○*1 (AUDIO ZONE3 OUT)	×

*1 MULTI CH INとPHONO入力を除くすべてのアナログ入力音声を出力します。HDMI音声は出力しません。また、リスニングモードや低音／高音調整などの各種音声機能は使えません。
*2 SC-LX82のみ
*3 USB入力のJPEG画像を再生することはできません。
*4 ビデオコンバート機能は働きませんので、COMPONENT VIDEO ZONE2 OUTでサブゾーンのモニターと接続するときは、入力機器ともCOMPONENT VIDEO IN端子で接続する必要があります。
*5 COMPONENT VIDEO ZONE2 OUTのみの接続ではOSD画面は表示されません。OSD画面を表示するときはVIDEO ZONE2 OUTも接続します。

IRレシーバーがあるときは、IR ZONE 2 IN端子にIRレシーバーを接続してさらにIR OUT端子に機器をつなぐと、その機器もIRレシーバーで操作することができます。

マルチゾーンの設定

サブゾーンの音声出力方法の設定（ZONEオーディオ設定）を行います。

SC-LX82

SC-LX72

5

4d.その他の設定
AVアンプ
1. KURO LINK設定
2. マルチチャンネル入力設定
3. ZONEオーディオ設定
4. 電源オン時音量設定
5. 音量制限設定
6. リモコンモード設定
7. Flicker Reduction設定
終了　戻る

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2 ホームメニューボタンを押す。
ホームメニュー画面が表示されます。

3 [4. システム設定] を選んで決定する。

4 [d. その他の設定] を選んで決定する。

5 [3. ZONEオーディオ設定] を選んで決定する。

6 ZONE 2およびZONE 3の音量設定を選択する。
可変：本機で音量の調整をする場合（サブゾーンのアンプをパワーアンプとして音声出力する場合）に選びます。
固定：サブゾーンのアンプを使って音量の調整をする場合に選びます。（本機のサブゾーン側の音量は最大になります。）

「固定」を選んだ場合、本機の音量は最大で固定されます。大音量での出力を避けるため、必ずサブゾーンのアンプを使って適切な音量に調整してください。

6

4d3.ZONEオーディオ設定
AVアンプ

ZONE 2 音量 : 可変
ZONE 3 音量 : 可変

終了　　終了

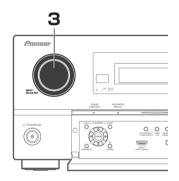
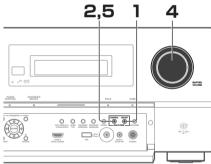
Surr Back Systemの設定が「ZONE 2」のときは、手順6で「固定」を選択できません。

7 戻る

戻るボタンを押す。

[ZONEオーディオ設定]を終了します。
ホームメニューを終了するときは、ホームメニュー を押します。

フロントパネルでマルチゾーンの操作をする

フロントパネルのボタンを使用して、サブゾーンの入力や音量を操作します。

- マルチゾーン機能では、電源の入／切もメインゾーンとサブゾーンで別になります。
- マルチゾーンの設定で「固定」が選ばれているとき、本機では音量を調整できません。
- スリープ機能が働くとメインゾーンとサブゾーンの両方の電源がオフ（スタンバイ状態）になります。
- ホームメニュー画面表示中は、マルチゾーン操作はできません。

1　MULTI-ZONE ON/OFFを押す。

押すたびに以下のように切り換わります。
ZONE 2 ON：ZONE 2のマルチゾーン機能をオンにします。
ZONE 2 & 3 ON：ZONE 2とZONE 3のマルチゾーン機能をオンにします。
ZONE 3 ON：ZONE 3のマルチゾーン機能をオンにします。
MULTI ZONE OFF：マルチゾーン機能をオフにします。
マルチゾーン機能がオンのときは、表示部のMULTI-ZONEインジケーターが点灯します。

2　MULTI-ZONE CONTROLを押す。

押すたびに、メインゾーン操作とサブゾーン操作が切り換わります。ZONE 2とZONE 3の両方をONにしているときはZONE 2とZONE 3を切り換えることができます。

10秒間操作がないと自動的にマルチゾーンコントロールモードが終了します。

3　INPUT SELECTORで入力ファンクションを切り換える。

たとえば、手順2でZONE 2を選び、手順3でDVDを選ぶと、DVD入力の音声と映像をZONE 2で楽しむことができます。

4　MASTER VOLUMEダイヤルで音量を調節する。

－－－ dB（最小値）から0 dB（最大値）の範囲で調節できます。
ただし「ZONE 2 音量」または「ZONE 3 音量」が「固定」のときは0 dBに固定されます。

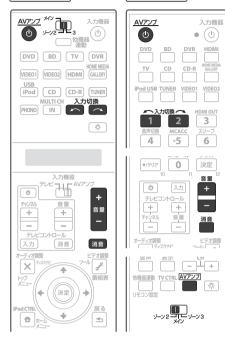
5　MULTI-ZONE CONTROLを押す。

マルチゾーンの操作を終了します。

6　選んだ機器の再生をする。

リモコンでマルチゾーンの操作をする

リモコンを使用して、サブゾーンの入力や音量を操作します。

SC-LX82　SC-LX72

1 マルチゾーン切り換えスイッチをゾーン2またはゾーン3にする。

SC-LX82：メイン　ゾーン2　3

SC-LX72：ゾーン2　メイン　ゾーン3

ゾーン2にするとリモコンがZONE 2の操作モード、ゾーン3にするとZONE 3の操作モードに切り換わります。
メインゾーン操作モードに戻すときはメインに切り換えます。

2 AVアンプ

AVアンプ⏻ボタンを押してマルチゾーン機能の電源を入れる。

3 AVアンプ

（SC-LX72のみ）
リモコンをAVアンプ操作モードにする。

4 入力ファンクションを切り換える。

入力切換ボタンで機器を選びます。

5 音量を調節する。

SC-LX82：

消音

SC-LX72：

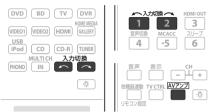
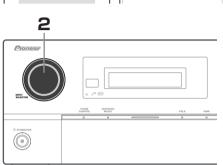
音量
＋
－
消音

－－－ dB（最小値）から0 dB（最大値）の範囲で調節できます。
（本体の場合は、MASTER VOLUMEで調節します）
一時的に音を消したいときは、消音ボタンを押します。もう一度押すか、音量を調節することで解除します。

- 本機のリモコンで以下のサブゾーン操作ができます。
  AVアンプ ⏻ ：本機の電源切り換え
  入力切換　：入力ファンクションの選択
  音量＋/－　：音量調整（ただし、「ZONEオーディオ設定」（→90ページ）で[固定] が選ばれているときは調整できません。）
  消音　：音を消します。
- パイオニア製アンプをサブゾーンで使用する場合は、本機のリモコン操作で同時にアンプが動作してしまいます。IRレシーバーでのマルチルーム操作をするときは、メインゾーン（本機）のリモコンモードを2～4のいずれかに設定することで、同時に動作することを防ぐことができます。（→140、SC-LX82：96、SC-LX72：105ページ）

マルチチャンネルアナログ再生する

マルチチャンネルアナログ入力で接続した機器の音声を本機で聞きます。
マルチチャンネルアナログ接続については、「マルチチャンネルアナログ機器の接続」(→34ページ)をご覧ください。

SC-LX82　SC-LX72

1 (SC-LX72のみ)
リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2 MULTI CH IN入力にする。

SC-LX82:

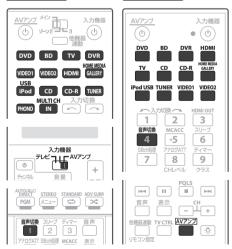
SC-LX72:

入力切換ボタンを繰り返し押すか、本体のINPUT SELECTORダイヤルを回して入力を切り換えます。

- DVDプレーヤーによってはサブウーファーチャンネルのアナログ出力レベルが小さいものがあります。この場合は「その他の設定」の「マルチチャンネル入力設定」で、サブウーファーの入力レベルを10 dB上げることができます。詳しくは「マルチチャンネル入力を設定する」(→138ページ)をご覧ください。
- MULTI CH IN入力で映像を同時に再生することができます。詳しくは「マルチチャンネル入力を設定する」(→138ページ)をご覧ください。

接続した機器間で録音／録画をする

本機を通して録音／録画を行う場合、入出力それぞれの機器は同じタイプのコードで接続されている必要があります。録音/録画端子では、音声のアナログ/デジタルのタイプを一致させ、映像はそれぞれの機器とコンポジットで接続してください。

SC-LX82　SC-LX72

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

SC-LX82:　SC-LX72:

2 録音/録画するソースを選ぶ。

3 入力信号を選択する。

SC-LX82: 音声切換 1

SC-LX72: 音声切換 4

デジタル録音するときは、DIGITALを選択します。詳しくは「音声入力信号の切り換え」(→49ページ)をご覧ください。

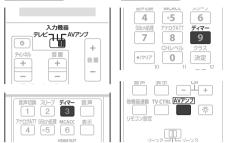
4 録音/録画機器の録音/録画を開始する。

5 録音/録画するソースを再生する。

- 本機の音量、チャンネルレベル、オーディオ調整機能、ビデオ調整機能、サラウンドの設定などは、録音信号には効果がありません。
- 市販ソフトの録音／録画は、個人で楽しむ場合を除いて、著作権法上認められていません。また、コピーガード信号により録音／録画のできないものもあります。
- デジタル録音について、ソフトによってはコピー回数制限のあるものがあります。詳しくは、録音機器の取扱説明書をご覧ください。
- MCACC測定中は、録音／録画を行わないでください。
- MULTI CH IN端子に入力された音声は、フロントL、Rの2chのみ録音することができます。

フロントパネル表示部の明るさを調整する

フロントパネル表示部の明るさを4段階に調整することができます。

SC-LX82

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

SC-LX82：入力機器 テレビ AVアンプ

SC-LX72：AVアンプ

2 ディマーボタンを押してお好みの明るさに調整する。

SC-LX82：ディマー 3

SC-LX72：ディマー 9

押すたびに表示部の明るさが 4 段階で切り換わります。

- 明るさを一番暗い設定にしたときは、ボリューム表示とSTANDBYインジケーターを残して、すべてを消灯します。
- 設定した明るさにかかわらず、何かの操作をしたときは明るく点灯し、約2秒後に元の明るさに戻ります。
- 本体やリモコンで操作時や、エラー表示および禁止メッセージ発生時は、この設定にかかわらず明るく表示されます。

スリープタイマーを設定する

指定した時間が経過すると、本機の電源が切れるように設定できます。

SC-LX82　SC-LX72

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

SC-LX82：入力機器 テレビ AVアンプ

SC-LX72：AVアンプ

2 スリープボタンを押してタイマーを設定する。

SC-LX82：スリープ 2

SC-LX72：スリープ 6

押すたびにスリープタイマーの時間が以下のように切り換わります。
スリープタイマーが設定されると SLEEP インジケーターが点灯します。

SLEEP 30 min → SLEEP 60 min → SLEEP 90 min → SLEEP OFF → SLEEP 30 min

- スリープタイマーを設定したあとにスリープボタンを1回押すと、残り時間が表示されます。
- マルチゾーン機能（→91ページ）がONのときにスリープタイマーを設定すると、すべてのゾーンの電源が同時に切れます。

HDMI出力を切り換える

HDMI出力端子から映像/音声を出力するとき、HDMI OUT1とHDMI OUT2のどちらの端子から出力するかを設定します。工場出荷時はHDMI OUT ALLに設定されていて、どちらの端子からも映像/音声を出力します。
HDMI OUT1端子はKURO LINK機能に対応しています。HDMI OUT2端子に接続したテレビで視聴するときは、KURO LINK設定をOFFにすることをお勧めします。

SC-LX82　SC-LX72

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

SC-LX82：入力機器 テレビ AVアンプ

SC-LX72：

2 SC-LX82：HDMI OUT 9　SC-LX72：HDMI OUT 3

HDMI OUTボタンを押してHDMI出力を切り換える。

「Please wait ...」と表示されている間、しばらくお待ちください。
押すたびに「HDMI OUT1」、「HDMI OUT2」と「HDMI OUT ALL」が切り換わります。

- HDMI出力を切り換えるとアンプ連動モード(→88ページ)は解除されます。アンプ連動モードを使いたいときはHDMI OUT1に切り換え、フラットテレビのリモコンでアンプ連動モードを選択します。
- HDMI OUT1とHDMI OUT2の両方の端子に機器を接続しているとき、「HDMI OUT ALL」に設定すると機器の状態により映像の解像度などが制限されることがあります。また、「HDMI OUT ALL」設定時に、いずれかのテレビの電源をオン/オフすると、もう一方のテレビの画像、音声が一瞬とぎれます。

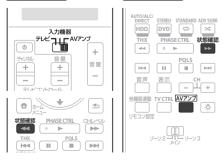
再生中の音声や設定内容を確認する（ステータス表示）

リモコンの状態確認ボタンを押すことで、右記の情報を確認することができます。確認項目は本体のディスプレイに表示されます。右記の情報は各入力ごとに確認することができます。

音声入力信号
↓
サンプリング周波数
↓
SBch 処理モード
↓
MCACC MEMORY
↓
ZONE 2 入力
↓
ZONE 3 入力
↓
KURO LINK
↓
HDMI 出力

SC-LX82　SC-LX72

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

SC-LX82：入力機器 テレビ AVアンプ　SC-LX72：AVアンプ

2 SC-LX82：状態確認 ◀◀　SC-LX72：状態確認 ▶▶

設定内容を確認する。

ディスプレイに上記の情報が表示されます。
表示は3秒ごとに切り換わります。
もう一度ボタンを押すと、通常表示に戻ります。

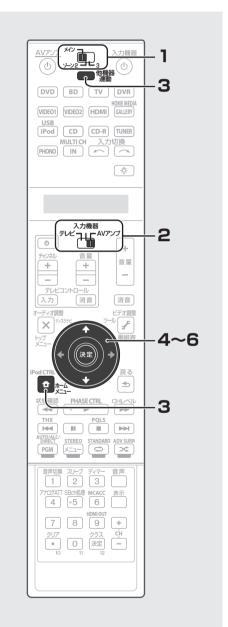
リモコンによる他機器の操作（SC-LX82）

重要

ここではSC-LX82の「リモコンによる他機器の操作」をまとめて説明します。SC-LX72の「リモコンによる他機器の操作」は105 ～ 113ページをご覧ください。

リモコンで複数のパイオニア製アンプを操作する

付属のリモコンで、本機のほかに3台のアンプを別々に操作できます（操作可能なアンプは、本機と同型機のみです）。リモコンにプリセットコードを入力して、操作するアンプを指定します。

- この機能を使用する前に、操作したいアンプにリモコンモードを設定してください。詳しくは「リモコンモードを設定する」（→140ページ）をご覧ください。

1 マルチゾーン切り換えスイッチがメインになっていることを確認する。

2 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

3 他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。

リモコンに「SETUP」が表示されます。
設定を中止するには他機器連動ボタンを2秒間押し続けます。
1分間何も操作がないときは設定が中止されます。

4 「RC MODE」を選んで決定する。

「EXIT」を選んで決定すると設定を終了します。

5 リモコンモードを選ぶ。

「RC MODE 1」～「RC MODE 4」まで選択できます。

6 リモコンモードを決定する。

選んだモードが3秒間点滅して設定完了になります。
他のアンプを操作する場合は、上記手順1からもう一度操作して番号を入力し直してください。

本機よりも前に発売されたパイオニア製アンプをお使いの場合でも、一部機能は本機のリモコンで操作できることがあります（電源オン／オフ、入力切り換え、音量操作など）。この場合、お使いのアンプをアンプ１として使用し、本機をアンプ２～4に設定することで、別々に操作することができます。

リモコンで他機器を操作する

付属のリモコンを使って、本機以外のパイオニア製品や他社の機器(ビデオデッキ、テレビ、DVD、CDプレーヤーなど)を操作できます。お手持ちの機器のプリセットコードがリモコンに登録されている場合は、該当するコードを呼び出すだけで操作できるようになります。また、プリセットコード非対応の機器でも、その機器に付属のリモコンから直接登録(学習)することが可能です。

他機器のリモコン信号を本機のリモコンに呼び出す（プリセットコード設定）

本機付属のリモコンには、複数のAV機器(他社製品を含む)のプリセットコードが登録されています。登録する機器のブランド名から検索することができます。

- 各ボタンの役割は「他機器の操作について」(→103ページ)をご覧ください。

1

＋

他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。

リモコンに「SETUP」が表示されます。
設定を中止するには他機器連動ボタンを2秒間押し続けます。
1分間何も操作がないときは設定が中止されます。

2

「PRESET」を選んで決定する。

「EXIT」を選んで決定すると設定を終了します。

3

または

操作したい機器のマルチコントロールボタンを選んで決定する。

「テレビコントロール」ボタンで操作したいテレビのプリセットコードを登録するときは、リモコン操作モード切り換えスイッチを「テレビ」にしてから決定します。

4

登録する機器のブランド名の頭文字を選んで決定する。

たとえば、パイオニアを登録するときは、「P」を選びます。

5

登録する機器のブランド名を選んで決定する。

6

登録する機器とコード番号を選んで決定する。

たとえば、DVDプレーヤーの場合は「DVD」、コード番号が複数あるときはそれぞれのコード番号で試してみてください。入力機器⏻ボタンを押して、その機器の電源を入／切できれば正しいものが選ばれたことになります。
決定ボタンを押すと「OK」が表示されて、登録が終了します。

7

他機器
連動

他機器連動ボタンを2秒間押し続けて、プリセットコード設定を終了する。

- HOME MEDIA GALLERY、iPod USB、TUNERボタンにはプリセットコードを登録することができません。
- プリセットのコード番号は、数字が大きいほど新しい機器に対応しています。
- 正しく設定できているようでも、一部のボタンのみ違うコード番号も複数あります。実際に操作できるかを確認してください。
- すべてのモデルには対応していませんので、使用できない機能は学習させてください(→98ページ)。もとの機器に入っていない機能は動作しません。

パイオニア製の他機器コードに関する諸注意

- HDD内蔵DVDレコーダーの4コードはPIONEER DVR 487、488、489、493に対応しています。
- 05年夏以前に発売されたプラズマテレビをお持ちの方は、679、667、638(地上波対応)や639(BSデジタル対応)など、必要に応じてお試しください。一部海外向けのコードも内蔵されているため、TVの10ch/11ch/12chが誤作動するものもあります。

現在設定されているコード番号の確認

- 登録後に、そのプリセットコードを確認できます。手順2で「READ ID」を選んで決定すると、登録されているブランド名とコード番号が約3秒間表示されます。

好きなボタンに他機器の操作を記憶させる（学習モード）

他機器のリモコンの操作を本機のリモコンに直接学習させることができます。プリセットコードを登録しただけでは使用できない操作などは、以下の手順で追加登録(学習)してください。

手順4　学習可能なボタン

上記イラストの強調表示されているボタンに登録(学習)が可能です。
ただし、「テレビコントロール」ボタンは、リモコン操作モード切り換えスイッチをテレビに合わせたときのみ登録(学習)できます。

1 他機器連動 ＋ ホームメニュー

他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。

「SETUP」が表示されます。設定を中止するには他機器連動ボタンを2秒間押し続けます。1分間何も操作がないときは設定が中止されます。

2

「LEARNING」を選んで決定する。

「EXIT」を選んで決定すると設定を終了します。

3 DVD BD TV DVR HOME MEDIA GALLERY VIDEO1 VIDEO2 HDMI USB iPod CD CD-R TUNER PHONO

操作したい機器のマルチコントロールボタンを選んで決定する。

「PRES KEY」が点滅します。

4 **本機器と他機器のリモコンを向かい合わせて、記憶させたい本機のボタンを押す**

「PRES KEY」が点灯します。
学習できるボタンについては左図をご覧ください。

5 **記憶させたい他機器のリモコンのボタンを、数秒押して離す。**

「OK」が表示されて、登録(学習)が終了します。
「ERROR」が表示された場合は、手順4からやり直してみてください。

6 **同じ他機器リモコンについて登録(学習)を続けるには、手順4 ～ 5を繰り返す。**

別の他機器リモコンを登録するには、手順7へ進み、いったん終了してからもう一度行ってください。

7 他機器連動

他機器連動ボタンを2秒間押し続けて、学習モードを終了する。

- HOME MEDIA GALLERY、iPod USBボタンには登録(学習)することができません。
- 登録(学習)できる操作の数はパイオニアフォーマットで、およそ200コードです。
- 手順4～5は、強い蛍光灯の下やTVの前で行わないでください。異なるコードが登録されてしまうことがあります。

リモコンの登録操作の解除と設定全解除

特定のボタンに登録された操作のみを解除する

1

＋

他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。

「SETUP」が表示されます。
設定を中止するには他機器連動ボタンを2秒間押し続けます。

2 **「ERASE」を選んで決定する。**

3

解除したい機器のマルチコントロールを選んで決定する。

「PRES KEY」が点滅します。

4 **消去したい操作ボタンを2秒間押し続ける。**

「OK」が表示されて、消去が終了します。

5 **他機器連動ボタンを2秒間押し続けて、登録解除を終了する。**

リモコンに設定されたプリセットコードと学習させた他機器の操作を解除する

リモコンに設定された各種設定をすべてリセットし、工場出荷時の状態に戻します。

1

＋

他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。

「SETUP」が表示されます。
設定を中止するには他機器連動ボタンを2秒間押し続けます。

2 **「RESET」を選んで決定する。**

「RESET」が点滅します。

3

決定ボタンを2秒間以上押し続ける。

「NOW RST」と表示され、リセットが完了すると「OK」と表示され、設定が解除されます。
「ERROR」と表示されたときはもう一度手順1からやり直してください。

4 **他機器連動ボタンを2秒間押し続けて、登録解除を終了する。**

- プリセットコード設定（→97ページ）を行うことでマルチコントロールに学習した内容はすべて解除されます。すべてのマルチコントロールボタンをリセットせずに一部のマルチコントロールボタンをリセットするときに便利です。

マルチコントロールボタンの入力切換を解除する（ダイレクトファンクション）

ダイレクトファンクションはマルチコントロールボタンを押したときに、本機の入力ファンクションを連動して切り換えるかを設定する機能です。オフにすると入力ファンクションは切り換わらず、リモコンの操作ボタンの機能だけが切り換わります。工場出荷時はすべてオンになっています。

1

＋

他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。

「SETUP」が表示されます。
設定を中止するには他機器連動ボタンを2秒間押し続けます。

2 **「DIRECT F」を選んで決定する。**

3

操作したい機器のマルチコントロールボタンを選んで決定する。

4

手順3で選んだ機器について、ダイレクトファンクションのON、OFFを選んで決定する。

「OK」が表示されます。

5 **他機器連動ボタンを2秒間押し続けて、設定を終了する。**

リモコンに表示される入力名を変更する ～リネーム機能～

リモコンディスプレイに表示される入力ファンクション名を変更することができます。たとえば、BD入力を機器の名称(例：「BDP-LX71」など)に変更することができます。各入力ファンクション(他機器操作ボタン)ごとに接続された機器やメーカー名などを入力すれば、どの入力ファンクション(他機器操作ボタン)にどんな機器が接続されているのかを簡単に確認することができます。

1

他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。

「SETUP」が表示されます。
設定を中止するには他機器連動ボタンを2秒間押し続けます。

2

「RENAME」を選んで決定する。

3

名前を変更したい入力ファンクション(他機器操作ボタン)を選んで決定する。

リモコンディスプレイが入力ファンクション名の変更画面になります。

4

「NAME EDT」を選んで決定する。

名前をもとに戻したいときは「NAME RST」を選びます。

5

⇧/⇩ボタンで入力する文字を選んで、⇦/⇨ボタンでカーソルを左右に動かす。

入力できる文字は以下のとおりです。
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTU
VWXYZ
0123456789 \ / ＊ + − (スペース)
最大8文字まで入力することができます。

6

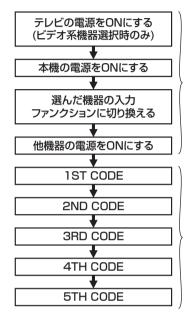
他機器
連動

入力を終了する。

リネーム機能を終了します。
手順2へ戻ります。
設定を終了するには他機器連動ボタンを2秒間押します。

リモコンの他機器連動機能を使いこなす

起動時連動操作　～マルチ・オペレーション～

視聴を始めるための一連の動作を、2つのボタンを押すだけで実現させる機能です。あらかじめ決められているコマンドに加え、各他機器操作面に対し、5つまで自由に登録できる操作(コマンド)を設定できます。

必ず送信される
特定のコマンド
（パイオニア製品のみ有効で
一部無効のものもあります）

ユーザーにより
自由に設定が可能

設定が無い場合は
上記コマンドのみ送信されます

終了時連動操作　～システム・オフ～

視聴が終了したときに、すべての機器の電源を一斉にオフにする動作を2つのボタンを押すだけで実現させる機能です。
5つまで自由に登録できる操作(コマンド)と、本機を含めたすべてのパイオニアの機器の電源オフのコマンドが送信されます。

ユーザーにより
自由に設定が可能

設定が無い場合は
下記コマンドのみ送信されます

必ず送信される
特定のコマンド
（パイオニア製品のみ有効で
一部無効のものもあります）

上記イラストの強調表示されているボタンに登録可能です。

※ DVDレコーダーなど、一部対応していない機器もあります。

- 録画中に電源が切れてしまうことのないように、「必ず送信される特定のコマンド」にDVDレコーダーの電源をOFFにするコマンドは入っていません。

通常、⏻ ボタンにはパワーの ON/OFF コードが入っています。このコードでは、電源は前の状態の逆になるため、確実に ON(または OFF) させることはできませんので、自由コマンドとして設定することはお勧めしません。

連動操作を設定する

以下の設定を行う前に、この機能で使用したいリモコンコードは、必ずプリセットコード設定か学習モードを使用して、何かのボタン(キー)に割り当てておく必要があります。また、本機の操作を登録したいときは、リモコンの操作モード切り換えスイッチを「AVアンプ」に、他機器の操作を登録したいときは「入力機器」にしておきます。

ここでは例として、DVDボタンに「DVDを再生(または停止)する」という操作を記憶させます。

1 他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。

「SETUP」が表示されます。
設定を中止するには他機器連動ボタンを2秒間押し続けます。

2

起動時連動の設定は

「MULTI OP」を選んで決定し、手順3に進みます。

終了時連動の設定は

「SYS OFF」を選んで決定し、手順4に進みます。

3 起動動作を記憶させたい他機器操作ボタンを選んで決定する。

例）DVDボタンを選んで決定します。

4 「CODE EDT」を選んで決定する。

「CODE ERS」を選択すると現在登録しているコマンドを消去します。

5 登録したいCODEを選んで決定する。

例）「1ST CODE」を選んで決定します。
「PRES KEY」が点滅してコマンドの登録になります。

6 操作したい機器を選択する。

例）DVDボタンを選びます。

7 実行したい操作ボタンを選択する。

例）再生►(または■停止)ボタンを選びます。
コマンド番号選択画面に戻ります。
(手順8へお進みください。)

8 さらにコマンドを登録したいときは、「＊＊＊CODE」を選んで決定したあとに、手順6～7を繰り返す。

1つの他機器操作ボタンに対して最大5つまで登録することができます。

9 「EDIT EXIT」を選んで決定する。

SETUPメニューの表示画面に戻ります。別の他機器操作ボタンにも登録するときは、手順2～8を繰り返してください。

10 「*Exit*」を選んで決定する。

連動操作の登録を終了します

連動操作を実行する

1 マルチオペレーションモードにする。

「MULTI OP」が点滅します。
リモコンを受光部に向けてください。

2 起動時連動の実行は、操作したい他機器を選択する。

プリセット動作と、このボタンに登録されているコマンドが実行されます。

終了時連動の実行は、入力機器の電源ボタン(システム切)を押す。

このボタンに登録したコマンドと、パイオニア製品の電源オフコマンドが送信されます。

- 各コードの送信が終了するまで、リモコンを受光部に向けておいてください。
- 登録したコマンドによっては、送信終了まで3秒以上かかる場合もあります。
- 登録した機器の状態によっては、登録した動作と異なる場合があります。

他機器の操作について

- 以下のリモコン操作を行うには、あらかじめ操作したい機器のリモコンコードを登録しておく必要があります。詳しくは「他機器のリモコン信号を本機のリモコンに呼び出す（プリセットコード設定）」（→97ページ）をご覧ください。
- 実際に操作を始める前に、操作切換スイッチを「入力機器」に合わせてから操作したい機器の他機器操作ボタンを押して、リモコンをその機器の操作モードにしてください。各機器の詳しい機能については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- 機種によっては操作できないボタンもあります。

ボタン ＼ 機器	テレビ	テレビ(モニター)	ブルーレイディスクプレーヤー/DVDプレーヤー	HDD/DVDレコーダー
入力機器⏻	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ
↓↑←→ / 決定	↓↑←→ / 決定	↓↑←→ / 決定	↓↑←→ / 決定	↓↑←→ / 決定
✕	元の画面	元の画面	トップメニュー	トップメニュー/ディスクナビ
🔧	番組表	USER MENU	ツール	番組表
⌂	ホームメニュー	HOME MENU	ホームメニュー	ホームメニュー
↩	戻る	戻る	戻る	戻る
▶	-	-	▶	▶
❚❚	地上デジタル放送	-	❚❚	❚❚
■	BS放送	-	■	■
◀◀	-	-	◀◀	◀◀
▶▶	-	-	▶▶	▶▶
❙◀◀	アナログ放送	-	❙◀◀	❙◀◀
▶▶❙	CS放送	-	▶▶❙	▶▶❙
■ + ▶▶	-	-	-	-
PGM（青）	青ボタン	青ボタン	-	HDD/DVD
メニュー（赤）	赤ボタン	赤ボタン	メニュー（ブルーレイディスクプレーヤー）	メニュー
🔁（緑）	緑ボタン	緑ボタン	-	ビデオ
🔀（黄）	黄ボタン	黄ボタン	メニュー	-
音声	音声切換	音声切換	音声切換	音声切換
表示	表示切換	表示切換	表示切換	表示切換
CH +/–	チャンネル切換	CH +/–	解像度切換 +/–	チャンネル切換
数字ボタン（1～0）	チャンネルの選択	数字の入力	数字の入力	チャンネルの選択
•（10）	10	•	クリア	10
決定（12）	12	CH ENTER	決定	12

- DVDプレーヤーによっては、10以上を選ぶときに＋10方式ではなくENTER方式で番号を決める機種がありますが、その機種も本機リモコンでは・(10) ボタンで操作することができます。

リモコンによる他機器の操作（SC-LX82）

ボタン＼機器	ビデオデッキ	衛星チューナー/ケーブルテレビチューナー	LDプレーヤー	CDプレーヤー/CDレコーダー/SACDプレーヤー	MDプレーヤーDATプレーヤー	カセットデッキ	チューナー
入力機器⏻	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ
⬇⬆⬅➡ / 決定	-	⬇⬆⬅➡ / 決定	⬇⬆⬅➡ / 決定	-	-	⏸/■/◀◀/▶▶	TUNE +/– PRESET +/–
✕	-	ナビ	トップメニュー	-	-	-	BAND
🔧	-	番組表	-	LEGATO LINK（SACD）	-	-	-
🏠	-	メニュー	-	SACD SETUP（SACD）	-	-	-
↩	-	戻る	戻る	-	-	-	-
▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	-
⏸	⏸	⏸	⏸	⏸	⏸	⏸	MPX
■	■	■	■	■	■	■	-
◀◀	◀◀	◀◀	◀◀	◀◀	◀◀	◀◀	-
▶▶	▶▶	▶▶	▶▶	▶▶	▶▶	▶▶	-
⏮	⏮	⏮	⏮	⏮	⏮	⏮	-
⏭	⏭	⏭	⏭	⏭	⏭	⏭	-
■ + ▶▶	-	録画	-	-	-	-	-
PGM（青）	-	青ボタン	-	PROGRAM	-	-	-
メニュー（赤）	-	赤ボタン	-	-	-	-	-
🔁（緑）	-	緑ボタン	-	REPEAT	-	-	-
🔀（黄）	-	黄ボタン	-	SHUFFLE	-	-	-
音声	音声切換	音声切換	音声切換	PURE AUDIO	-	-	-
表示	表示切換	表示切換	表示切換	TIME	-	-	-
CH +/–	チャンネル切換	CH +/–	-	-	-	-	-
数字ボタン（1～0）	チャンネルの選択	数字の入力	数字の入力	数字の入力	数字の入力	-	周波数/ステーションの選択
●（10）	10	＊	+10	＞10/クリア	クリア（MD）	クリア	ダイレクト選局
決定（12）	12	-	決定	ディスク/決定	OPEN/CLOSE（MD）	決定	CLASS

重要

ここではSC-LX72の「リモコンによる他機器の操作」をまとめて説明します。SC-LX82の「リモコンによる他機器の操作」は96 ～ 104ページをご覧ください。

リモコンで複数のパイオニア製アンプを操作する

付属のリモコンで、本機のほかに3台のアンプを別々に操作できます（操作可能なアンプは、本機と同型機のみです）。リモコンにプリセットコードを入力して、操作するアンプを指定します。

- この機能を使用する前に、操作したいアンプにリモコンモードを設定してください。詳しくは「リモコンモードを設定する」（→140ページ）をご覧ください。

1 ゾーン2 メイン ゾーン3 **マルチゾーン切り換えスイッチがメインになっていることを確認する。**

2 AVアンプ **リモコンをAVアンプ操作モードにする。**

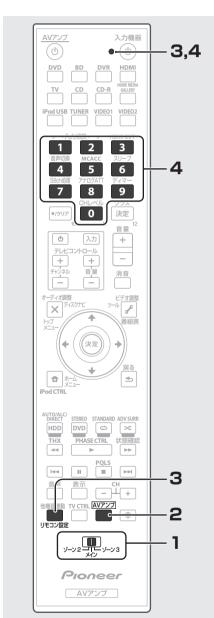
3 リモコン設定 **リモコン設定ボタンを押し続け、LEDランプが2回点滅したら指を離す。**

4 **数字ボタン（1～0）で、操作したいアンプに対応した5桁の番号を入力する。**

操作するアンプのリモコンモードによって以下の番号を入力します。

- アンプ1：61935（工場出荷状態）
- アンプ2：62630
- アンプ3：62631
- アンプ4：62632

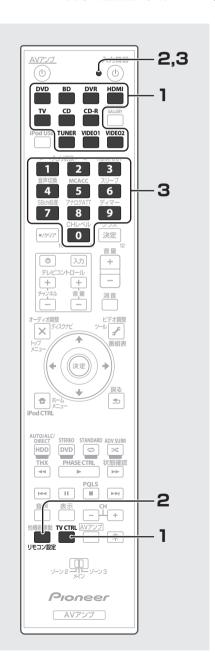
番号を5桁目まで入力するとLEDランプが2回点滅して、設定は完了になります。
他のアンプを操作する場合は、上記手順1からもう一度操作して番号を入力し直してください。

本機よりも前に発売されたパイオニア製アンプをお使いの場合でも、一部機能は本機のリモコンで操作できることがあります（電源オン／オフ、入力切り換え、音量操作など）。この場合、お使いのアンプをアンプ1として使用し、本機をアンプ2～4に設定することで、別々に操作することができます。

リモコンで他機器を操作する

付属のリモコンを使って、本機以外のパイオニア製品や他社の機器(ビデオデッキ、テレビ、DVD、CDプレーヤーなど)を操作できます。他機器を操作する前に、操作したい機器のプリセットコードをリモコンに設定してください。また、プリセットコード非対応の機器でも、その機器に付属のリモコンから直接登録(学習)することが可能です。

他機器のリモコン信号を本機のリモコンに呼び出す（プリセットコード設定）

本機付属のリモコンには、複数のAV機器(他社製品を含む)のプリセットコードが登録されています。操作可能な他機器のプリセットコードは別添の「プリセットコード一覧」をご覧ください。

- 各ボタンの役割は「他機器の操作について」 (→112ページ)をご覧ください。

1 操作したい機器のマルチコントロールボタンを押す。

テレビ基本操作ボタンでお手持ちのテレビを操作したい場合は、ここでTV CTRLボタンを押します。
リモコンのLEDランプが点灯に変わります。

2 リモコン設定ボタンを押し続け、LEDランプが2回点滅したら指を離す。

リモコン設定

リモコンの設定モードになります。10秒間何も操作がないときは設定が中止されます。

3 数字ボタン(1～0)で、操作したい機器に対応した5桁の番号を入力する。

番号を5桁目まで入力するとLEDランプが2回光って、設定は完了になります。（設定が正しく行われなかった場合は、LEDランプが1回光ります。）
機器を登録し直したい場合や、他のマルチコントロールボタンに機器を登録する場合は、上記手順1から同様に操作してください。

4 他機器を操作できることを確認する。

入力機器⏻ボタンを押したときに、機器の電源をオン/オフできることを確認してください。操作できない場合、プリセットコード一覧に複数のコードがある場合は、他のコードを入力して試してみてください。

- パイオニアのフラットテレビやフラットパネルディスプレイを操作する場合は、TVまたはTV CTRLボタンに以下のプリセットコードを割り当ててください。
  13001（KRP-500A、KRP-600A）
  13003（KRP-500M、KRP-600M）
- HOME MEDIA GALLERY、iPod USBボタンにはプリセットコードを登録することができません。
- 正しく設定できているようでも、一部のボタンのみ違うコード番号も複数あります。実際に操作できるかを確認してください。

好きなボタンに他機器の操作を記憶させる（学習モード）

他機器のリモコンの操作を本機のリモコンに直接学習させることができます。プリセットコードを登録しただけでは使用できない操作などは、以下の手順で追加登録（学習）してください。

手順4　学習可能なボタン

上記イラストの強調表示されているボタンに登録（学習）が可能です。
ただし、「テレビコントロール」ボタンは、手順3でTV CTRLボタンを押したときのみ登録（学習）できます。

1 リモコン設定

リモコン設定ボタンを押し続け、LEDランプが2回点滅したら指を離す。

リモコンの設定モードになります。10秒間何も操作がないときは設定が中止されます。

2 数字ボタンの9、7、5を順番に押す。

LEDランプが2回点滅します。

3 DVD BD DVR HDMI / TV CD CD-R HOME MEDIA GALLERY / iPod USB TUNER VIDEO1 VIDEO2

操作したい機器のマルチコントロールボタンを選ぶ。

4 本機器と他機器のリモコンを向かい合わせて、記憶させたい本機のボタンを押す

3 cm

LEDランプが5秒間点灯します。5秒の間にリモコン信号を受信しないと学習モードを終了します。
学習できるボタンについては左図をご覧ください。

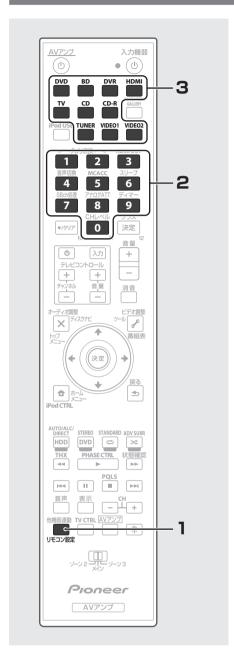
5 記憶させたい他機器のリモコンのボタンを、数秒押して離す。

LEDランプが2回光って、登録（学習）は完了になります。（設定が正しく行われなかった場合は、LEDランプが1回光ります。）
設定が正しく行われなかった場合は、手順4からやり直してみてください。

6 同じ他機器リモコンについて登録（学習）を続けるには、手順4 ～ 5を繰り返す。

別の他機器リモコンを登録するには、設定をいったん終了し、手順1からもう一度行ってください。

- HOME MEDIA GALLERY、iPod USBボタンには登録（学習）することができません。
- 登録（学習）できる操作の数はパイオニアフォーマットで、およそ200コードです。
- 手順4～5は、強い蛍光灯の下やTVの前で行わないでください。異なるコードが登録されてしまうことがあります。

リモコンの登録操作の解除

1 リモコン設定

リモコン設定ボタンを押し続け、LEDランプが2回点滅したら指を離す。

リモコンの設定モードになります。10秒間何も操作がないときは設定が中止されます。

2 **数字ボタンの9、7、6を順番に押す。**

LEDランプが2回点滅します。

3 DVD BD DVR HDMI TV CD CD-R HOME MEDIA GALLERY iPod USB TUNER VIDEO1 VIDEO2

解除したい機器のマルチコントロールを選ぶ。

マルチコントロールボタンに学習された全てのボタンの登録を解除するときは、ここでマルチコントロールボタンを2回押します。

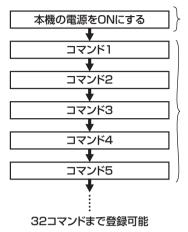
4 **消去したい操作ボタンを2回押す。**

LEDランプが2回光って、消去が終了します。（設定が正しく行われなかった場合は、LEDランプが1回光ります。）

5 **登録操作の解除を続けるには、手順3 ～ 4を繰り返す。**

リモコンの他機器連動機能を使いこなす

起動時連動操作　～マルチ・オペレーション～

視聴を始めるための一連の動作を、2つのボタンを押すだけで実現させる機能です。各他機器操作面に対し、32コマンドを自由に登録できます。

必ず送信されるコマンド

ユーザーにより自由に設定が可能

終了時連動操作　～システム・オフ～

視聴が終了したときに、すべての機器の電源を一斉にオフにする動作を2つのボタンを押すだけで実現させる機能です。

5つまで自由に登録できる操作(コマンド)と、本機を含めたすべてのパイオニアの機器の電源オフのコマンドが送信されます。

ユーザーにより自由に設定が可能

設定が無い場合は下記コマンドのみ送信されます

必ず送信される特定のコマンド（パイオニア製品のみ有効で一部無効のものもあります）

上記イラストの強調表示されているボタンに登録可能です。

※ DVDレコーダーなど、一部対応していない機器もあります。
- 録画中に電源が切れてしまうことのないように、「必ず送信される特定のコマンド」にDVDレコーダーの電源をOFFにするコマンドは入っていません。

通常、⏻ ボタンにはパワーの ON/OFF コードが入っています。このコードでは、電源は前の状態の逆になるため、確実に ON(または OFF) させることはできませんので、自由コマンドとして設定することはお勧めしません。

連動操作を設定する

以下の設定を行う前に、この機能で使用したいリモコンコードは、必ずプリセットコード設定か学習モードを使用して、何かのボタン(キー)に割り当てておく必要があります。また、本機の操作を登録したいときは、リモコンの AVアンプ を押してから操作ボタンを押します。
ここでは例として、DVDボタンに「DVDを再生(または停止)する」という操作を記憶させます。

1 リモコン設定

リモコン設定ボタンを押し続け、LEDランプが2回点滅したら指を離す。

リモコンの設定モードになります。10秒間何も操作がないときは設定が中止されます。

2 数字ボタンの9、9、5を順番に押す。

LEDランプが2回点滅します。
終了時連動の設定を行うときは手順3へ、起動時連動の設定を行うときは手順4へ進みます。

3 入力機器

入力機器⏻ボタンを押す。

4 DVD BD DVR HDMI TV CD CD-R HOME MEDIA GALLERY iPod USB TUNER VIDEO1 VIDEO2

操作したい機器を選択する。

例）DVDボタンを選びます。

5 実行したい操作ボタンを選択する。

例）再生►(または■停止)ボタンを選びます。
コマンド番号選択画面に戻ります。
(手順6へお進みください。)

6 さらにコマンドを登録したいときは、手順4～5を繰り返す。

- コマンドとコマンドを入力する間に「リモコン設定」ボタンを押すと、コマンドとコマンドの間に0.25秒の間隔を入れることができます。
- 登録したいコマンドのボタンを押してもLEDが点灯しないときは、該当のコマンドがないため登録できません。

連動操作を実行する

1 他機器連動

マルチオペレーションモードにする。

リモコンを受光部に向けてください。

2 DVD BD DVR HDMI TV CD CD-R HOME MEDIA GALLERY iPod USB TUNER VIDEO1 VIDEO2

起動時連動の実行は、操作したい他機器を選択する。

本機の電源ONと、このボタンに登録されているコマンドが実行されます。

入力機器

終了時連動の実行は、入力機器の電源ボタン(システム切)を押す。

このボタンに登録したコマンドと、パイオニア製品の電源オフコマンドが送信されます。

- 各コードの送信が終了するまで、リモコンを受光部に向けておいてください。
- 登録したコマンドによっては、送信終了まで3秒以上かかる場合もあります。
- 登録した機器の状態によっては、登録した動作と異なる場合があります。

リモコンの設定をリセットする

リモコンの設定をすべてリセットして、工場出荷時の状態に戻します。

1 マルチゾーン切り換えスイッチがメインになっていることを確認する。

2 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

3 リモコン設定ボタンを押し続け、LEDランプが2回点滅したら指を離す。

リモコンの設定モードになります。10秒間何も操作がないときは設定が中止されます。

4 数字ボタンの 9、8、1 を順番に押す。。

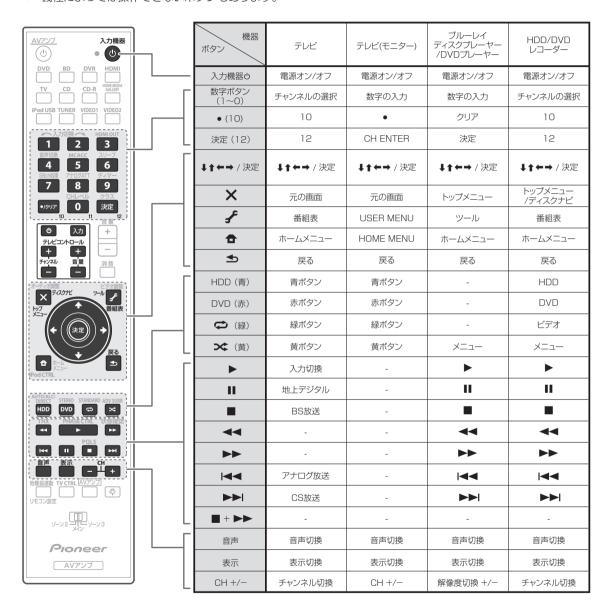
LEDランプが4回点滅して、リモコンの設定が工場出荷時の状態に戻ります。

- 工場出荷時にボタンに割り当てられているプリセットコードは以下の通りです

ボタン	プリセットコード
DVD	31571
BD	32442
DVR	22306
HDMI	32442
TV	13000
CD	70468
CD-R	71087
VIDEO 1	20058
VIDEO 2	20058
TUNER	50080
TV CTRL	13000
AVアンプ	61935

他機器の操作について

- 以下のリモコン操作を行うには、あらかじめ操作したい機器のリモコンコードを登録しておく必要があります。詳しくは「他機器のリモコン信号を本機のリモコンに呼び出す（プリセットコード設定）」（→106ページ）をご覧ください。
- 実際に操作を始める前に、操作したい機器の他機器操作ボタンを押して、リモコンをその機器の操作モードにしてください。各機器の詳しい機能については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- 機種によっては操作できないボタンもあります。

ボタン＼機器	テレビ	テレビ(モニター)	ブルーレイディスクプレーヤー/DVDプレーヤー	HDD/DVDレコーダー
入力機器⏻	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ
数字ボタン（1～0）	チャンネルの選択	数字の入力	数字の入力	チャンネルの選択
●（10）	10	●	クリア	10
決定（12）	12	CH ENTER	決定	12
⬇⬆⬅➡ / 決定	⬇⬆⬅➡ / 決定	⬇⬆⬅➡ / 決定	⬇⬆⬅➡ / 決定	⬇⬆⬅➡ / 決定
✕	元の画面	元の画面	トップメニュー	トップメニュー/ディスクナビ
（ツール）	番組表	USER MENU	ツール	番組表
（ホーム）	ホームメニュー	HOME MENU	ホームメニュー	ホームメニュー
（戻る）	戻る	戻る	戻る	戻る
HDD（青）	青ボタン	青ボタン	-	HDD
DVD（赤）	赤ボタン	赤ボタン	-	DVD
🔁（緑）	緑ボタン	緑ボタン	-	ビデオ
🔀（黄）	黄ボタン	黄ボタン	メニュー	メニュー
▶	入力切換	-	▶	▶
❚❚	地上デジタル	-	❚❚	❚❚
■	BS放送	-	■	■
◀◀	-	-	◀◀	◀◀
▶▶	-	-	▶▶	▶▶
❙◀◀	アナログ放送	-	❙◀◀	❙◀◀
▶▶❙	CS放送	-	▶▶❙	▶▶❙
■ + ▶▶	-	-	-	-
音声	音声切換	音声切換	音声切換	音声切換
表示	表示切換	表示切換	表示切換	表示切換
CH +/–	チャンネル切換	CH +/–	解像度切換 +/–	チャンネル切換

＊ DVDプレーヤーによっては、10以上を選ぶときに＋10方式ではなくENTER方式で番号を決める機種がありますが、その機種も本機リモコンでは ●(10) ボタンで操作することができます。

機器 / ボタン	ビデオデッキ	衛星チューナー /ケーブルテレビ チューナー	LDプレーヤー	CDプレーヤー /CDレコーダー /SACDプレーヤー	MDプレーヤー DATプレーヤー	カセットデッキ	チューナー
入力機器⏻	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ
数字ボタン（1～0）	チャンネルの選択	数字の入力	数字の入力	数字の入力	数字の入力	-	周波数/ステーションの選択
●（10）	10	＊	+10	>10/クリア	クリア（MD）	クリア	ダイレクト選局
決定（12）	12	-	決定	ディスク/決定	OPEN/CLOSE（MD）	決定	CLASS
⬇⬆⬅➡ / 決定	-	⬇⬆⬅➡ / 決定	⬇⬆⬅➡ / 決定	-	-	⏸/■/ ◀◀/▶▶/▶	TUNE +/– PRESET +/–
✕	-	ナビ	トップメニュー	-	-	MS←	BAND
🔧	-	番組表	-	LEGATO LINK（SACD）	-	MS→	-
⌂	-	メニュー	-	SACD SETUP（SACD）	-	-	-
↩	-	戻る	戻る	-	-	-	-
HDD（青）	-	青ボタン	-	PROGRAM	-	-	-
DVD（赤）	-	赤ボタン	-	-	-	-	-
🔁（緑）	-	緑ボタン	-	REPEAT	-	-	-
🔀（黄）	-	黄ボタン	-	SHUFFLE	-	-	-
▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	-
⏸	⏸	⏸	⏸	⏸	⏸	⏸	MPX
■	■	■	■	■	■	■	-
◀◀	◀◀	◀◀	◀◀	◀◀	◀◀	◀◀	-
▶▶	▶▶	▶▶	▶▶	▶▶	▶▶	▶▶	-
⏮	-	⏮	⏮	⏮	⏮	⏮	-
⏭	-	⏭	⏭	⏭	⏭	⏭	-
■ + ▶▶	-	録画	-	-	-	-	-
音声	音声切換	音声切換	音声切換	PURE AUDIO	-	-	-
表示	-	表示切換	表示切換	TIME	-	-	-
CH +/–	チャンネル切換	CH +/–	-	-	-	-	-

本機で設定できること

本機のホームメニュー（HOME MENU）で設定できる全項目です。

1 アドバンスドMCACC
（サラウンドの自動設定／
詳細な手動設定）

2 MCACCデータチェック
（MCACCメモリーの確認）

1 アドバンスドMCACC

項目	内容
a フルオートMCACC（サラウンドの自動設定）	すべてのMCACC項目の自動測定 →43ページ
b オートMCACC（個別項目選択可能なサラウンドの自動設定）	
全項目／スピーカーシステム保持	音場補正の全項目を自動測定 →117ページ
スピーカー設定	スピーカーシステムの自動設定 →117ページ
スピーカー出力レベル	スピーカー出力レベルの自動設定 →117ページ
スピーカーまでの距離	スピーカーまでの距離の自動設定 →117ページ
EQ Pro & 定在波制御	残響特性を考慮した周波数特性の自動補正および定在波の自動制御 →117ページ
Full Band Phase Ctrl	スピーカー群遅延特性の自動補正 →117ページ
c マニュアルMCACC（詳細なサラウンドの自動設定）	
1 Fine Channel Level	聴感による各チャンネルの出力レベルの微調整 →120ページ
2 Fine SP Distance	聴感による各スピーカーまでの距離の微調整 →121ページ
3 定在波制御	定在波制御の設定 →123ページ
4 EQの調整	聴感による周波数特性補正カーブの調整 →124ページ
5 EQプロフェッショナル	部屋の残響特性の測定と残響を考慮した補正 →125ページ
a 残響特性の測定	部屋の残響特性の測定 →125ページ
b 残響特性の確認	残響特性グラフ（補正前／後）の表示 →126ページ
c アドバンスドEQセットアップ	残響特性を考慮した音場補正 →126ページ
6 Precision Distance	（SC-LX82のみ）スピーカー位置の精密調整 →128ページ
d デモ（フルオートMCACCのデモ）	デモなので設定は反映されません →119ページ

2 MCACCデータチェック

項目	内容
a スピーカー設定	スピーカー接続の有り／無し、低域再生能力などの確認 →129ページ
b スピーカー出力レベル	各チャンネルの出力レベルの確認 →129ページ
c スピーカーまでの距離	各スピーカーまでの距離の確認 →129ページ
d 定在波制御	定在波制御設定値の確認 →129ページ
e Acoustic Cal EQ	周波数特性の補正値の確認 →129ページ
f 群遅延特性	スピーカー群遅延特性グラフ（補正前／後）の表示 →129ページ
g パソコンへ転送	各種データのパソコンへの転送 →127ページ

3 データ管理
（MCACC メモリーの
データ管理）

4 システム設定
（本機のさまざまな設定）

a マニュアルスピーカー設定
（スピーカーの構成やサラウンド環境の手動設定）

項目	内容
1 Surr Back System（サラウンドバックシステムの設定）	SPEAKER B 端子の用途設定 →132 ページ
2 スピーカー設定	スピーカー接続の有り / 無し、低域再生能力などの設定 →132 ページ
3 スピーカー出力レベル	各チャンネルの出力レベルの設定→134 ページ
4 スピーカーまでの距離	各スピーカーまでの距離の設定（最適なディレイ値に設定）→135 ページ
5 X カーブ	部屋の大きさに合わせた高音域の減衰カーブの設定 →135 ページ
6 THX オーディオ設定	THX オーディオについての各種設定→136 ページ

b 入力端子の設定　各入力の音声入力や映像入力の切り換え、入力名の変更などの設定 →47、137、138 ページ

c OSD 言語設定　OSD 言語の表示言語の設定 →141 ページ

d その他の設定

項目	内容
1 KURO LINK 設定	KURO LINK 機能に対応したパイオニア製品と連動操作するための設定 →86 ページ
2 マルチチャンネル入力設定	マルチチャンネル入力の設定 →138 ページ
3 ZONE オーディオ設定	マルチゾーン機能での音声設定 →90 ページ
4 電源オン時音量設定	電源をオンしたときの音量の設定 →139 ページ
5 音量制限設定	ボリューム操作をしたときの最大音量を制限する設定 →139 ページ
6 リモコンモード設定	本機側のリモコンモードの設定 →140 ページ
7 Flicker Reduction 設定	GUI 画面の見え方の調整 →140 ページ

項目	内容
a MCACC メモリーの名称変更	MCACC メモリーの名前を変更→130 ページ
b MCACC メモリーのコピー	MCACC メモリーのコピー →131 ページ
c MCACC メモリーの消去	MCACC メモリーを消去 →131 ページ

リスニング環境の設定について ～サラウンド再生のための設定～

本機のオートMCACCセットアップ機能では、下記の7つの設定（音場補正）を自動で行うことができます。

スピーカーシステムの設定
ソースに含まれる音声成分のすべてを再生するために、スピーカー接続の有り/無しや低域再生能力などを設定します。この項目は、すべてのMCACC MEMORYに共通の設定となります。

スピーカー出力レベルの設定
リスニングポジションでの各チャンネルの音量レベルを一定に合わせる設定です。

スピーカーまでの距離の設定
距離を設定することで各チャンネル間の遅延（ディレイ）を算出・補正します。

定在波制御
壁などの影響で発生した低域の特定周波数での極端なピーク音を除去します。

残響特性の測定
リスニングルームの残響特性を測定し、MCACCの補正精度を向上します。

視聴環境の周波数特性の補正（Aco Cal EQ Pro）
スピーカーの種類や、部屋の環境差によって生じた各チャンネル周波数特性のばらつきを補正します。EQ補正のカーブも3タイプから選べます。

スピーカーの群遅延特性の補正（Full Band Phase Control）
スピーカーの位相乱れ（群遅延）を自動解析し、全チャンネルの周波数位相特性がフラットになるように補正します。この項目は、すべてのMCACC MEMORYに共通の設定となります。

ホームメニュー設定の手順

ホームメニュー画面を開くまでの手順です。ここから各設定の操作に進めます。

重要

SC-LX82とSC-LX72では付属のリモコンをAVアンプ操作モードにする方法が異なります。SC-LX82はリモコン操作モード切り換えスイッチをAVアンプに合わせます。SC-LX72は［AVアンプ］を押します。本取扱説明書にて「リモコンをAVアンプ操作モードにする」という操作手順のときは、それぞれ上記の操作を行ってください。

SC-LX82

SC-LX72

1 AVアンプ

本機とテレビの電源が切れている場合は、電源を入れる。
テレビに本機の出力映像が表示されるように、テレビ側の入力切換を合わせておきます。

2 **リモコンをAVアンプ操作モードにする。**

SC-LX82：　SC-LX72：

3 ホーム メニュー

ホームメニューボタンを押す。
テレビ画面にホームメニュー画面が表示されます。

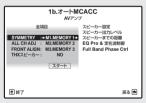
ホームメニューの操作には、下記のボタンを使います。

リモコンボタン	本体ボタン	用途
ホーム メニュー	HOME MENU	ホームメニュー画面を開く／閉じる
決定	ENTER	カーソル移動と設定値の変更 選択項目を決定する
戻る	RETURN	1つ前の画面に戻る

- ヘッドホン使用中は、ホームメニュー画面は表示できません。
- 約5分間放置するとホームメニュー画面には自動的にスクリーンセーバー機能が働きます。
- 入力がHOME MEDIA GALLERY、iPod USBになっているときは、ホームメニューの設定を行うことができません。また、ZONE 2またはZONE 3がONのときもホームメニューの設定を行うことができません。
- 一度登録した設定内容は本機に記憶されるため、本機を使用するたびに設定し直す必要はありません。ただし、スピーカーシステムの構成や配置を変更したり、新しくスピーカーを追加したときには、設定し直す必要があります。
- ホームメニューの設定中は電源を切らないでください。電源を切るときはホームメニューの設定を終了してください。

オートMCACCで詳細に測定／設定する

ここではオートMCACCの項目ごと、個別に測定を行います。オートセットアップ(フルオートMCACC)の基本的な使用方法は「スピーカーの自動設定を行う ～フルオート MCACC ～」（→43ページ)をご覧ください。

4

- 「Aco Cal EQ Pro」(周波数特性の補正)と「定在波制御」の効果は、それぞれのMCACC MEMORYでON/OFFを切り換えることができます。詳しくは「オーディオ調整機能を使用する」(→65ページ)をご覧ください。
- 各スピーカーと視聴環境との相互作用によって、まれにオートMCACCの測定が正しく行われないことがあります。その場合は手動で設定を調整することをお勧めします。

1 116ページの手順1 ～ 3までを行う。

2 [1. アドバンスドMCACC]を選んで決定する。

3 [b. オートMCACC]を選んで決定する。

オートMCACC画面が表示されます。

4 測定/設定の項目を選択する。

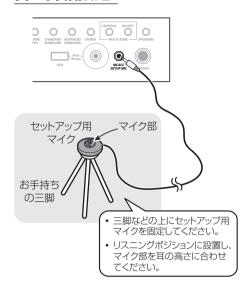
各項目に対する測定/設定内容は、画面右側に表示されます。

[全項目]：すべての項目を測定/設定します。

[スピーカーシステム保持]：スピーカーシステムの設定以外の全項目を測定/設定します。

[スピーカー設定(THXスピーカー)]（[全項目]、[スピーカー設定]を選択したときのみ設定可能)：THX認証のスピーカーを使用しているときは「YES」を選択します。このとき、[スピーカー設定]はすべてのスピーカーがSMALL（小)になります。

上記以外：それぞれの項目について測定/設定します。

- [スピーカー設定]や[Full Band Phase Ctrl]は、[全項目]で測定するたびに測定結果が更新されます。
- フルオートMCACCや[全項目]での測定後にリスニングポイントを変えて測定したいときは、[スピーカーシステム保持]で測定してください。
- 使用するスピーカーの構成を変更した場合は、フルオートMCACCまたは[全項目]で測定しなおしてください。

THX は THX 社の商標です。許可のもとに使用されています。不許複製。その他すべての商標は、それぞれの所有者の所有物です。

5 保存先を選択する。

測定/設定した結果の保存先を[M1.MEMORY 1] ～ [M6.MEMORY 6]から選択します。

- MEMORY内のデータは上書きされます。
- 測定終了後、MCACCボタンを押してMEMORYを切り換えることで、本機を各補正後の状態にすることができます。（→62ページ）

6 付属のセットアップ用マイクを接続する。

リスニングポジションにマイクを配置します。マイクの接続は左の図をご覧ください。

- セットアップ用マイクは、三脚などを使用してリスニングポジションに設置してください。テーブルやソファの上などに置くと、正しく測定できない場合があります。

7 [スタート]を選んで決定する。

オートMCACCで選択した項目の自動測定に進みます。「MCACCデータチェック」の画面が表示されたら自動測定は終了です。測定が終わったら、必ずセットアップ用マイクを本機から抜いてください。
測定した内容を確認することができます。「MCACCデータを確認する」（→129ページ)をご覧ください。

EQタイプ(視聴環境の周波数特性の補正)について

「EQタイプ」は「オートMCACC」で[全項目]、[スピーカーシステム保持]、または[EQ Pro & 定在波制御]を選択したときに設定可能です。

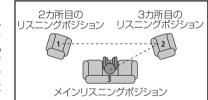
[全項目]/[スピーカーシステム保持]の場合：
各EQタイプの保存先をそれぞれ設定すれば、一度の測定で複数タイプのEQ補正が行われ、内容が保存されます。「SYMMETRY」は常に測定/保存されますが、「ALL CH ADJ」、「FRONT ALIGN」は測定を省略できます。

[EQ Pro & 定在波制御]の場合：
補正したいEQタイプを1つ選択します。選択したEQタイプによる補正がMCACC MEMORYに保存されます。

- 「SYMMETRY」－L/Rでペアになっているスピーカー 1組ごとの周波数特性をフラットに補正します。センターなどペアでないスピーカーは個別に補正します。位相特性を重視した補正をしたい場合にお勧めします。
- 「ALL CH ADJ」－全チャンネルの周波数特性を、それぞれ個別にフラットに補正します。周波数特性を重視した補正をしたい場合にお勧めします。
- 「FRONT ALIGN」－フロント以外のスピーカーをフロントの特性に合わせこむ補正をします(フロントスピーカーはEQ補正しません)。フロントスピーカーの特性を重視した補正をしたい場合にお勧めします。
- 「FRONT ALIGN」の場合でも、フロントスピーカーに対する定在波制御とFull Band Phase Controlの補正は行われます。

その他の設定項目について

「MCACC」：
(「オートMCACC」で[スピーカー出力レベル]、[スピーカーまでの距離]、[EQ Pro & 定在波制御]を選択したときのみ設定可)
測定/設定値の保存先を選びます。各項目についてのデータのみ上書きされます。

「定在波制御 多点測定」：
(「オートMCACC」で[EQ Pro & 定在波制御]を選択したときのみ設定可)
[YES]にすることでメインのリスニングポジションとそれ以外のリスニングポジション2カ所(計3カ所)の定在波制御を行うことができます。設定の手順はGUI画面に従って、右のイラストのようにメインポジションでの測定が最後になるようにセットアップ用マイクを設置していきます。リスニングポジションを1カ所でお楽しみいただくときは[NO]にすることをお勧めします。

フルオートMCACCのデモモードについて

アドバンスドMCACCの[デモ]を選ぶと、フルオートMCACCのデモモードになります。デモモードはセットアップ用マイクを使用せずに行うことも可能で、スピーカーを接続していればテストトーンも出力されます。デモモードでの測定内容は本機の設定に反映されず、エラーも発生しません。デモモードは一度開始すると繰り返し行われます(1回目が終わるとスクリーンセーバーが働きます)。終了させるには戻るボタンを押してください。

リスニング環境をお好みに調整する ～ マニュアルMCACC ～

マニュアルMCACCでは、設定をより詳しく手動で調整することができます。それぞれの調整を行う前に、以下の操作を行って調整したいMCACC MEMORYを選びます。

設定にはセットアップ用マイクを使用することがあります。マイクの接続のしかたは、43～44ページをご覧ください。マイクを接続する際は、ホームメニューボタンを押してホームメニュー画面が表示されている状態で差し込んでください。
ホームメニュー画面が表示されていない状態でマイクを差し込むと、フルオートMCACCのスタート画面になります。

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

SC-LX82：入力機器 テレビ AVアンプ　SC-LX72：AVアンプ

2 MCACC MEMORYを選ぶ。

SC-LX82：MCACC 6　SC-LX72：MCACC 5

押すたびにMCACC MEMORYが切り換わります。

3 ホームメニューを表示する。

ホーム メニュー

スピーカー出力レベルの微調整（Fine Channel Level）

フロント左スピーカーを基準として、その他のチャンネルレベルを調整します。選択したチャンネルとそのチャンネルに対して基準となるチャンネルからテストトーンが再生されますので、両方のテストトーンが同じ大きさに聞こえるように調整します。

ホームメニューで使用するボタン

4 [1. アドバンスドMCACC]を選んで決定する。

5 [c. マニュアルMCACC]を選んで決定する。

6 [1. Fine Channel Level]を選んで決定する。

スピーカー出力レベルの微調整を行う画面になります。

テストトーンは大きな音で再生されます。
MASTER VOLUMEは自動的に0.0 dBになり、テストトーンが再生されます。

6

1c.マニュアルMCACC
AVアンプ
1. Fine Channel Level
2. Fine SP Distance
3. 定在波制御
4. EQの調整
5. EQプロフェッショナル
6.Precision Distance
終了　戻る

Precision Distanceは SC-LX82のみの機能です。

1c1.Fine Channel Level
AVアンプ
注 意
大音量のテストトーンが出力されます。
お待ちください・・・
終了　キャンセル

7

1c1.Fine Channel Level
AVアンプ
MCACC ：M1.MEMORY 1
基準Ch ： L
基準Ch レベル ： 0.0 dB
終了 キャンセル

8

サブウーファーからのテストトーンは周波数が低いため、実際のレベルよりも小さく聞こえる場合があります。

7 フロント左チャンネルのレベルを調整して決定する。

フロント左チャンネルからテストトーンが出力されます。音圧計をお持ちの場合は、音圧レベルをCウェイト／スローモードで75 dB SPLに調整してください。

8 フロント右チャンネルから順番に、各チャンネルのレベルを調整する。

選択したチャンネルとそのチャンネルに対して基準となるチャンネルから、以下のように交互にテストトーンが出力されます。両方のテストトーンが同じ大きさになるように調整します。

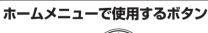
R ⇔ L
C ⇔ L
SL ⇔ L
SR ⇔ SL
SBL ⇔ SL
SBR ⇔ SBL
SW ⇔ L

－10.0 dBから＋10.0 dBの範囲内で、0.5 dB間隔で調整することができます。

9 戻るボタンを押す。

スピーカー出力レベルの微調整を終了します。

スピーカーまでの距離の微調整（Fine SP Distance）

フロント左スピーカーを基準として、その他のスピーカーの距離を調整します。選択したチャンネルと、そのチャンネルに対して基準となるチャンネルからテストパルスが再生されます。その2つのスピーカーに対してリスニングポジションから右図のように向き、2つのテストパルスの聞こえるポイントが中央に定位するように数値を調整します。このときさらに細かく中央に定位させたいときは、スピーカーの位置を数mm単位で動かしたり、向きを少し動かすことでポイントを中央に定位させることができます。

6

1c.マニュアルMCACC
AVアンプ
1. Fine Channel Level
2. Fine SP Distance
3. 定在波制御
4. EQの調整
5. EQプロフェッショナル
6.Precision Distance
終了 戻る

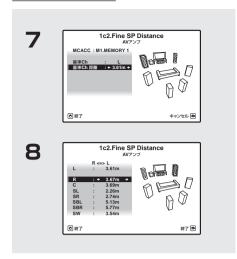
Precision DistanceはSC-LX82のみの機能です。

4 [1. アドバンスドMCACC]を選んで決定する。

5 [c. マニュアルMCACC]を選んで決定する。

6 [2. Fine SP Distance]を選んで決定する。

スピーカーまでの距離の微調整を行う画面になります。

テストパルスは大きな音で再生されます。MASTER VOLUMEは自動的に0.0 dBになり、テストパルスが再生されます。

7 フロント左チャンネルのスピーカーまでの実測距離を入力して決定する。

8 フロント右チャンネルから順番にスピーカーまでの距離を調整する。

選択したチャンネルとそれに対して基準となるスピーカーから、テストパルスが以下のように出力されます。

R - L
C - L
SL - L
SR - R
SBL - SL
SBR - SR
SW - L

0.01 mから9.00 mの範囲内で、0.01 m（1 cm）間隔で設定できます。

9 戻るボタンを押す。

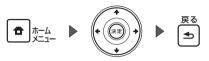
スピーカーまでの距離の微調整を終了します。

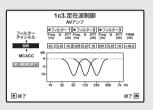
- テストパルスの聞こえるポイントがどうしても中央に定位しないときは、スピーカーと本機の⊕、⊖端子が正しく接続されているかを確認してください。⊕と⊖が逆に接続されていると中央に定位しません。
- サブウーファーの距離を合わせるポイントは、テストパルス3発目の音の余韻ができるだけ中央に抜けていくように調整します。音の余韻が左右どちらかに流れて聞こえる場合はサブウーファーの距離設定や位置をさらに微調整すると効果的です。

定在波フィルターの調整（定在波制御）

オーディオの世界で問題となる定在波(Standing Wave)は、音波が壁などで反射し、もとの音波と干渉することで発生します。定在波は特定の低域周波数に極端なピークなどが発生したとき音質に悪影響を与えます。定在波の影響はスピーカーの位置やリスニングポジションによっても変化します。ここでは実際に音楽ソースなどの再生音を聴きながら、定在波の影響を制御します。

ホームメニューで使用するボタン

6

Precision Distanceは
SC-LX82のみの機能です。

7

- 音声入力でHDMIを選んでいるときは、実際に音を聞きながらの補正を行うことはできません。
- オーディオ調整機能の「S-WAVE」の項目を「S-WAVE OFF」にしているMCACC MEMORYでここでの設定を行うと、自動で「S-WAVE ON」に切り換わります（→65ページ）。

4 [1. アドバンスドMCACC]を選んで決定する。

5 [c. マニュアルMCACC]を選んで決定する。

6 [3. 定在波制御]を選んで決定する。

定在波制御のフィルター設定画面になります。

7 「フィルターチャンネル」を選ぶ。

どのチャンネルの定在波を制御するか選択します。
各チャンネルごとに用意された、3つのフィルターで定在波の影響を制御します。
[MAIN]：センタースピーカーとサブウーファー以外のすべてのチャンネル
[Center]：センターチャンネルのみ
[SW]：サブウーファーのみ

8 フィルターNo.1からNo.3について、各項目を調整する。

freq：各フィルターの中心周波数を、63 Hz ～ 250 Hzの範囲で調整します。
Q：各フィルターの帯域幅を2.0 ～ 9.8の範囲内、0.2間隔で調整します。数値が大きくなるほど帯域幅はより狭くなります。
ATT：各フィルターの減衰量を、0.0 dB ～ 12.0 dBの範囲内、0.5 dB間隔で設定します。

- 「TRIM」はサブウーファーのレベルを－12.0 dB ～ ＋12.0 dBの範囲内、0.5 dB間隔で調整します。手順7で[SW]を選んだときのみ調整することができます。

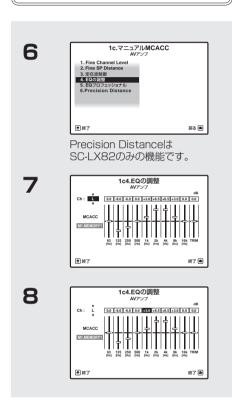
9 戻るボタンを押す。

定在波フィルターの調整を終了します。

チャンネルごとの周波数特性の補正（EQ の調整）

補正カーブを手動で調整します。下記の調整を行う前に、MCACCボタンでどのMCACC MEMORYのEQ値を調整するか選んでおきます。

ホームメニューで使用するボタン

Precision Distanceは
SC-LX82のみの機能です。

オーディオ調整機能の「EQ」（周波数特性の補正）の項目を「EQ OFF」にしているMCACC MEMORYでここでの設定を行うと、自動で「EQ ON」に切り換わります。（→65ページ）

4 [1. アドバンスドMCACC]を選んで決定する。

5 [c. マニュアルMCACC]を選んで決定する。

6 [4. EQの調整]を選んで決定する。

補正カーブの調整画面になります。

テストトーンは大きな音で再生されます。
MASTER VOLUMEは自動的に0.0 dBになり、テストトーンが再生されます。

7 調整したいチャンネルを選ぶ。

8 調整したい周波数帯域を選んで調整する。

－12.0 dBから＋12.0 dBの範囲内で、0.5 dB間隔で調整することができます。

- 調整中に「OVER!」がディスプレイに表示されたときは、その帯域または他の帯域のレベルが高すぎるので、「OVER!」表示が消えるまで、さまざまな帯域のレベルを下げてください。
- 「スピーカー設定」（→132ページ）でSMALL（小）に設定されたチャンネルは「63 Hz」を選ぶことはできません。
- 「TRIM」では、それぞれの帯域を調整することで、変わってしまった全体的なレベルのバランスを再調整します。

9 手順7 ～ 8を繰り返して、各チャンネルの周波数帯域を調整する。

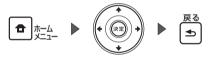
10 戻るボタンを押す。

チャンネルごとの周波数特性の補正を終了します。

部屋の残響特性の測定と残響を考慮した補正（EQ プロフェッショナル）

視聴環境の残響特性（音の響き方）が127ページのケース１～３のいずれかに当てはまる場合は、このEQプロフェッショナルを行うことで、理想的な音場に補正されます。
GUI画面（テレビ画面）に表示される残響特性を参考にしながら、周波数特性の補正を行うための「時間軸上の位置」をお好みで選択し補正を行ってください。
また、周波数特性の補正後における視聴環境の残響特性をパソコン画面上で詳しく確認することもできます。測定前にあらかじめ本機とパソコンをRS-232Cケーブルで接続を行ってください。パソコンの接続については40ページをご覧ください。

- [アドバンスドEQセットアップ]を行う前に必ずフルオートMCACC（→43ページ）を行ってください。フルオートMCACCでは残響特性の測定から最適な時間位置によるEQ補正を含めすべて自動で行われるため、理想的な環境に補正されます。
- [アドバンスドEQセットアップ]は、以前に測定したフルオートMCACC（→43ページ）またはオートMCACC（→117ページ）の補正カーブを上書きしてしまいますのでご注意ください。過去のデータを残したいときは、別のMCACC MEMORYを選んでから[アドバンスドEQセットアップ]を行ってください。
- 「残響特性の確認」では、定在波制御の設定値によって残響特性のグラフに違いが出ることがあります。フルオートMCACCでは、定在波の影響を排除した残響特性グラフが表示され、「残響特性の測定」では定在波を制御せずに残響測定するため、定在波の影響を含んだ残響特性グラフが表示されます。

ホームメニューで使用するボタン

4 [1. アドバンスドMCACC]を選んで決定する。

5 [c. マニュアルMCACC]を選んで決定する。

6 [5. EQプロフェッショナル]を選んで決定する。

7 [a. 残響特性の測定]を選んで決定する。

8 [EQ オフ]または[EQ オン]を選ぶ。

- [EQ オフ]では、EQ補正前の残響特性を測定します。
- [EQ オン]では、現在選択しているMCACC MEMORYのEQで、EQ補正後の残響特性を測定します。あらかじめ、補正後の残響特性を測定したいMCACC MEMORYを選択したうえで、このメニューへ進んでください。

9 マイクを接続して残響特性の測定の準備をする。

- 付属のセットアップ用マイクを本機に接続したら、三脚などを使用してリスニングポジションに設置してください。テーブルやソファの上などに置くと、正しく測定できない場合があります。（TVモニターの近くには設置しないでください。）
- 測定中は静かにしてください。
- スピーカーとリスニングポジションの間にある障害物を取り除いてください。

10 [スタート]を選んで決定する。

残響特性の測定になります。測定にはおよそ1 ～ 3分程度かかります。
測定終了後、測定結果をGUI画面で確認するときは手順11へ、パソコン画面で確認するときは戻るボタンを3回押してから「各種測定結果のパソコン表示機能」（→127ページ）へお進みください。測定結果を確認せずに周波数特性の補正を行うときは、手順14へお進みください。

11

12

周波数

チャンネル

補正前後の切り換え

- 一度も残響特性の測定を行っていない場合（残響特性データがない場合）は「No Data」が表示されます。

14

15

補正時間位置

17

本機能の有効活用

本機の「残響特性測定およびグラフ表示機能」は、視聴環境整備のツールとしてお使いいただけます。スピーカーのL/R（左右）で特性が大きく異なる場合は、片側の設置に問題があったり、左右の壁の反射が大きく影響している、などが考えられます。設置の見直しや、吸音材の使用効果などを何度も確認しながら、より理想的な視聴環境をつくることができます。

11 [b. 残響特性の確認]を選んで決定する。

残響特性の測定結果（残響特性グラフ）が表示されます。

12 測定結果を確認したいチャンネル、周波数を選ぶ。

各チャンネルにおける各周波数の残響特性を確認してください。グラフの縦軸はレベル[dB]、横軸は時間[ms]を示しています。

補正前後の表示を切り換えることができます。[補正後]はEQ補正後の残響特性を表示します。[補正前]に比べ、各周波数がEQ補正された時間軸上でそろうことが確認できます。

13 戻るボタンを押す。

残響特性の測定結果画面を終了します。

> 部屋の残響特性を改善したいときはここで吸音材の調整などを見直し、視聴環境の整備を行ってください。調整後は再度[残響特性の測定]を行い、その効果を確認することをお勧めします。

14 [c. アドバンスドEQセットアップ]を選んで決定する。

補正時間位置を指定する画面になります。

15 補正時間位置（Time Position）を指定する。

[0-20ms] ～ [60-80ms]の間を10ms間隔で選択できます。

補正時間位置の決め方は127ページをご覧ください。

16 必要に応じて「EQタイプ」と「定在波制御 多点測定」を設定する。

それぞれの詳しい説明は119ページをご覧ください。

17 [スタート]を選んで決定する。

手順15で選んだ時間帯の音で、周波数特性の補正を自動で行います。測定にはおよそ2 ～ 4分程度かかります。

18 戻るボタンを押す。

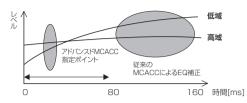
部屋の残響特性の測定と残響を考慮した補正(EQプロフェッショナル)を終了します。

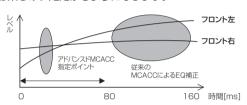
[MCACCデータチェック]（→129ページ）で測定結果を確認できます。

- フルオートMCACCを行った後でも、[残響特性の確認]で補正前後の残響特性を表示できます。この時の補正後の残響特性はEQ TYPE：SYMMETRYでの予測値が表示されます。実測による補正後を確認したい場合は、手順8で[EQオン]を選んでください。
- EQカーブの特性上、EQタイプ：SYMMETRY（およびFRONT ALIGN）の補正後の残響特性は各L／Rのチャンネルを一組のペア（[Front]など）で表示されます。ALL CH ADJでは各個別のチャンネルごとに表示されます。

アドバンスドEQセットアップでの補正時間位置の決め方

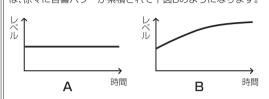
ケース1)周波数ごとに残響特性が異なる場合

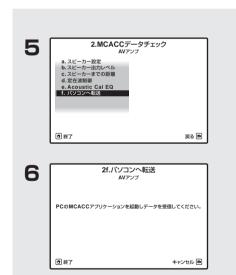
アドバンスドEQセットアップで[30-50ms]くらいを指定すると、スピーカーからの直接音(初期反射音を含む)がフラットになり、聴きやすい音場になります。

ケース2)チャンネルごとに残響特性が異なる場合

アドバンスドEQセットアップで[30-50ms]くらいを指定して補正をすると、直接音の特性がそろった理想的な音場でお楽しみいただけるようになります。

ケース3)全体的に残響特性が似ている場合

アドバンスドEQセットアップで[60-80ms]くらいを指定して補正することをお勧めします。直接音と残響音をすべて含んだトータルでの補正が行われ、理想的な音場空間を再現することができます。

残響特性グラフの見方

残響がない場合は下図Aのようになります。残響がある場合は、徐々に音響パワーが累積されて下図Bのようになります。

各種測定結果のパソコン表示機能

本機ではアドバンスドMCACCで測定した結果をパソコンに転送して、部屋の残響特性グラフとスピーカーの群遅延特性グラフ、およびMCACCパラメーター(測定値)をパソコン画面で確認することができます。パソコンの接続については40ページをご覧ください。

データ通信の前に本機の設定で、一度フルオートMCACC(→43ページ)を行った状態でRS-232Cケーブルを接続し、「残響特性の測定」(→125ページ)を行ってください。

4 [2. MCACCデータチェック]を選んで決定する。

5 [f. パソコンへ転送]を選んで決定する。

パソコンへのデータ転送待ち画面になります。

6 パソコンの電源を入れて専用のPCアプリケーションを起動する。

PCアプリケーションの取扱説明書の指示に従い、データ転送を行います。

パソコン表示用の各データは、本機の電源をオフにしても消去されません。ただし、残響特性や群遅延特性のデータは補正前/後で1つずつしか保存できないので、再度測定を行うと、データは上書きされます。

7 戻るボタンを押す。

パソコンへのデータ転送を終了します。

スピーカー位置の精密調整（Precision Distance）（SC-LX82のみ）

この機能を使う前に、「フルオートMCACC」（→43ページ）を行ってください。フルオートMCACCのスピーカー距離補正によってスピーカーまでの距離は1 cm精度で補正されますが、ここでは1 cm以下の精度でスピーカーの距離（位置）を微調整します（サブウーファーは調整の対象外です）。マイクからの入力が画面に表示されるので、ゲージが最大になるように各スピーカーの位置を微調整してください。従来は熟練した専門業者が聴覚により行っていた微細な距離調整を、モニター上に表示されるゲージを見ながら簡単に調整できます。

4 [1. アドバンスドMCACC]を選んで決定する。

5 [c. マニュアルMCACC]を選んで決定する。
マイクを接続します。マイクの接続のしかたは、43 ～ 44ページをご覧ください。マイクはフルオートMCACCを行ったときと同じ位置に配置します。

6 [6. Precision Distance]を選んで決定する。
スピーカーの位置の微調整を行う画面になります。

テストパルスは大きな音で再生されます。
MASTER VOLUMEは自動的に0.0 dBになり、テストパルスが再生されます。

7 フロント右チャンネルから順番にスピーカーの位置を微調整する。
選択したチャンネルとそれに対して基準となるスピーカーからテストパルスが出力されます。
選択しているスピーカーの位置を動かし、微調整します。画面を見ながらスピーカーの位置をマイクに対して1 cm程度前後に動かし、ゲージと数字が最大になるように微調整してください。また、調整するチャンネルによって基準となるチャンネルが変わっていくので、基準チャンネルのスピーカーは動かさないでください。ゲージは最大で10.0まで上げることができます（10.0にならない場合は、最大値が出る位置にスピーカーを調整してください）。

8 戻るボタンを押す。
スピーカーの位置の精密調整を終了します。

スピーカーまでの距離調整とは

距離の調整は、映像の「ピント合わせ」によく似ています。ピントが合っていない映像はどこで見てもぼやけて見えますが、ピントが合った映像は遠くからでも見ることができます。音の焦点も同じで、ある一点（マイクを置いたリスニングポジション）に音源からの到達時間をしっかり合わせることで、リスニングポジション一点だけでなくマルチチャンネル環境における音場全体を正しく形成します。

- フルオートMCACCを行った位置と異なる位置にマイクを設置すると正しく調整できないことがあります。その場合はオートMCACCのカスタムメニューで「スピーカーまでの距離」（→117ページ）を行い、マイク位置をそのままの状態にしてここでの調整を行うことをお勧めします。
- ここでの調整はオートMCACCでは調整できない1 cm以下の誤差を調整する機能なので、オートMCACCによる距離補正後でも「0.0」と表示されることがありますが、その場合でも最適な調整が行うことができます。また、ここでの精密調整完了後に再度オートMCACCを行うと1 cm精度での補正に戻ってしまいますのでご注意ください。
- オートMCACCと同じように、できるだけ静かな環境で調整してください。また調整中に突発的なノイズなどが入力されたときは「0.0」と表示されます。
- R chから順番どおりに調整しないと、すべてのチャンネルの距離はそろいません。
- スピーカーを動かす際は、スピーカーが倒れたりしないように十分にご注意ください。
- ここでの調整を行ったあとに、スピーカーまでの距離の微調整（Fine SP Distance）（→121ページ）のテストパルスを聞くと調整した効果が確認できます（調整前よりも各スピーカー間のテストパルスが中央に定位します）。その際には距離の値を変えないようにご注意ください。

MCACCデータを確認する（MCACCデータチェック）

「フルオートMCACC」や「オートMCACC」、「マニュアルMCACC」で設定された、以下の各設定項目の内容や設定値を確認することができます。

スピーカー設定　：スピーカーシステムの設定
スピーカー出力レベル　：スピーカー出力レベルの設定
スピーカーまでの距離　：スピーカーまでの距離
定在波制御　：定在波制御フィルター設定
Acoustic Cal EQ　：視聴環境の周波数特性の補正値
群遅延特性　：スピーカーの群遅延特性（補正前と補正後）
パソコンへ転送　：各種データをパソコンへ転送します。（→127ページ）

1 [2. MCACCデータチェック]を選んで決定する。

確認したい設定項目の選択画面になります。

2 確認したい設定項目を選んで決定する。

3 必要に応じて確認したいMCACC MEMORYやChなどを選ぶ。

- ソースを再生しながらMCACC MEMORYを変えることで、各MEMORYの設定値を確認しながらそのサウンドの変化を確認することができます。
- 音声入力でHDMIを選んでいる時は、実際に音を聞きながらの確認を行うことはできません。

他の設定項目を確認するときは、戻るボタンを押して手順2へ戻ります。

4 戻るボタンを押す。

[MCACCデータチェック]を終了します。

- 「群遅延特性」の確認画面では、フルオートMCACCまたはオートMCACCのFull Band Phase Ctrlを行うことで補正前・補正後の群遅延特性を確認することができます。補正後は補正前に比べ、各帯域間の遅延差が縮まり、各チャンネル間の群遅延特性が揃うことでFull Band Phase Controlの効果が確認できます。

3

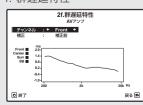
a. スピーカーシステム

b. スピーカーの出力レベル

c. スピーカーまでの距離

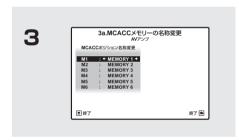
d. 定在波制御

e. 周波数特性の補正

f. 群遅延特性

MCACC MEMORYのデータ管理をする ~データ管理~

「フルオートMCACC」や「オートMCACC」、「マニュアルMCACC」などで設定された各種設定内容や設定値をコピー、消去することができます。またMCACC MEMORYの名前を変更することもできます。

設定データの名前を変更する (MCACC メモリーの名称変更)

MCACC MEMORY1 ～ 6の名前を変更することができます。たとえば、映画を楽しむリスニングポジションで音場補正を行ったときは「MOVIE」、ゲームを楽しむリスニングポジションであれば「GAME」のように変更することができます。
変更したい設定データの名前は以下の中から選びます。
[SYMMETRY] [ALL ADJ] [F.ALIGN] [MOVIE] [MUSIC] [GAME] [PARTY] [SOFA] [SEAT]

1 [3. データ管理]を選んで決定する。

確認したい設定項目の選択画面になります。

2 [a. MCACCメモリーの名称変更]を選んで決定する。

名前を変更したいMCACC MEMORYの選択画面になります。

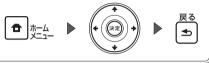
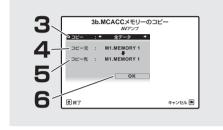
3 名前を変更したいMCACC MEMORYを選んで名前を変更する。

他にも名前を変更したいMCACC MEMORYがあるときは選んで変更します。

4 戻るボタンを押す。

[MCACCメモリーの名称変更]を終了します。

設定データをコピーする（MCACC メモリーのコピー）

「フルオートMCACC」や「オートMCACC」、「マニュアルMCACC」で設定されたMCACC MEMORYを、他の5つのMEMORYのいずれかにコピーすることができます。MCACC MEMORYは全部で6つまで設定することができます。

1 [3. データ管理]を選んで決定する。

2 [b. MCACCメモリーのコピー]を選んで決定する。
コピーしたいMCACCメモリー（コピー元）とコピーされるMCACCメモリー（コピー先）の確認画面になります。

3 コピーする内容を選ぶ。
[全データ]を選ぶと、コピーされるMCACC MEMORYのすべての内容をコピーします。
[レベルと距離のデータ]を選ぶと、コピーされるMCACC MEMORYのスピーカー出力レベルとスピーカーまでの距離の設定のみコピーします。

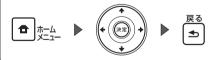
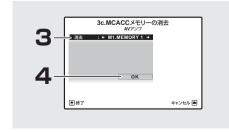
4 コピーしたいMCACC MEMORYを選ぶ。

5 コピー先のMCACC MEMORYを選ぶ。

6 [OK]を選んで決定する。
コピー確認のメッセージが表示されるので、[YES]を選びます。
[NO]を選ぶとコピーは行われません。
「完了しました」と表示されたらコピーは終了です。

設定データを消去する（MCACC メモリーの消去）

6つあるMCACC MEMORYの中から、必要のないMEMORYの内容を消去します。

ホームメニューで使用するボタン

1 [3. データ管理]を選んで決定する。

2 [c. MCACCメモリーの消去]を選んで決定する。
消去したいMCACC MEMORYの選択画面になります。

3 消去したいMCACC MEMORYを選ぶ。

4 [OK]を選んで決定する。
消去確認のメッセージが表示されるので、[YES]を選びます。
[NO]を選ぶと消去は行われません。
「完了しました」と表示されたら消去は終了です。

5 他にも消去したいMCACC MEMORYがあるときは手順2 ～ 4を繰り返す。

スピーカーの音を調整する ～ マニュアルスピーカー設定 ～

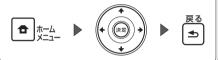
「スピーカーの自動設定を行う」（→43ページ）でオートセットアップを行った場合は、すでに設定されています。必要に応じてお好みで再設定できます。

スピーカーの使用用途を選択する ～ Surr Back System ～

ここではスピーカー端子Ⓑ(サラウンドバックチャンネル)の使用用途を設定します。以下の項目から選択します。
[ノーマル]：一般的なサラウンドバックスピーカー用(6.1chまたは7.1chシステム)
[Speaker B]：メインの5.1chシステムの音を、メインとは別に2chダウンミックスしたステレオ再生用
[Front Bi-Amp]：フロントスピーカーのバイアンプ駆動用(5.1chシステム)
[ZONE 2]：本機のある部屋(メインゾーン)とは別の部屋(ZONE 2)のステレオ再生用
詳細については、「スピーカーの配置/使用パターンを選ぶ」（→20ページ）をご覧ください。

ホームメニューで使用するボタン

4

4a1.Surr Back System
AVアンプ
ノーマル
Front : ノーマル
Center : ノーマル
Surr : ノーマル
SB : ノーマル
OK
終了
戻る

[Speaker B]、[Front Bi-Amp]、[ZONE 2]を選ぶと、サラウンドバックスピーカーについての各種設定を行うことはできません。

1 [4. システム設定]を選んで決定する。

2 [a. マニュアルスピーカー設定]を選んで決定する。

3 [1. Surr Back System]を選んで決定する。
[ノーマル]と[Speaker B]、[Front Bi-Amp]、[ZONE 2]の選択画面が表示されます。詳しい説明は上記をご覧ください。

4 [ノーマル]か[Speaker B]、[Front Bi-Amp]、[ZONE 2]のいずれかを選ぶ。

5 [OK]を選んで決定する。
「設定を変更しますか？」と確認画面が表示されます。

6 [YES]を選んで決定する。
選択画面に戻って設定し直す場合は、[No]を選んでください。

7 戻るボタンを押す。
Surr Back Systemの設定を終了します。

スピーカー接続と低音再生能力を設定する（スピーカー設定）

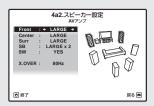
各チャンネルに接続されたスピーカーの有無や低域再生能力の大小を設定することで、再生するソースの全音域を最適なチャンネルへ配分します。お持ちのスピーカーシステムや視聴環境などに合わせて、正しく設定してください。[SMALL](小)に設定されたスピーカーがあるとき､何Hz以下の低音域を他のスピーカー(サブウーファーを含む)で再生するか、またはLFE信号の何Hz以下の低音域を再生するかをX.OVER（クロスオーバー周波数)の設定で行います。サブウーファーの再生する音域成分については、次ページをご覧ください。

ホームメニューで使用するボタン

1 [4. システム設定]を選んで決定する。

2 [a. マニュアルスピーカー設定]を選んで決定する。

3 [2. スピーカー設定]を選んで決定する。
スピーカーシステムの設定になります。

4

- THX認証のスピーカーシステムをご使用の際は、すべて[SMALL]に設定してください。
- 工場出荷時、クロスオーバー周波数は[80Hz]に設定されています。
- THXスピーカーをご使用の場合、クロスオーバー周波数は[80Hz]に設定してください。
- それぞれのスピーカーの性能によりますが、小型スピーカーを使用している場合、クロスオーバー周波数は[200Hz]に設定することをお勧めします。

4 それぞれのスピーカーについて、それらのサイズや再生能力に合わせて設定する。

スピーカーごとに以下を選べます。各項目の意味と設定方法については、下記の説明をご覧ください。

Front（フロント）	[LARGE] [SMALL]
Center（センター）	[LARGE] [SMALL] [NO]
Surr（サラウンド）	[LARGE] [SMALL] [NO]
SB（サラウンドバック）	[LARGE × 2] [LARGE × 1] [SMALL × 2] [SMALL × 1] [NO]
SW（サブウーファー）	[YES] [PLUS] [NO]
X.OVER（クロスオーバー周波数）	[50Hz] [80Hz] [100Hz] [150Hz] [200Hz]

5 戻るボタンを押す。

[スピーカー設定]を終了します。

スピーカーシステム設定の目安

スピーカーシステム組み合わせ可能一覧

Front（フロント）	[**SMALL**]		[LARGE]		
Center（センター）	[**SMALL**] [NO]		[LARGE] [SMALL] [NO]		
Surr（サラウンド）	[**SMALL**]	[NO]	[LARGE]	[SMALL]	[NO]
SB（サラウンドバック）	[**SMALL ×2**/ ×1] [NO]	[NO]	[LARGE ×2/ ×1] [SMALL ×2/ ×1] [NO]	[SMALL ×2/ ×1] [NO]	[NO]
SW（サブウーファー）	[**YES**]		[YES] [NO] [PLUS]		

太字：工場出荷時の設定

[SMALL] ：低域再生能力が十分ではない小型スピーカー
（低音域は他の [LARGE] スピーカーやサブウーファーから出力）

[LARGE] ：低域再生能力のあるフルレンジ・スピーカー

[× 2/ × 1] ：サラウンドバックスピーカーの接続本数(2 本または 1 本)

[YES] ：サブウーファーを接続している場合

[PLUS] ：フロント / センターの低域成分をサブウーファーからも同時に出力させる、低域の再生量がもっとも多いモード
常に (2ch 再生時でも) サブウーファーから低域が出力されるため、量感のある重低音をお好みの方にお勧めの設定 (詳しくは下図参照)

[NO] ：接続していない場合(該当 ch の成分は他のスピーカーより出力)

サブウーファーの [PLUS] はオート MCACC では設定されません。お好みに応じて設定を変更してください。

サブウーファーの再生する音域成分

フロント、センタースピーカーの設定によってサブウーファーの再生する音域成分は、以下のようになります。

フロント／センタースピーカー	サブウーファー	LFE(超低域効果音)成分	低域成分	中高域成分
SMALL	YES			
LARGE	YES			
LARGE	NO			
LARGE	PLUS			

サブウーファーの再生音域

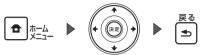
フロント/センターの再生音域

クロスオーバー周波数(工場出荷時:80Hz)
お手持ちのスピーカーに合わせて設定してください

サブウーファーを[PLUS]に設定した場合、サブウーファーの低域成分とフロントの低域成分の打ち消し合いが発生し、十分な低音の効果が発揮されないことがあります。このような場合は、オートMCACCでスピーカーの距離の設定を行い(→117ページ)、Phase Controlモードを「ON」にしてください(→63ページ)。

テストトーンを聞いて出力レベルを調整する（スピーカー出力レベル）

リスニングポジションでの各チャンネルの音量レベルが一定にそろうように調整します。実際に出力されるテストトーンを耳で確かめながら、手動で各スピーカーの出力レベルを調整します。

4

4a3.スピーカー出力レベル
AVアンプ
MCACC : M1.MEMORY 1
テストトーン : ← オート →
終了　戻る

4a3.スピーカー出力レベル
AVアンプ
注 意
大音量のテストトーンが出力されます。
お待ちください・・・
終了　キャンセル

5

4a3.スピーカー出力レベル
AVアンプ
MCACC : M1.MEMORY 1

L	: ←	0.0 dB →
C	:	0.0 dB
R	:	0.0 dB
SR	:	0.0 dB
SBR	:	0.0 dB
SBL	:	0.0 dB
SL	:	0.0 dB
SW	:	0.0 dB

終了　終了

1 [4. システム設定]を選んで決定する。

2 [a. マニュアルスピーカー設定]を選んで決定する。

3 [3. スピーカー出力レベル]を選んで決定する。

スピーカー出力レベルの設定になります。

4 設定方法を選んで決定する。

[マニュアル]：テストトーンを出力するスピーカーを手動で切り換えて調整します。
[オート]：テストトーンを出力するスピーカーが自動で切り換わります。

テストトーンは大きな音で再生されます。MASTER VOLUMEは自動的に0.0 dBになり、テストトーンが再生されます。

5 それぞれのチャンネルレベルを調整する。

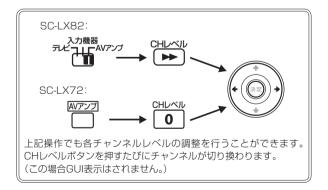
−10.0 dBから+10.0 dBの範囲内で、0.5 dB間隔で調整することができます。

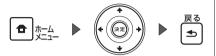
サブウーファーからのテストトーンは周波数が低いため､実際のレベルよりも小さく聞こえる場合があります。

音圧計をお持ちの場合は、音圧レベルをCウェイト/スローモードで75 dB SPLに調整してください。

6 戻るボタンを押す。

[スピーカー出力レベル]を終了します。

スピーカーまでの距離を調整する（スピーカーまでの距離）

リスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定することにより、各チャンネルの遅延時間が自動的に算出され、リスニングポジションで適切なサラウンド効果を得ることができます。手動で設定する場合は、それぞれのスピーカーからリスニングポジションまでの距離を測り、ここで指定してください。

ホームメニューで使用するボタン

4

より正確な距離の調整は、「スピーカーまでの距離の微調整」（→121ページ）をご覧ください。音像や定位感がさらに向上します。

1 [4. システム設定]を選んで決定する。

2 [a. マニュアルスピーカー設定]を選んで決定する。

3 [4. スピーカーまでの距離]を選んで決定する。
スピーカーまでの距離の設定になります。

4 設定するスピーカーを選んでスピーカーまでの距離を設定する。
0.01 mから9.00 mの範囲内で、0.01 m（1 cm)間隔で設定できます。

5 戻るボタンを押す。
[スピーカーまでの距離]を終了します。

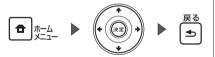
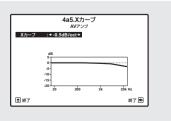
広い部屋での高音域を抑制する（X カーブ）

広い視聴環境では、聴感上高域がきつく聞こえてしまう傾向があります。Xカーブは高域(2 kHz以上)の周波数を減衰させるカーブで、減衰の傾きは−0.5dB/oct 〜−3.0dB/oct（0.5 dBステップ)の6種類から選択可能です。以下の表を目安に、部屋の広さや聴感によって、自由に調節してください。
この補正は「EQの調整」（→124ページ)の補正値には影響しません。

部屋の広さによる減衰カーブの目安

部屋の広さ	〜36 m²	〜48 m²	〜60 m²	〜72 m²	〜300 m²	〜1000 m²
減衰カーブ	−0.5dB/oct	−1.0dB/oct	−1.5dB/oct	−2.0dB/oct	−2.5dB/oct	−3.0dB/oct

ホームメニューで使用するボタン

4

1 [4. システム設定]を選んで決定する。

2 [a. マニュアルスピーカー設定]を選んで決定する。

3 [5. Xカーブ]を選んで決定する。
聴感上の高域補正になります。

4 ←→ボタンで高域減衰カーブを調整する。
−0.5dB/octから−3.0dB/octまで、0.5 dBステップの6段階で調整することができます。
[OFF]を選択するとXカーブはフラットになり聴感上の高域は補正されません。

5 戻るボタンを押す。
[Xカーブ]を終了します。

各部の名称 接続 基本設定 再生 応用操作 リモコン 応用設定 技術資料 困ったとき 付録

THX オーディオ設定を行う

ここでは以下のTHXオーディオに関する設定を行います。

Loudness Plus：

ONにすることで、音量を下げた状態でもサラウンド感を損なうことなく再生します。詳しくは「THX」(→144ページ)をご覧ください。

SB SPポジション

THX Ultra2規格で新規に開発されたASA（Advanced Speaker Array)技術を用いた、THX Ultra2/Select2 CinemaとTHX Ultra2/Select2 Music Mode、THX Ultra2/Select2 Games Modeに最適な効果をもたらすための設定です。サラウンドバックスピーカー間の距離(0 m ～ 0.3 m、0.3 m ～ 1.2 m、1.2 m以上の3段階)に応じて処理を変化させます。スピーカー設定(→132ページ)でサラウンドバックスピーカーを[NO]または[×1]で設定したときは、この項目は選択できません。また、Surr Back Systemの設定(→132ページ)を「ノーマル」以外に選択したときも、この項目は選択できません。

BGC（Boundary Gain Compensation)：

THX Ultra2/Select2準拠のサブウーファーなど、超低域再生能力のあるサブウーファーを家庭で使用すると建物の共鳴や定在波の発生などにより、極端に低音が響く音質となってしまいます。このようなサブウーファーをお使いの方は、「BGC」を[ON]にすると、低域成分が補正されます。詳しくは「THX」（→144ページ)をご覧ください。スピーカー設定(→132ページ)でサブウーファーを「無し」で設定したときは、この項目は選択できません。

1 [4. システム設定]を選んで決定する。

2 [a. マニュアルスピーカー設定]を選んで決定する。

3 [6. THXオーディオ設定]を選んで決定する。

サラウンドバックスピーカー間の距離の設定になります。

4 「Loudness Plus」の[ON]または[OFF]を選択する。

5 サラウンドバックスピーカー間の距離を選ぶ。

[0−0.3m]、[>0.3−1.2m]、[1.2m<]のいずれかを選びます。

6 THX Ultra2/Select2 SWで[YES]を選ぶ。

[NO]を選んだ場合、「BGC」を選択することはできません。

7 BGCを[ON]か[OFF]のどちらかに選択する。

8 戻るボタンを押す。

[THXオーディオ設定]を終了します。

THX Ultra2/Select2 準拠のサブウーファーとは

従来のTHX準拠サブウーファーの低域特性は、35 Hz以下を12 dB/octaveで減衰させています。これは小さい部屋では壁面の影響で空間利得が生じ、35 Hz以下の周波数が自然と持ち上がってしまうためです。双方の特性(サブウーファー特性と空間利得)により、20 Hzまでフラットな周波数特性となります。

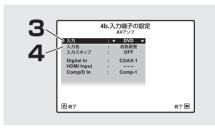
2001年に認可を開始したTHX Ultra2/Select2準拠のサブウーファーは20 Hzまで低域特性を伸ばしています。よって、リスナーとサブウーファーの位置によっては、低域周波数帯の聴感レベルが極端に大きくなる可能性があります。その場合はBoundary Gain CompensationをONにすることにより、壁面の影響によって生じた低域の空間利得を補正し、聴感レベルをフラットにします。

本機の入力の設定を変更する

本機の入力の名称表示を変更したり、入力選択時のスキップ設定を行うことで、入力を選択しやすくできます。

ディスプレイに表示される入力名を変更する

ディスプレイに表示される入力名を変更することができます。DVD入力を選択すると、工場出荷時の設定では「DVD」と表示されますが、この表示を自由に変更することができます。たとえば、接続した機器の名称(DVR-WD70)などに変更すれば、どの入力ファンクションにどんな機器が接続されているのかを簡単に確認することができます。

ホームメニューで使用するボタン

入力できるのは以下の文字で、最大10文字までです。

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789
!"#$%&'()*+,–./:;<=>?@[¥]^_{|}¯
(スペース)

1 [4. システム設定]を選んで決定する。

2 [b. 入力端子の設定]を選んで決定する。

3 名前を変更したいファンクションを選ぶ。

4 「入力名」で[名称変更]を選んで決定する。

工場出荷時に戻したいときは[初期値]を選んで決定します。

5 ⬅ ➡ボタンでカーソルを動かして、⬆⬇ボタンで入力する文字を選ぶ。

⬆⬇ボタンを押し続けると文字がスクロールします。

6 手順5を繰り返して入力ファンクション名を入力する。

7 決定ボタンを押して入力ファンクション名を決定する。

他にも名前を変更したい入力ファンクションがある場合は、手順3 ~ 6を繰り返します。

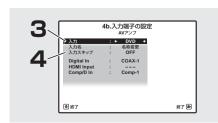
8 戻るボタンを押す。

[入力端子の設定]を終了します。

入力スキップを設定する

本体のINPUT SELECTORダイヤルやリモコンの入力切換ボタンを操作したときに、接続に使用していない入力をスキップすることができます。

- スキップ設定を行っても、リモコンのマルチコントロールボタンを押した場合は、その入力に切り換わります。

ホームメニューで使用するボタン

1 [4. システム設定]を選んで決定する。

2 [b. 入力端子の設定]を選んで決定する。

3 入力をスキップしたいファンクションを選ぶ。

4 「入力スキップ」で[ON]を選ぶ。

スキップさせない場合は、[OFF]を選びます。

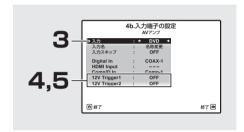
5 戻るボタンを押す。

[入力端子の設定]を終了します。

その他の設定をする ～その他の設定～

12 V トリガー端子の連動設定

設定した入力ファンクションが選ばれたときに、電源などの操作を連動させるための制御信号が12 Vトリガー端子から出力されます。本機には2つの12 Vトリガー端子があり、それぞれについて設定できます。

ホームメニューで使用するボタン

1 [4. システム設定]を選んで決定する。

2 [b. 入力端子の設定]を選んで決定する。

3 連動設定したい入力ファンクションを選ぶ。

4 12V Trigger1または2を選ぶ。

5 [MAIN]、[ZONE 2]、[ZONE 3]、[OFF]から選ぶ。

[MAIN]： メインゾーンで、手順3の入力ファンクションが選ばれたときに連動します。

[ZONE 2]： ZONE 2で、手順3の入力ファンクションが選ばれたときに連動します。

[ZONE 3]： ZONE 3で、手順3の入力ファンクションが選ばれたときに連動します。

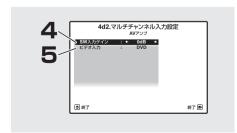
[OFF]： 連動しません。

6 戻るボタンを押す。

[入力端子の設定]を終了します。

マルチチャンネル入力を設定する

マルチチャンネル入力でのサブウーファーレベルを上げることができます。また、マルチチャンネル入力を選択しているときに、他の入力の映像を見ることができます。ここではどの映像入力をマルチチャンネル入力に割り当てるかを設定します。

ホームメニューで使用するボタン

1 [4. システム設定]を選んで決定する。

2 [d. その他の設定]を選んで決定する。

3 [2. マルチチャンネル入力設定]を選んで決定する。

マルチチャンネル入力の設定になります。

4 [SW入力ゲイン]を[＋10dB]にする。

サブウーファーの出力レベルが10 dB上がります。収録されているままのレベルで出力したいときは[0dB]にします。

5 [ビデオ入力]の映像入力を選択する。

マルチチャンネル入力のときに、ここで割り当てられた映像入力を見ることができます。ここで割り当てられる映像入力は、[DVD]、[TV/SAT]、[DVR]、[VIDEO 1]、[VIDEO 2]のいずれかです。

6 戻るボタンを押す。

[マルチチャンネル入力設定]を終了します。

電源オン時の音量を設定する

電源をオンにしたときの音量を常に一定にすることができます。

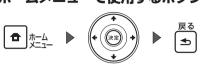
ホームメニューで使用するボタン

1 [4. システム設定]を選んで決定する。

2 [d. その他の設定]を選んで決定する。

3 [4. 電源オン時音量設定]を選んで決定する。
電源オン時音量の設定になります。

4

4 電源オン時の音量設定を選択する。
[前回音量]：電源オンすると、電源オフする前と同じ音量になります。
[---]：電源オンすると、電源オン時の音量は最小音量になります。
[-80.0dB] ～ [+12.0dB]：電源オンすると、電源オン時の音量はここで設定した音量になります。0.5 dBステップで設定できます。

「音量制限設定」(→下記)で設定した制限値より大きい音量に電源オン時音量を設定することはできません。

5 戻るボタンを押す。
[電源オン時音量設定]を終了します。

音量制限を設定する

本機から出力される音量の最大値を制限することができます。

ホームメニューで使用するボタン

1 [4. システム設定]を選んで決定する。

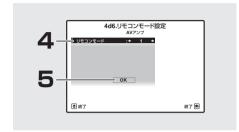
2 [d. その他の設定]を選んで決定する。

3 [5. 音量制限設定]を選んで決定する。
音量制限の設定になります。

4 音量制限の設定を選択する。
[OFF]：音量制限しません。
[-20.0dB]/[-10.0dB]/[0.0dB]：ここで設定した音量に最大音量が制限されます。

5 戻るボタンを押す。
[音量制限設定]を終了します。

リモコンモードを設定する

本機と同じアンプを複数使用する際にリモコンの誤動作を防ぐために、本機側のリモコンモードを設定します。

1 [4. システム設定]を選んで決定する。

2 [d. その他の設定]を選んで決定する。

3 [6. リモコンモード設定]を選んで決定する。
リモコンモードの設定になります。

4 リモコンモードの設定を選択する。
通常は1を選択しますが、他に本機と同型機のアンプを使用する場合は、設定を変更してください。

5 「OK」を選んで決定する。
設定が変更されます。

6 リモコン側のリモコンモードを設定する。
詳しくは、「リモコンで複数のパイオニア製アンプを操作する」（SC-LX82:→96ページ、SC-LX72:→105ページ)をご覧ください。

7 戻るボタンを押す。
[リモコンモード設定]を終了します。

GUI 画面の見え方を調整する（Flicker Reduction 設定）

GUI画面のちらつき具合を調整することができます。GUI画面が見えにくいと感じたときは設定を変更してみてください。

この設定はGUI画面にのみ影響するもので、映像出力には効果がありません。

1 [4. システム設定]を選んで決定する。

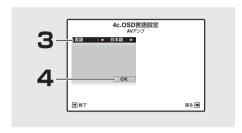
2 [d. その他の設定]を選んで決定する。

3 [7. Flicker Reduction設定]を選んで決定する。
GUI画面の見え方の調整になります。

4 Flicker Reductionを調整する。
4～OFFまでの間で調整します。4が最もちらつきを抑える設定、OFFはちらつきがありますがよりくっきり表示します。

5 戻るボタンを押す。
[Flicker Reduction設定]を終了します。

GUI画面の表示言語を変更する ～OSD言語設定～

GUI画面の表示言語を変更することができます。工場出荷時は日本語に設定されています。変更できる言語は[英語]と[日本語]のいずれかです。

1 [4. システム設定]を選んで決定する。

2 [c. OSD言語設定]を選んで決定する。

3 変更したい言語を選ぶ。

4 「OK」を選んで決定する。

GUI画面の表示言語が変更されます。
ホームメニューを終了するときは、ホームメニュー を押します。

デジタル音声フォーマットについて

DVDやブルーレイディスクソフトのパッケージには以下のような表示がされていることがあります。
1枚のディスクに複数の音声が収録されている場合が多く、どの音声を聴くのか選択することができます。
（音声の選択方法はお手持ちのプレーヤーやディスクによって異なります。）

1. 英　語（5.1ch サラウンド）
2. 日本語（ドルビーサラウンド）
3. 英　語（DTS 5.1ch サラウンド）

収録音声数　　録音方式　　音声記録方式

ドルビーデジタルはDVDの標準音声フォーマットであるため、単に「5.1chサラウンド」と記載されている場合は、「ドルビーデジタル（5.1ch）」であることを示します。

デコードとは
デジタル信号処理回路などにより、圧縮記録されたデジタル信号を、もとの信号に変換させる技術です。また、2ch の音源をマルチ ch 化させる演算技術をマトリックス・デコードと言い、5.1ch 信号を 6.1ch に伸長させる技術もデコードと呼ぶことがあります。

ドルビー

高音質

入力信号	サラウンドの名称	デコード方式	特徴
HDコンテンツ	＊Dolby TrueHD ＊Dolby Digital Plus	ディスクリート	高精細次世代音声技術。HDMIケーブルで伝送可能。特にDolby TrueHDは、ロスレス符号化技術により最高音質を実現。
5.1ch（サラウンドバックchフラグ付）	Dolby Digital Surround EX	ディスクリート＋マトリックス	サラウンドバックchを使用して、Dolby Digitalよりも臨場感を高めた方式
5.1chディスクリート	Dolby Digital	ディスクリート	DVD以降の代表的フォーマット
一般的な2ch ドルビーサラウンド	(Dolby Surround) Dolby ProLogic (IIx)	マトリックス	すべてのステレオ信号に対応する万能なサラウンド技術

＊これらの音声は8チャンネル以上のチャンネル数をサポートしていますが、現在ブルーレイディスクおよびHD DVDのそれぞれの規格では、最大音声チャンネル数が8チャンネルに制限されています。

詳細な情報はドルビーラボラトリーズのホームページをご覧ください。

http://www.dolby.co.jp/

プロロジック IIx 製品は、プロロジック IIx の持つさまざまな機能を、選択して搭載することが可能です。プロロジック IIx 搭載、とキャッチフレーズされた商品でも、必ずしもまったく同じ機能を持っているとは限らないことにご注意ください。

DTS

dts-HD™ Master Audio

高音質	入力信号	サラウンドの名称	デコード方式	特徴
↑	HDコンテンツ	· DTS-HD Master Audio · DTS-HD High Resolution Audio	ディスクリート	高精細次世代音声技術。HDMIケーブルで伝送可能。特にDTS-HD Master Audioは、ロスレス符号化技術により最高音質を実現。
	5.1ch (サラウンドバックchフラグ付)	· DTS-ES (Matrix/Discrete)	ディスクリート +マトリックス	サラウンドバックchを使用して、臨場感を高めた方式
	5.1 ch ディスクリート	· DTS (Surround) · DTS 96/24	ディスクリート	DVD以降の代表的フォーマット
	一般的な2 ch DTSサラウンド	· Neo:6	マトリックス	すべてのステレオ信号に対応する万能なサラウンド技術

詳細な情報はDTSのホームページをご覧ください。

http://www.dtstech.co.jp//

Windows Media Audio 9 Professional

Windows Media Audio 9 Professional (WMA9 Pro)は、マイクロソフト社が従来のWindows Media Audio (WMA)のテクノロジーをさらに進化させて開発したディスクリート・デジタルサラウンドフォーマットです。WMAは圧縮効率の高さを特徴とし、インターネット配信によるストリーミング再生やダウンロード再生などWindows PCでの音楽再生に用いられる圧縮音声の標準フォーマットとなっています。

そしてこのWindows Media 9シリーズでは、WMAの特徴を継承しながら、さらにマルチチャンネル対応に拡張しました。WMA9 Proコーデックは、96 kHz/24 bitの解像度によるクリアな音質・5.1ch/7.1ch完全ディスクリート処理による高い臨場感を確保しながら、低ビットレートでデジタルサラウンドサウンドを実現します。またその高い圧縮効率により、CD/DVDなどのデジタルメディアだけでなく、高速ブロードバンド通信によるストリーミング配信にも対応しています。

本機はWMA9 Proデコーダーを内蔵していますので、WMA9 Pro対応プレーヤー *と同軸または光ファイバーケーブルでデジタル接続することによって、WMA9 Proでエンコードされた音声をデコードして再生することができます。

* WMA9 Pro対応プレーヤーとしては、PC、DVDプレーヤー、セットトップボックス等が考えられます。ただし、それらの機器の同軸または光デジタル出力端子からWMA9 Pro音声を出力できる場合のみ、本機でデコードして再生することができます。

	WMA	WMA9 Pro
最大ディスクリートチャンネル数	2ch	5.1ch/7.1ch
最大量子化ビット数	16 bit	24 bit
最大サンプリング周波数	48 kHz	96 kHz
対応ビットレート	128 kbps～192 kbps	128 kbps～768 kbps
S/PDIF 伝送	非圧縮	圧縮

THX

THXは「映画館でもホームシアターでも映画のサウンドトラックは映画監督の意図どおり、忠実に再生して欲しい」というジョージ・ルーカス監督の熱意によって誕生し、音場最適化に関する数々の特許技術を開発しています。詳細な情報はTHXのホームページをご覧ください。
http://www.thx.com/

SC-LX82：

SC-LX72：

THX
SELECT 2™ PLUS

RECOMMENDED USE

Medium Sized Home Theater or Living Room

THX CERTIFICATION FEATURES

THX Loudness Plus:
- Multichannel Spectral Balancing
- Dynamic Ambience Preservation

THX Surround EX

THX Cinema, Music, Games Modes:
- Re-Equalization
- Timbre Matching
- Adaptive Decorrelation
- ASA Technology

Boundary Gain Compensation

ADDITIONAL THX TECHNOLOGIES

Neural-THX Surround

THX PERFORMANCE

Capable of THX Reference Level up to 9 feet (3 meters) viewing/listening distance

Visit www.thx.com for further technical details.

認証について

THX Ultra2/Select2

THXの認証を受けたホームシアター機器は、所定の特許技術、プリアンプ・パワーアンプの性能、デジタル・アナログの両分野にわたる何百もの性能要求、操作性に関する一連の厳しい試験に合格しています。

再生モードについて

THX Cinema

過去の2チャンネル収録されたソフトに適しています。ご家庭と映画館との空間的な違いによる音色の差を補正し、映画館の音場を正確に再現します。

THX Ultra2/Select2 Cinema

マルチチャンネル収録の映画ソースに適しています。信号成分を分析し、雰囲気や方向感が最善になるように音場をつくります。

THX Music (THX Ultra2/Select2 Music)

音楽専用にミキシングされたマルチチャンネルのソフトに適したモードで、音楽に適した後部の広がり感が得られます。

THX Games (THX Ultra2/Select2 Games)

すべてのゲームソフトの音楽再生に適しています。360°取り囲むような音響空間を創り出します。

THX Surround EX

「THX Surround EX - Dolby Digital Surround EX」はドルビーラボラトリーズとTHX社との共同開発によるものです。リスナー後方のサラウンドバックchを最初に実現させた技術です。（＊注）参照

*注
本機は「6.1再生検出信号」（DTS - ES と Dolby Digital Surround EX）を自動検出しますが、それらの技術を用いて上映された映画でも、DVD化の際にこの検出信号を収録していないものがあります。この場合は手動で最適なモードに変更してください。Surround EX技術により製作された映画のリストは各ウェブサイトでご覧になれます。

その他の特許技術について

THX Loudness Plus

この技術はTHX Ultra2 Plus™ とTHX Select2 Plus™の認証を受けた製品の特徴となる新しい音量調節技術で、どの音量レベルでも豊かで繊細なホームシアターサラウンド音場を創造します。
小音量再生では音質や空間表現が劣化することがありますが、各チャンネルの音量や周波数特性を最適化（補正）します。THXのリスニングモードを選択しているときは、それぞれのコンテンツタイプに応じて自動でこの技術が適用されます。

Re-Equalization

大型の映画館での上映用に製作された音声を小型のホームシアターでも正確な音色で再生させる技術です。

Timbre Matching

映画館とホームシアターのスピーカー配置の違いから起こる音色の差を補正し、音のつながりをスムーズにします。

Adaptive Decorrelation

映画館ではサラウンドスピーカーが多数なのに対し、ホームシアターは通常2本のため、この2本のスピーカーでもリスニングエリアを拡大して、映画館と同様の効果が得られるようにする技術です。

Advanced Speaker Array (ASA)

ASA処理は、サラウンドバックスピーカーを2本使用し、その2本を近接して設置した場合に最高能力を発揮します。この技術はTHX Ultra2/Select2 Cinema、THX Ultra2/Select2 MusicまたはTHX Ultra2/Select2 Gamesで使用します。

Boundary Gain Compensation

ホームシアターでは、壁面の影響で空間利得が生じ、低域の周波数帯が自然と持ち上がってしまう場合がありますが、この技術により、超低域再生能力のあるサブウーファーなどを使用していても、空間利得を補正し、聴感レベルをフラットにすることが可能です。

Neural-THX Surround

Neural-THX® Surroundはステレオ素材からマルチチャンネルサラウンドを創り出します。楽器、音声、背景音などの詳細部分をきめ細かく再生し、音像の定位感に優れ、豊かなサラウンドサウンドを創り出します。

MPEG-2 AAC

MPEG-2オーディオの標準方式の1つで、BSデジタルや地上デジタル放送で採用されている音声符号化規格です。高圧縮率ながら高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。

■米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5,297,236	5,481,614	5,490,170
5,848,391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

iPodについて

「Made for iPod」とは、iPod専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。
「Works with iPhone」とは、iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。
アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。

FLACライセンスについて

リスニングモードの詳細と出力チャンネル数の一覧

この表は、リスニングモードにAUTO SURROUND、ALC、DIRECT、PURE DIRECTを選んだ場合に、出力する最大の出力チャンネル数を示したもので、厳密なデコードch数とは異なります。詳しくは「デジタル音声フォーマットについて」(→142ページ)をご覧ください。

- MULTI CH IN入力時は、リスニングモードの効果を加えることはできません。
- 入力信号によっては、サラウンドバック信号を生成できないものがあります。

ステレオ(2ch)信号入力時

サラウンドバックスピーカー	入力信号		AUTO SURROUND / ALC	PURE DIRECT / DIRECT
	信号名称	インジケーター例		
あり	DOLBYサラウンド	**L** C **R** SL SR XL **XC** XR LFE	PLIIx Movie	PLIIx Movie
	DTSサラウンド		Neo:6 Cinema	Neo:6 Cinema
	そのほかのステレオソース	**L** C **R** SL SR XL XC XR LFE	ストレートデコード再生	ストレートデコード再生
	アナログ入力 *1			ANALOG DIRECT(ステレオ)
なし	DOLBYサラウンド	**L** C **R** SL SR XL **XC** XR LFE	PLII Movie	PLII Movie
	DTSサラウンド		Neo:6 Cinema	Neo:6 Cinema
	そのほかのステレオソース	**L** C **R** SL SR XL XC XR LFE	ストレートデコード再生	ストレートデコード再生
	アナログ入力 *1			ANALOG DIRECT(ステレオ)

*1：アナログ入力のときはインジケーターは点灯しません。

マルチチャンネル信号入力時

サラウンドバックスピーカー	入力信号		AUTO SURROUND / ALC / DIRECT	PURE DIRECT
	信号名称	インジケーター例		
あり	DOLBY DIGITAL EX (6.1ch再生検出信号付)	**L C R SL SR** XL **XC** XR **LFE**	DIGITAL EX PLIIx Movie *1	DIGITAL EX PLIIx Movie *1
	DTS ES (6.1ch信号/6.1ch再生検出信号付)		DTS ES Matrix DTS ES Discrete	DTS ES Matrix DTS ES Discrete
	DTS (5.1ch信号等)	**L C R SL SR** XL XC XR **LFE**	DTS+Neo:6	ストレートデコード再生
	DTS-HD	**L C R SL SR XL** XC **XR LFE** *2	ストレートデコード再生	
	上記以外の6.1/7.1chソース			
	上記以外の5.1chソース	**L C R SL SR** XL XC XR **LFE**	DIGITAL EX PLIIx Movie *1	
なし	DVD-Audio マルチチャンネルPCM	**L C R SL SR XL** XC **XR LFE** *2	ストレートデコード再生	ストレートデコード再生
	SACD (5.1ch信号)	**L C R SL SR** XL XC XR **LFE**		
	上記以外の5.1/6.1/7.1chソース	**L C R SL SR XL** XC **XR LFE** *2		

*1：サラウンドバックスピーカーを 1 本しか接続していないときは選択できません。
*2：5.1ch 信号のときは「XL」「XR」が消灯します。6.1ch 信号のときは「XL」「XR」が消灯して「XC」が点灯します。

入力ファンクションの対応フォーマット

各入力ファンクションで対応している音声フォーマットは以下の通りです。

<table>
<tr><th>入力ファンクション</th><th>対応音声フォーマット</th></tr>
<tr><td>SC-LX82：
OPT-1 ～ 4
COAX-1 ～ 3
SC-LX72：
OPT-1 ～ 4
COAX-1 ～ 2</td><td>Dolby Digital、DTS、MPEG-2 AAC、WMA9 Pro、PCM（サンプリング周波数:
32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz）</td></tr>
<tr><td>HDMI 1～4
BD</td><td>Dolby Digital、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS、DTS-EXPRESS、
DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、MPEG-2 AAC、
WMA9 Pro、2chから最大8chまでのリニアPCMデジタル信号（サンプリング周波数:
32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz）、
SACD（DSD信号）、ビデオCD、スーパービデオCD、DVDオーディオ(192 kHz含む)</td></tr>
<tr><td>iPod/USB（USBメモリー再生時）</td><td>
<table>
<tr><th>種別</th><th>拡張子</th><th>ストリーム</th><th colspan="2"></th></tr>
<tr><td rowspan="5">MP3</td><td rowspan="5">.mp3</td><td rowspan="5">・MPEG-1
オーディオレイヤー3</td><td>サンプリング周波数</td><td>8 kHz～48 kHz</td></tr>
<tr><td>量子化ビット数</td><td>16 bit</td></tr>
<tr><td>チャンネル数</td><td>2 ch</td></tr>
<tr><td>ビットレート</td><td>8 kbps～320 kbps</td></tr>
<tr><td>VBR/CBR</td><td>対応/対応</td></tr>
<tr><td rowspan="3">WAV</td><td rowspan="3">.wav</td><td rowspan="3">・LPCM</td><td>サンプリング周波数</td><td>32 kHz、44.1 kHz、48 kHz</td></tr>
<tr><td>量子化ビット数</td><td>8 bit、16 bit</td></tr>
<tr><td>チャンネル数</td><td>2 ch、モノラル</td></tr>
<tr><td rowspan="5">WMA</td><td rowspan="5">.wma</td><td rowspan="5">・WMA8/9</td><td>サンプリング周波数</td><td>8 kHz～48 kHz</td></tr>
<tr><td>量子化ビット数</td><td>16 bit</td></tr>
<tr><td>チャンネル数</td><td>2 ch</td></tr>
<tr><td>ビットレート</td><td>8 kbps～320 kbps</td></tr>
<tr><td>VBR/CBR</td><td>対応/対応</td></tr>
</table>

本機が対応している形式のファイルでも再生できないことがあります。
接続している機器の種類やソフトウェアのバージョンによって働かない機能があります。
MPEG Layer-3音声復号化技術は、Fraunhofer IIS および Thomson multimediaからライセンスされています。

</td></tr>
</table>

USBメモリー再生時の写真ファイルの対応フォーマットは以下の通りです。

種別	拡張子	形式	解像度
JPEG	.jpg .jpeg .jpe .jif .jfif	以下の条件に適合していること ・ベースラインJPEGフォーマット（Exif/DCFフォーマットで記録されたファイルを含む） ・Y:C:Crが4:4:4、4:2:2または4:2:0であること (4:4:4の場合の再生可能な最大解像度（Resolution）は5120×8192になります。)	縦: 30～8192ピクセル 横: 40～8192ピクセル

HDMIについて

HDMI(High-Definition Multimedia Interface)とは1本のケーブルで映像と音声を受信するデジタル伝送規格です。ディスプレイ接続技術のDVI(Digital Visual Interface)を家庭向けのオーディオ機器用にアレンジしたものであり、高い帯域幅のデジタル内容保護(HDCP)を実現した次世代テレビ向けのインターフェース規格です。

故障かな ? と思ったら

故障かな ? と思ったら以下を調べてみてください。意外なミスが故障と思われがちです。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の機器および同時に使用している電気機器も、あわせてお調べください。
以下の項目を調べても直らない場合は、修理をご依頼ください。

音について

「音が出ない」「音がおかしい」「ノイズが出る」など、音についての疑問や症状です。

症　状	原　因	対　応	参照
入力切換を合わせても、音が出ない	入力端子の接続が正しくない。	接続を再確認する。	
	デジタル入力の設定が正しくない。	設定を修正する。	**47**
	音声入力信号の選択が正しくない。	音声切換ボタンで正しい入力信号を選択する。	**49**
	消音(ミュート)状態(音量インジケーターが点滅)になっている。	リモコンで消音(ミュート)を解除する。	**48**
	ヘッドホンが接続されている。	ヘッドホンを抜く。	**49**
	スピーカー出力がOFFになっている。	SPEAKERSボタンを押して、ON(SP▶A)にする。	**89**
	音量が下がっている。	MASTER VOLUMEを調整する。	**48**
	オーディオ調整のHDMI音声出力の設定でTHROUGHを選択している。	HDMI音声出力の設定でAMPを選択する。	**66**
フロントスピーカー以外の音が出ない	スピーカーシステムの設定がフロントch以外すべてNOになっている。	スピーカーシステムの設定を修正する。	**132**
	リスニングモードがSTEREOまたはフロントサラウンド·アドバンスモードになっている。	サラウンド再生用のリスニングモードを選択する。	**55**
サラウンドバックスピーカーから音が出ない	SBch処理モードの設定がOFFになっている。	ONを選択する。	**59**
	SBch処理モードの設定がAUTOで「6.1ch再生検出信号」の記録されていないソースを使用している。	ONを選択する。	**59**
	Surr Back Systemの設定が[Front Bi-Amp]、[Speaker B]または[ZONE 2]になっている。	[ノーマル]を選択する。	**132**
	スピーカー設定でサラウンドまたはサラウンドバックchの設定が[NO](無し)になっている。	サラウンドバックchの設定を修正する。	**132**
	接続が正しくない(サラウンドバックchを1本のスピーカーで接続していてR ch側に接続している)。	接続を再確認する(サラウンドバックchを1本のスピーカーで接続しているときはL ch側に接続する)。	**24**
特定のスピーカーから音が出ない	スピーカー設定が[NO](無し)になっている。	スピーカーシステムの設定を修正する。	**132**
	スピーカーの接続が外れている。	スピーカーの接続を確認する。	**23**
	ソフトのサウンドトラックが意図的にそのように録音されている。	リスニングモードによっては効果音のみ出力される場合があります。	**55**
	スピーカーの出力レベル設定が小さい。	スピーカーの出力レベル設定を上げる。	**120, 134**
	Surr Back Systemの設定で[Speaker B]が選択されているときのスピーカーシステムの選択が合っていない。	スピーカーシステムで「A+B」または「B」にする。	**89**
表示部にマルチチャンネル信号のプログラムフォーマットインジケーターが点灯しているが、音が出ていないスピーカーがある	再生しているソースのプログラムフォーマットにはそのチャンネルの情報が記録されているが、そのチャンネルに音声が収録されていない。	故障ではありません。収録内容をご確認ください。	
デジタル機器の音が出ない	デジタル接続が正しくない。	デジタル接続を再確認する。	**28～35**
	デジタル入力の設定が正しくない。	デジタル入力の設定を修正する。	**47**
	音声入力信号の選択が正しくない。	接続されているデジタル機器に応じて、音声切換ボタンでDIGITALを選択する。	**49**
	デジタル出力レベル調整機能が付いているCDプレーヤーなどのデジタル出力レベル設定が低すぎる。	プレーヤーのデジタル出力設定を適切に修正する。(DTS CDの場合は0.0 dBに設定してください。)	
	再生ソフトのデジタルフォーマットに対応していないプレーヤーである(または出力しない設定になっている)。	対応フォーマットの音声トラックを選択する(または出力させる設定にする)。	**142**

症　状	原　因	対　応	参照
PCM 以外の信号の音が出ない	音声入力信号の選択が「PCM」になっている。	音声切換ボタンで正しい入力信号を選択する。	**49**
録音ができない	アナログ信号をデジタルで、デジタル信号をアナログで録音しようとしている。	アナログ信号はアナログ録音、デジタル信号はデジタル録音のみ可能です。	**93**
	コピープロテクト信号の入ったデジタル信号である。	コピープロテクト信号の入ったデジタル信号は録音することができません。	
	OUT端子の接続が正しくない。	正しく接続し直す。	**35**
無入力でもノイズが聞こえる	電源そのものにノイズが残っている。	パソコンなどのデジタル機器とタコ足配線になっていないか確認する。	
MULTI CH IN 端子に接続した機器で、DVD オーディオを再生したが 2ch にダウンミックスされているような音になっている	MULTI CH IN端子に接続したものではない信号を再生している。(デジタルPCM出力など)	入力切換ボタンで入力を切り換え、マルチチャンネル入力の再生をする。	**93**
	プレーヤーの出力設定が間違っている。	プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。	
スピーカーの設定をフロントのみ「LARGE」としていてマルチ ch の DVD オーディオを再生したが、マルチ ch 音声がダウンミックスされない	ダウンミックス禁止のソフトを再生している。	故障ではありません。	
DTS CD のサーチ中にノイズが出る	サーチ中にCDに含まれるデジタル情報を読み取ってしまう。	故障ではありません。サーチ中はアンプの音量を下げ、スピーカーから出る音を抑えてください。	
DTS の LD を再生するとノイズが出る	音声入力信号の切り換えでANALOGが選択されている。	機器を正しくデジタル接続し、音声切換ボタンでDIGITALを選択する。	**49**
最大音量が +12 dB まで上がらない。	音量制限が設定されている。	音量制限の設定をオフにする。	**139**

サブウーファーの接続／再生について

音についての問題の中でも、特に接続したサブウーファーについての疑問や症状です。

症　状	原　因	対　応	参照
サブウーファーから音が出ない	サブウーファーあり／なしの設定が [NO](無し)に設定されている。	「スピーカー設定」を確認して、サブウーファーの設定を [YES](有り)または [PLUS]にする。	**132**
	再生しているソース(シーン)や音楽に超低域成分(LFEチャンネル)が含まれていない。	故障ではありません。収録内容をご確認ください。	
	接続が外れている(または、間違っている)。	サブウーファーの接続を確認して、外れているまたは間違っているときは接続し直す。	**24**
	サブウーファー側の電源がOFFになっている。	サブウーファーの電源を確認する。	
	サブウーファー側の自動スタンバイ機能が働いている。	サブウーファーの機能を確認する(詳しくはサブウーファーの取扱説明書をご覧ください。)	
サブウーファーからの音が小さい	低域成分がない、または少ないソースやディスク(CDなど)を再生している。	再生しているソースの低域成分が少なく、サブウーファーの音量が不足している場合は、「スピーカー設定」でサブウーファーの設定を[PLUS]にする。	**132**
	サブウーファー出力レベルの設定値が小さい。	「スピーカー出力レベルの設定を確認して、適切なレベルに調整する。	**120, 134**
	クロスオーバー周波数の設定が低い。	「[X.OVER」の設定を確認して、適切なレベルに調整する。	**132**
	サブウーファー側のボリューム設定が小さい。	サブウーファーのボリュームレベルを上げる。	

映像について

「映像が出ない」「メニュー画面(GUI画面)が表示されない」など映像についての疑問や症状です。

症　状	原　因	対　応	参照
入力切換を合わせても、映像が出ない。または違う入力の映像が出る	TVモニター側の入力切り換え設定が正しくない。	TVモニターの取扱説明書をお読みになり、正しい入力に切り換えてください。	
	ソース機器とHDMI端子で接続しているが、TVモニターをHDMI端子で接続していない。	ソース機器とTVモニターはHDMI端子を使って本機と接続する。	28
	ソース機器とTVモニターを接続しているコードの種類が違っていて、ビデオ調整機能のビデオコンバーターの設定がOFFになっている。	ビデオコンバーターの設定をONにする。	69
	映像によっては著作権の関係で映像が出力されない場合があります。	解像度の設定を変更するか、ビデオコンバーターの設定をOFFにしてください。	69
	TVモニター側で非対応の映像信号を出力している	解像度の設定を変更するか、ビデオコンバーターの設定をOFFにする。	69
コンポーネント端子やD端子に接続したソース機器の映像が出ない	入力端子の設定の「Comp/D In」の設定が正しくない。	入力端子の設定を正しく行う。	47
	COMPONENT VIDEO IN 1とD4 VIDEO IN 1を同時に接続している。	COMPONENT VIDEO IN 1とD4 VIDEO IN 1はどちらか一方のみを接続する。	
	COMPONENT VIDEO IN 2とD4 VIDEO IN 2を同時に接続している。	COMPONENT VIDEO IN 2とD4 VIDEO IN 2はどちらか一方のみを接続する。	
録画ができない	録画機器とソース機器の接続端子が合っていない。	• 録画機器の接続端子とソース機器の接続端子を(コンポジットまたはSビデオで)合わせる。 • コピープロテクト信号の入った映像信号は録画することができません。	93
コンバート後の出力映像が出ない、または乱れる	コピープロテクト信号が極端に大きい、または画質劣化の激しいビデオテープを再生している。	コンバート回路またはモニターTVの仕様です。コンポジットまたはSビデオ端子の出力映像でお楽しみください。	27
コンポーネント端子やD端子から映像が出力されない	480iのみに対応したテレビ(モニター)をコンポーネントで接続し、同時にHDMIで別のテレビ(モニター)を接続した場合、コンポーネントで接続したモニターから映像が出ない場合があります。	• HDMI接続したテレビ(モニター)の電源を切る。 • ビデオ調整機能の解像度の設定をPUREにする。	69

電源について

「電源が切れる」「電源が切れない」など操作時にある疑問や症状です。

症　状	原　因	対　応	参照
電源が突然切れてPHASE CONTROLインジケーターが点滅する	スピーカーの実動作上の最低インピーダンスが非常に低いため、保護回路が働いた。または、低周波の過大な入力が持続した。	• ボリュームを下げて再生する。 • チャンネルごとの周波数特性の補正で低域(63 Hzまたは125 Hz)のレベルを下げる。 • DIGITAL SAFETY機能を1または2にすると、さらに数dB音量が上げられる場合があります。電源オフ(スタンバイモード)時に、本体のENTERボタンを押しながらSTANDBY/ONボタンを押し、⬆/⬇で「D.SAFETY ◄ OFF ►」を選び、⬅/➡で1、2、OFFを切り換えます。(1または2を選ぶと一部の機能が使用できなくなることがあります)	124
	スピーカーコードの芯線がスピーカー端子からはみ出して、リアパネルに接触しているか、+/−が接触し、保護回路が働いている。	スピーカーコードの芯線をもう一度しっかりねじり直し、アンプまたはスピーカー側のスピーカー端子からはみ出ないように接続する。	23
	本機のアンプ回路の故障です。	すみやかに使用を停止し、修理を依頼してください。この症状のあとに電源のON/OFFを繰り返すのはおやめください。	162
電源が切れない(ZONE 2 ON や ZONE 3 ON、ZONE 2&3 ON と表示される)	マルチゾーンがオンになっている。	フロントパネルのMULTI ZONE ON/OFFボタンを押して電源を切る。	91
操作ボタンを押しても動作しない	空気が乾燥して静電気などの影響を受けている。	電源プラグを一度コンセントから外して、再び差し込む。	

症　状	原　因	対　応	参照
AMP OVERHEAT と表示されて電源が切れ、電源ボタンのインジケーターが点滅する	本機内部の温度が許容値を超えた。	・通風がよくなるように設置を変える。 ・1分待ってから電源を入れてみる。	**4**
電源ボタンのインジケーターが点滅して電源が切れる	本機の電源部が故障している可能性があります。	1分後に電源を入れてみて、同じ症状が出た場合は、修理を依頼してください。（電源を再度入れたときに、別の症状になることがあります。）	
AMP ERR と表示されて電源が切れる。ADVANCED MCACC インジケーターが点滅して、電源が入らない	本機のアンプ回路の故障です。	すみやかに使用を停止し、電源コードを抜いて修理を依頼してください。この症状のあとに電源のON/OFFを繰り返すのはおやめください。	**162**
PQLS インジケーターが点滅して電源が切れる	本機のファンが故障している可能性があります。	1分後に電源を入れてみて、同じ症状が出た場合は、修理を依頼してください。（電源を再度入れたときに、別の症状になることがあります。）	
電源が突然切れて中央の青白いインジケーターが点滅する	本機の電源回路の故障です。	すみやかに使用を停止し、電源コードを抜いて修理を依頼してください。この症状のあとに電源のON/OFFを繰り返すのはおやめください。	**162**

操作について

操作時にある疑問や症状です。

症　状	原　因	対　応	参照
12 V TRG ERR と点滅表示される	12 Vトリガー端子に不具合が生じている。	電源を切って接続を確認してから、もう一度電源を入れてみてください。	**39**
音声切換ボタンを押しても入力が DIGITAL にならない	接続またはデジタル入力の設定が正しくない。	機器の接続を再確認し、「デジタル入力の設定」を正しく修正する。	**47**
	MULTI CH IN入力になっている。	MULTI CH IN入力以外に切り換える。	**93**
5.1ch ソースを再生しているのに、5.1ch 再生されない	DVDプレーヤーのデジタル出力設定がOFFになっている。	DVDプレーヤーのデジタル出力設定をONにする。	
	DVDプレーヤーのドルビーデジタルまたはDTS出力設定がOFFになっている。	DVDプレーヤーのドルビーデジタルまたはDTS出力設定をONにする。	
リモコン操作ができない	リモコンの電池が消耗している。	電池を交換する。	**5**
	距離が離れすぎている。角度が悪い。	7 m以内、左右30°以内で操作する。	**14**
	途中に信号を遮る障害物がある。	障害物を取り除くか、操作する場所を移動する。	
	蛍光灯などの強い光がリモコン信号受光部に当たっている。	リモコン信号受光部に光が直接当たらないようにする。	
	リモコンと本機のリモコンモードの設定が異なっている。	リモコンと本機のリモコンコードの設定を一致させてください。	SC-LX82：**96, 140** SC-LX72：**105, 140**
他機器をリモコンで操作できない	プリセットコードの設定が間違っている。	正しいプリセットコードを設定する。	SC-LX82：**97** SC-LX72：**106**
	電池切れの期間にメモリーが消去された。	もう一度設定を行う。	
IR 接続をしているのに相手機器がリモコンで動作しない	接続でコントロール端子のIN/OUTを間違えている。	正しく接続し直す。	**39**
	コントロールコード以外の接続をしていない。	アナログのオーディオコードまたはHDMIケーブルなどを接続する。	**39**
	他社製品の同用途端子と接続している。	他社製品の動作はサポートしていません。	
KURO LINK 機能によるアンプ連動操作ができない	KURO LINK機能がOFFになっている。本機の電源をテレビよりも先にONした。	・KURO LINK設定でONを選択する。 ・テレビの電源をONしてから本機の電源をONにする。	**86** **87**
	テレビ側のKURO LINK設定がOFFになっている。	テレビ側のKURO LINK設定をONにする。	
設定が消えてしまった	設定中に電源コードを抜いた。	設定中は電源コードを抜かないでください。（設定はメインゾーンとサブゾーンがすべてOFFになるときに記憶されます。電源コードを抜く前にすべてのゾーンをOFFにしてください。）	

症　状	原　因	対　応	参照
本体の INPUT SELECTOR ダイヤルやリモコンの入力切換ボタンで、切り換えられない入力がある。	入力スキップの設定がオンになっている。	入力スキップの設定をオフにする。	137
	HDMI 1〜3が他の入力に割り当てられている。	各HDMI入力端子の割り当てをやめる。	47
音量を決まった値（-20 dB/-10 dB/0 dB）より上げることができない。	音量制限が設定されている。	音量制限設定をオフにする。	139

インジケーター／表示について

操作中のインジケーター表示などの疑問や症状です。

症　状	原　因	対　応	参照
圧縮デジタル * のソフトを再生しても、対応するインジケーターが点灯しない	デジタル接続が正しくない。	接続を再確認する。	28〜35
	デジタル入力の設定が正しくない。	デジタル入力の設定を正しく行う。	47
	音声入力信号の選択が正しくない。	音声切換ボタンで正しい入力を選択する。	49
	プレーヤーが停止か一時停止になっている。	再生を開始する。	
	プレーヤーの音声出力設定が間違っている。	プレーヤーの音声出力設定を各フォーマットに対応するよう修正する。	
	再生しているトラックがPCMなどになっている。	プレーヤーの音声切り換え機能で圧縮デジタル*の音声を選択する。	
圧縮デジタル * のソフトを再生してもすべてのプログラムフォーマットインジケーターが点灯しない	収録フォーマットが5.1ch(または「6.1ch再生検出信号」対応)ではない。	故障ではありません。再生しているソフトのパッケージをご確認ください。	142
圧縮デジタル * のソフトを再生しても、DDDIGITAL または DTS などの表示にならない	デジタル信号が入力されていない。	音声切換ボタンでAUTOまたはDIGITALを選ぶ。	49
	ソフトの音声が2chフォーマットである。ドルビーサラウンドエンコードされたソフトである。	故障ではありません。再生しているソフトのパッケージをご確認ください。	142
Surround EX(または DTS ES)ソフト再生時に、SBch処理モードの設定をAUTOにしてもEX(または ES)デコードしない	「6.1ch再生検出信号」が記録されていない(劇場公開時とDVD収録時は、まれに違う場合があります)。	SBch処理モードの設定をONにする。	59
Surround EX(または DTS ES)ソフトを再生中、SL、SRのインジケーターは点灯するが、EX(またはES)デコードしない	「スピーカー設定」で、サラウンドバックチャンネルが[NO](無し)に設定されている。	サラウンドバックchの設定を、接続したスピーカーに合わせて変更する。	132
	リスニングモードが正しくない。	SBch処理モードの設定をONまたはAUTOに変更し、リスニングモードをサラウンドにして再生する。	55, 59
DVD オーディオを再生しているのにディスプレイには PCM と表示される	HDMI接続をしている入力で、DVDオーディオを再生するとPCMと表示されます。	故障ではありません。	

圧縮デジタル＊：ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC などの総称として使用します。

HDMI 接続／再生について

HDMIケーブルでつないだ機器の音を再生するときの疑問や症状です。
HDMIインジケーターが点滅し続けるときは以下の症状、原因、対応をご確認ください。

症　状	原　因	対　応	参照
映像と音声の両方が出ない	本機はHDCPに対応しています。ご使用の機器がHDCP対応かどうかをご確認ください。	HDCP非対応のときはコンポーネントビデオ、D4ビデオ、Sビデオ、コンポジットビデオコードのいずれかで接続してください。	29
	ソース機器の仕様によっては、AVアンプを通してのHDMI接続ができない場合があります。	ソース機器の仕様を確認し、非対応のときはソース機器と本機をコンポーネントビデオ、D4ビデオ、Sビデオ、コンポジットビデオコードのいずれかで接続してください。	29

症　状	原　因	対　応	参照
映像が出ない	ソース機器によっては、設定した解像度で映像が出力されない場合があります。	解像度の設定を変更してみてください。	
	映像信号はDeep Colorだが再生機器がDeep Colorに対応していない。	Deep Colorに対応した機器で再生する。	
	映像信号はDeep ColorだがHDMIケーブルがDeep Colorに対応していない。	High Speed HDMIケーブルを使ってください。	
	HDMI出力の設定が、接続しているHDMI OUT端子と合っていない。	HDMI出力の設定を、接続しているHDMI OUT端子に合わせる。	95
音声が出ない、またはとぎれる	オーディオ調整機能のHDMI音声出力の設定が「THROUGH」になっている。	「AMP」に設定してください。	66
	DVI機器と接続しているときは、音声が出ません。	別途音声の接続を行ってください。	28〜31
	アナログ映像をHDMI出力しているときは音声接続が必要です。	別途音声の接続を行ってください。	28〜31
	ソース機器の設定が正しくない。	ソース機器を正しく設定してください。	
	オーディオ調整機能のHDMI音声出力の設定が「THROUGH」で、マルチチャンネル音声を入力している場合、すべてのチャンネルの音声はHDMI出力されません。	アナログまたはデジタル音声接続を行ってください。	28〜31
映像が乱れる	ビデオデッキなど映像信号に乱れがあるとき（早送りなど）は映像の品位によって映像が歪んだり乱れたり映らなくなることがあります。また、モニター側の性能によっては同様の症状が出ることもあります。	ビデオ調整機能のビデオコンバーターの設定をOFFにして入力と同じビデオフォーマット（コンポーネントビデオ、D4ビデオ、Sビデオ、コンポジットビデオコードのいずれか）で接続、再生してください。	69
HDCP ERROR と表示される	HDCPに対応していない機器が接続されている。	コンポーネントビデオ、Sビデオ、コンポジットビデオコードのいずれかで接続してください。HDCPに対応した機器でも表示されることがありますが、映像がとぎれなく出力されているときは不具合ではありません。	
入力端子の設定で HDMI Input の入力切り換え設定ができない	KURO LINK機能がONになっている。	KURO LINK機能をOFFにしてください。	86

USB メモリーの再生について

ご使用のUSBメモリーもあわせてお調べください。

症　状	原　因	対　応	参照
USB メモリーのフォルダーや音楽ファイル、写真ファイルが表示されない	フォルダーや音楽ファイル、写真ファイルがFAT領域以外に保存されている。	フォルダーや音楽ファイル、写真ファイルをFAT領域に保存してください。	52
	フォルダー内の階層が8階層をこえている。	フォルダー内の階層を8 階層以内にしてください。	52
	USBメモリーに30 000をこえるフォルダー/ファイルが保存されている。	USBメモリーには30 000以内のフォルダー/ファイルになるよう保存してください。	52
	USBメモリーに記録された音楽ファイルに著作権保護（DRM）がかけられている。	著作権保護（DRM）がかけられている音楽ファイルは再生できません。	52
USB メモリーを認識できない	USBメモリーがUSBマスストレージクラスに対応していない。	USBマスストレージクラスに対応したUSBメモリーをお使いください（USBマスストレージクラスに対応したUSBメモリーであっても、本機で再生できないものもあります）。	41
	USBメモリーのフォーマットが、NTFSまたはHFSである。	USBメモリーのフォーマットがFAT12、FAT16またはFAT32であるかどうか確認してください。NTFS、HFSは本機で再生することができません。	41
	USBメモリーがしっかりと接続されていない。	USBメモリーの接続を確認してから、本機の電源をオンしてください。	41
	USBハブを使用している。	本機はUSBハブには対応しておりません。	41
	本機がUSBメモリーを不正と認識している。	一度本機の電源をオフにしたのち、再びオンにしてください。	
USB メモリーを接続していて画面には表示されるが再生できない	本機で正常に再生できるファイルフォーマットでない。	再生できるファイルフォーマットを確認してください。	

ホームメディアギャラリー入力について

ご使用のネットワーク上のオーディオ機器もあわせてお調べください。

症　状	原　因	対　応	参照
ネットワークに接続できない	LANケーブルが抜けている。	LANケーブルを正しく接続してください。	**74**
	ルーターの電源が入っていない。	ルーターの電源を入れてください。	
	接続している機器にインターネットセキュリティーソフトウェアなどがインストールされている。	インターネットセキュリティーソフトウェアなどがインストールされている機器には接続できないことがあります。	
	本機の電源がONの状態で、電源がOFFだったネットワーク上の機器の電源をONにした。	本機の電源をONにする前にネットワーク上の機器の電源をONにしておいてください。	
「Connecting...」と表示されたまま再生が始まらない	接続している機器の電源や接続が切れている。	接続している機器の電源や接続を確認する。	**74**
パソコンおよびインターネットラジオが正しく動作しない	IPアドレスが正しく設定されていない。	ルーターのDHCPサーバー機能をオンにするか、ネットワーク環境に合わせて、「Setup」を手動で設定してください。	**81**
	IPアドレスの自動設定中です。	自動設定には時間がかかります。しばらくお待ちください。	
パソコンなどのネットワーク上の機器の音楽ファイルが再生できない	パソコンにWindows Media Player 11がインストールされていない。	パソコンにWindows Media Player 11をインストールしてください。	**72**
	音楽ファイルが、MP3 、WAV (LPCM のみ)、MPEG-4 AAC、FLAC、WMA 以外のフォーマットで記録されている。	MP3 、WAV (LPCM のみ)、MPEG-4 AAC、FLAC、WMA で記録された音楽ファイルを再生してください(それらファイルであっても本機で再生できないこともあります)。	
	Windows Media Player 11またはWindows Media ConnectでMPEG-4 AACやFLACファイルを再生しようとしている。	Windows Media Player 11またはWindows Media ConnectではMPEG-4 AACやFLACファイルを再生することはできません。他のサーバーを使用してください。	**サーバーの取扱説明書参照**
	ネットワークに接続している機器が動作していない。	• 待機状態やスリープモードになっていないか確認してください。 • 必要に応じて再起動してみてください。	
	ネットワークに接続している機器がファイルの共有を許可していない。	接続している機器の設定を変更してください。	
	ネットワークに接続している機器のフォルダーが削除または破損している。	接続している機器に保存されているフォルダーを確認してください。	
接続しているネットワーク上の機器にアクセスできない	接続している機器の設定が正しくない。	クライアントを自動で承認(許可)したときは、改めて入力する必要があります。接続の設定が「許可しない」になっていないか確認してください。	
	接続している機器に再生できるファイルがない。	接続している機器に保存されているファイルを確認してください。	
音声が自動で停止したり乱れたりする	本機で正常に再生できるファイルではない。	• 本機で再生できるファイルフォーマットか確認してください。 • フォルダーが壊れていないか確認してください。 • 本機で再生できる拡張子がついたファイルでも再生できないことや表示されないことがあります。	**73**
	LANケーブルが抜けている。	LANケーブルを正しく接続してください。	**74**
	同一ネットワーク上でインターネット通信が行われているなど、ネットワークの通信が混雑している。	ネットワーク上の機器と接続するときは100BASE-TXをご使用ください。	**74**
Windows Media Player 11 に接続できない	OS にWindows XP を使用しているパソコンで、ドメインにログオンしている。	ドメインではなく、ローカルマシンにログオンしてください。	

困ったとき

症　状	原　因	対　応	参照
インターネットラジオが再生できない	ネットワーク機器のファイアウォールが働いている。	ネットワーク機器のファイアウォールの設定を確認してください。	
	インターネットの接続が切断されている。	ネットワーク機器の設定が正しいことを確認し、必要に応じてネットワーク接続業者にお問い合わせください。	
	ラジオ局の放送が中止、中断されている。	放送局リストで選択できる放送局でも再生できないことがあります。	**77**
リモコンのボタンを押してもホームメディアギャラリーの再生操作ができない	リモコンがホームメディアギャラリーモードになっていない。	HOME MEDIA GALLERYボタンを押して、リモコンをホームメディアギャラリーモードにしてください（SC-LX82の場合は、リモコン操作切り換えスイッチを入力機器にしてから押します）。	

メッセージについて

ホームメディアギャラリーで以下のメッセージが表示されたときは、内容欄をご確認ください。

メッセージ	内容
Please Wait Connecting...	パソコンなどのネットワーク上の機器にアクセス中です。しばらくお待ちください。
Connection Down	選んだカテゴリーや放送局にアクセスできません。
File Format Error	何らかの原因で再生できません。
Track Not Found	選んだ曲がネットワーク上で見つかりません。
Server Error	選んだサーバーにアクセスできません。
Server Disconnected	サーバーとの接続が切断されました。
empty	選んだフォルダーに何もファイルが入っていません。
Preset Not Stored	インターネットラジオ局のステーション登録がされていません。
Out Of Range	ネットワークの設定で、設定できる値ではありません。
License Error	再生しようとしたコンテンツのライセンスが無効です。
Item Already Exists	Favoritesフォルダーに同じファイルを登録しています。
Favorites List Full	Favoritesフォルダーにこれ以上ファイルを登録できません。

MCACC（音場補正）について

MCACC（音場補正）に関する疑問や症状です。

症　状	原　因	対　応	参照
音場補正のオート設定を何度行ってもエラーになる	マイクとスピーカーとの間に障害物がある。	障害物を移動させる。	**44**
	スピーカーコードの接続が正しくない。	・スピーカーコードの接続を正しく行う。 ・サラウンドバックスピーカーを1本だけ接続するときは、L（Single）端子に接続してください。5.1chのスピーカーセットを接続するときは、FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/RおよびPRE OUTのSUBWOOFERに接続してください。	**24**
「逆相」と表示される。	スピーカー接続の極性（+/−）が間違っている可能性がある。	正しく接続されているか確認する。 （正しく接続されていても、スピーカーの種類や設置方法によっては「逆相」が表示されることがあります。その場合は、[次へ進む]を選んで決定ボタンを押してください。）	**158**
測定結果のサブウーファーの距離が実際の距離より長い	サブウーファー内部ローパスフィルターの遅延特性の影響で、再生音にディレイがかかっている。	MCACCでは、こういった遅延特性を考慮したうえで距離を特定して、正確なディレイ時間を設定するようにしています。	**129**
スピーカーの大、小設定が誤った設定になる	耳に聞こえにくい周波数の騒音がある。 マイクの位置によって微妙な音響特性の変化を検出している。	・エアコンなどモーターを使用した機器の電源を切ってみる。 ・「スピーカー設定」で正しい設定にする。	**132**

症　状	原　因	対　応	参照
音場補正したが、音がおかしい	スピーカー端子の位相が反転している(+/−が逆に接続されている)。	正しく接続する。	**23**
SC-LX82のみ：Precision Distanceの調整でゲージ（数値）が上がらない	スピーカーの+と−が間違って接続されている。	正しく接続し直す。	
	スピーカーまでの距離が正しく設定されていない。	• あらかじめフルオートMCACCを行ってください。 • フルオートMCACCを行った時と同じ位置にマイクを正確に配置してください。マイク位置が分からなくなった場合や何度やってもうまく行かない場合は、再度オートMCACCの距離補正をやり直し、そのままのマイク位置で初めからやり直してください。	
	基準のスピーカーを動かしている。	基準になっているスピーカーは動かさないでください。またフロントRから順番に調整してください。	
	スピーカーの動かし方が大きい。	スピーカーの位置を調整する時は大きく移動させず、マイクに対して1 cm程度前後に動かしてください。	
Acoustic Cal EQで自動測定された補正カーブを手動で調整中に「OVER!」がディスプレイに表示される	調整値の組み合わせによっては補正レベルが許容量を超える。	「OVER!」の表示が消えるまで、さまざまな帯域のレベルを下げる。	**124**

EQ補正後の残響特性表示に関する疑問

症　状	原　因	対　応	参照
パソコンまたはGUI画面上でのEQ補正後残響周波数特性表示のグラフがフラットにそろわない	グラフの傾斜は残響特性を示しています。部屋の残響特性そのものは、EQ補正だけでは直すことができないため、グラフの傾斜角度は補正前後でも同じになります。	• 補正により、各周波数ごとのグラフがEQの補正分だけ水平移動します。補正の効果は、指定した時間軸上にあるポイントでそろうことが確認できます。 • 残響特性(グラフの形状)そのものは、視聴環境を改善しないと変化しません。	**PC表示用アプリケーションソフト取扱説明書** **125**
	さまざまな原因によって、ALL CH ADJで補正を行っても周波数特性のグラフはフラットにならないことがあります。	MCACCでは、無理な補正をせず、音質的に最良となるよう自動的に補正を行います。	
マニュアルMCACCの「EQの調整」で調整した補正量が補正後表示のグラフに反映されない	残響周波数特性の表示では、各帯域を分析フィルタで分析したものを表示します。一方、EQ補正は専用のフィルタを使用して信号の補正を行っており、分析フィルタとEQ補正専用フィルタの形状の違いがグラフに反映されない原因です。	問題ありません(オートMCACCの場合は、このフィルタ形状による違いも考慮したうえで補正を行っています)。	
スピーカーシステムの設定で[SMALL]と設定されたスピーカーの低域が補正されていない	[SMALL]に設定されたスピーカーは、EQによる低域の補正は行いませんが、残響特性の表示はスピーカーから出る音の純粋な特性を示すため、低域補正をしていない状態での特性がそのまま表示されます。	MCACCはスピーカーの再生能力に応じて適切な補正を行っているため、[SMALL]に設定されたスピーカーの低域補正には問題ありません。	

上記149 〜 157ページの対応を試しても解決しないときや、画面表示が動かなくなったり、リモコンやフロントパネルのボタンがまったく操作できない場合は、以下の操作を行ってみてください。

- フロントパネルの⏻STANDBY/ONボタンを押して電源を切って、もう一度電源を入れる。
- もしも電源が切れない場合は、⏻STANDBY/ONボタンを10秒以上押し続けてください。電源が切れます。(この場合、本機の各種設定が消えることがあります。)

エラーメッセージについて

ホームメニューでのMCACC（音場補正）時に表示されるメッセージの意味

「マイクを接続してください。」：

フロントパネルのMCACC SETUP MIC端子に、付属のセットアップ用マイクを接続してください。

「暗騒音が大きすぎます。」：

周辺の騒音が大きすぎ、測定に誤差が生じる可能性があります。

- エアコンなどモーターを使用した機器や、超音波ねずみ駆除装置などの電源を、一時的にOFFにするか遠ざけるなどの処置を行ってみてください。

周囲が比較的静かな時間帯に、もう一度やり直してください。

「マイクをチェックしてください。」：

マイクからテスト信号が検出できなくなりました。

- セットアップ用マイクの接続や接続コードの断線をチェックしてください。
- スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
- 測定中はできるだけボリュームを変化させないでください。

「エラー」：

スピーカー Yes/No判定で、以下のような間違った接続を検出しました。

- フロントに表示されたとき：スピーカーがL/Rそろっていない。
- サラウンドに表示されたとき：スピーカーがL/Rそろっていない。またはサラウンドバックが検出されているのに、サラウンドが検出されない。
- サラウンドバックに表示されたとき：L ch側から検出されず、R ch側から検出しました（1本のみ接続するときは、L ch側を使用してください）。

「逆相」：

スピーカーの極性（+/−）が逆になっている可能性があります。正しく接続されているか確認してください。接続が間違っていた場合は、本機の電源を切ってから電源コードを抜き、接続をし直してください（→18ページ）。その後、フルオートMCACCなどをやり直してください。

以下の場合は、スピーカーが正しく接続されていても「逆相」が表示される場合があります。そのときは「**次へ進む**」を選んで、次の測定に進んでください。

- スピーカーがマイク（リスニングポジション）方向に向いていない場合、またはスピーカーとマイクとの間に障害物がある場合
- 壁による音の反射が大きい場合
- ダイポールスピーカーまたは反射型スピーカーなど、位相に影響を与えるスピーカーを使用している場合

「サブウーファーのレベルが大きすぎます。ボリュームを下げてください。」：

[YES]と設定したサブウーファーの出力信号が大きすぎます。サブウーファー本体のボリュームを適正値に下げてください。

「サブウーファーのレベルが小さすぎます。ボリュームを上げてください。」：

[YES]と設定したサブウーファーの出力信号が検出できません。サブウーファー本体の電源を確認し、ボリュームを適正値に上げてください。

保証とアフターサービス

保証書(別添)

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後8年間保有しています。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い求めの販売店へご相談・ご依頼ください。

修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に取扱説明書の「故障かな?と思ったら」の項目をご確認ください。それでも異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、販売店へご依頼ください。ご転居されたり、ご贈答品などで、お買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、「ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内」(→162ページ)をご覧になり、修理受付センターにご相談ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所:
- お名前:
- お電話番号:
- 製品名:AVマルチチャンネルアンプ
- 型番:SC-LX82/SC-LX72
- お買い上げ日:
- 故障または異常の内容(できるだけ詳しく):
- 訪問ご希望日:
- ご自宅までの道順と目標(建物や公園など):

■ 保証期間中は:

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ 保証期間が過ぎているときは:

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

本製品は家庭用オーディオ機器(オーディオ・ビデオ機器)です。下記の注意事項を守ってご使用ください。

1. 一般家庭用以外での使用(例:店舗などにおけるBGMを目的とした長時間使用、車両・船舶への搭載、屋外での使用など)はしないでください。
2. 音楽信号の再生を目的として設計されていますので、測定器の信号(連続波)などの増幅用には使用しないでください。
3. ハウリングで製品が故障する恐れがありますので、マイクロフォンを接続する場合はマイクロフォンをスピーカーに向けたり、音が歪むような大音量では使用しないでください。
4. スピーカーの許容入力を超えるような大音量で再生しないでください。

S26_Ja

愛情点検

長年ご使用のAV機器の点検を!

このような症状はありませんか	・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。 ・電源コードにさけめやひび割れがある。 ・電源が入ったり切れたりする。 ・本体から異常な音、熱、臭いがする。

ご使用中止	故障や事故防止のため、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

サービスステーションリスト

サービス拠点への電話は、修理受付センターでお受けします。（沖縄県の方は沖縄サービスステーション）
また、認定店は不在の場合もございますので、持ち込みをご希望のお客様は修理受付センターにご確認ください。

●北海道地区

受付　月〜金　9:30〜18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30〜12:00、13:00〜18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆北海道サービスセンター	FAX 011-611-5694	〒064-0822	札幌市中央区北2条西20-1-3　クワザワビル
旭川サービス認定店	FAX 0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町1条1丁目438-89
帯広サービス認定店	FAX 0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西5条南28丁目1-1
函館サービス認定店	FAX 0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町2-18-7

●東北地区

受付　月〜金　9:30〜18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30〜12:00、13:00〜18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆東北サービスセンター	FAX 022-375-4996	〒981-3121	仙台市泉区上谷刈6-10-26
山形サービス認定店	FAX 023-615-1627	〒990-0023	山形市松波1-8-17
郡山サービス認定店	FAX 024-991-7466	〒963-8861	郡山市鶴見坦1-9-25　クレールアヴェニュー伊藤第2ビル1F D号
盛岡サービス認定店	FAX 019-656-7648	〒020-0051	盛岡市下太田下川原153-1
青森サービス認定店	FAX 017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田2-16-10
八戸サービス認定店	FAX 0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野3-16-8
秋田サービス認定店	FAX 018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目345-1

●東京都内

受付　月〜土　9:30〜18:00（日・祝・弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
世田谷サービスステーション	FAX 03-3419-4234	〒155-0032	世田谷区代沢4-25-9
北東京サービスステーション	FAX 03-3944-7800	〒170-0002	豊島区巣鴨1-9-4　第三久保ビル1F
多摩サービスステーション	FAX 042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町4-18-1　エクセル立川1F

●関東・甲信越地区

受付　月〜金　9:30〜18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30〜12:00、13:00〜18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆東関東サービスセンター	FAX 043-207-2555	〒263-0014	千葉市稲毛区作草部町1369-1　椎の実ハイツ1F
松戸サービス認定店	FAX 047-340-5052	〒270-0021	松戸市小金原4-9-23
水戸サービス認定店	FAX 029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町307-4
つくばサービス認定店	FAX 0298-58-1369	〒305-0045	つくば市梅園2-2-6
☆北関東サービスセンター	FAX 048-651-8030	〒331-0812	さいたま市北区宮原町1-310-1
川越サービス認定店	FAX 049-233-6581	〒350-0804	川越市下広谷1128-11
宇都宮サービス認定店	FAX 028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町3373-21
群馬サービス認定店	FAX 0270-22-1859	〒372-0801	伊勢崎市宮子町1191-17　パサージュ808伊勢崎101号
新潟サービス認定店	FAX 025-374-5756	〒950-0982	新潟市中央区堀之内南1-20-11
佐渡サービス指定店　横山電機商会	FAX 0259-63-3400	〒952-1209	佐渡市金井町千種1158-1
☆南関東サービスセンター	FAX 045-943-3788	〒224-0037	横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1　ベルデユール茅ヶ崎
横浜サービス認定店	FAX 045-348-8661	〒240-0043	横浜市保土ヶ谷区坂本町250
神奈川西サービス認定店	FAX 046-231-1209	〒243-0422	海老名市中新田4-10-53　中山ビル1F
三宅島サービス指定店　勝見電機	FAX 04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービス認定店	FAX 0263-48-0575	〒390-0852	松本市大字島立180-5　パイオニア松本拠点1F
長野サービス認定店	FAX 026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所1-24
甲府サービス認定店	FAX 055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田4-9-14

●中部地区

受付　月〜金　9:30〜18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30〜12:00、13:00〜18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆中部サービスセンター	FAX 052-532-1148	〒451-0063	名古屋市西区押切2-8-18
岡崎サービス認定店	FAX 0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田36-1　大和ビレッジB-1
津サービス認定店	FAX 059-213-6712	〒514-0821	津市垂水522-5
岐阜サービス認定店	FAX 058-274-5256	〒500-8356	岐阜市六条江東1-1-3
静岡サービス認定店	FAX 054-236-4063	〒422-8034	静岡市駿河区高松1-17-17
沼津サービス認定店	FAX 055-967-8455	〒410-0876	沼津市北今沢12-7
浜松サービス認定店	FAX 053-422-1401	〒430-0912	浜松市中区茄子町355-1
金沢サービス認定店	FAX 076-240-0550	〒920-0362	金沢市古府3-60-1　K2ビル1F
富山サービス認定店	FAX 076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町1-7-1
福井サービス認定店	FAX 0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺3-5-9

●関西地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆関西サービスセンター	FAX	06-6310-9120	〒564-0052	吹田市広芝町5-8
大阪南サービス認定店	FAX	0722-75-2625	〒593-8322	堺市西区津久野町1-8-15　ローズマンション1F
神戸サービス認定店	FAX	078-265-0832	〒651-0093	神戸市中央区二宮町1丁目10-1　ローレル三宮ノースアベニュー1F
姫路サービス認定店	FAX	0792-51-2656	〒671-0224	姫路市別所町佐土1-126
和歌山サービス認定店	FAX	0734-46-3026	〒641-0014	和歌山市毛見1126-4
京都サービス認定店	FAX	075-352-2588	〒600-8322	京都市下京区西洞院通五条東南角小柳町513-2　五条久保田ビル1F
奈良サービス認定店	FAX	0742-36-8713	〒630-8132	奈良市大森西町21-26
福知山サービス認定店	FAX	0773-24-5375	〒620-0055	福知山市篠尾新町2-74　カマハチマンション

●中国・四国地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆中四国サービスセンター	FAX	082-248-9939	〒730-0041	広島市中区小町2-30　第二有楽ビル1F
岡山サービス認定店	FAX	086-244-8748	〒700-0975	岡山市北区今8-15-21
松江サービス認定店	FAX	0852-22-7779	〒690-0017	松江市西津田4-5-40　（有）テクピット内
福山サービス認定店	FAX	0849-31-2791	〒720-0815	福山市野上町3-12-9
鳥取サービス認定店	FAX	0857-28-8011	〒680-0934	鳥取市徳尾422-2
徳山サービス認定店	FAX	0834-33-5759	〒745-0006	周南市花畠町3-11　森広事務所1F
高松サービスステーション	FAX	087-861-4841	〒760-0078	高松市今里町1-16-1
徳島サービス認定店	FAX	088-669-6076	〒770-8023	徳島市勝占町中須92-1　大松ジョリカ地下1階103号
高知サービス認定店	FAX	088-802-3321	〒780-0051	高知市愛宕町3-12-13　晃栄ビル1F
松山サービス認定店	FAX	089-911-5608	〒791-8013	松山市山越5-12-8

●九州地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆九州サービスセンター	FAX	092-412-7460	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南2-12-3
北九州サービス認定店	FAX	093-941-8354	〒802-0044	北九州市小倉北区熊本1丁目9-4　植田ビル1F
博多サービス認定店	FAX	092-461-1643	〒812-0006	福岡市博多区上牟田2-6-7
西九州サービス認定店	FAX	0952-20-1991	〒840-0201	佐賀市大和町大字尼寺2688-1
長崎サービス認定店	FAX	095-849-4606	〒852-8145	長崎市昭和1丁目12-10　クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX	096-331-3323	〒862-0918	熊本市花立5丁目14-17
大分サービス認定店	FAX	097-551-2049	〒870-0921	大分市萩原3-23-15　日商ビル101
宮崎サービス認定店	FAX	0985-27-3136	〒880-0821	宮崎市浮城町98-1
鹿児島サービス認定店	FAX	099-201-3803	〒890-0046	鹿児島市西田3-8-24　サニーサイド21 1F

●沖縄県

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）

沖縄サービスステーション	TEL	098-879-1910	〒901-2113	浦添市大平2-2-6　ひろえハイツ102
	FAX	098-879-1352		

平成21年5月現在　　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

<各窓口へのお問い合わせの時のご注意>
「0120」で始まる フリーコールおよび フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからは、
ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

■家庭用オーディオ/ビジュアル商品　フリーコール 0120−944−222　一般電話　03−5496−2986

■ファックス　03−3490−5718

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/
※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

■電話　フリーコール 0120−5−81028（コ゛ーハ゜イオニア）　一般電話　03−5496−2023

■ファックス　フリーコール 0120−5−81029

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/repair.html
※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話　098−879−1910

■ファックス　098−879−1352

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～18:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話　フリーダイヤル 0120−5−81095　一般電話　0538−43−1161

■ファックス　フリーダイヤル 0120−5−81096

平成21年5月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.032

工場出荷時の設定一覧

設定項目	初期値	参照ページ
Surr Back System の設定	ノーマル	132
スピーカーの有り無し / 低域再生能力	すべて SMALL（小）	132
サブウーファー	YES（有り）	132
スピーカー出力レベル（M1 ～ M6）	0.0 dB（補正無し）	120, 134
スピーカーまでの距離（M1 ～ M6）	すべて 3.00 m	121, 135
クロスオーバー周波数	80 Hz	132
定在波制御	ON（ただし全フィルター 0.0 dB、補正無し）	123
視聴環境の周波数特性の補正（M1 ～ M6）	全帯域 0.0 dB（補正無し）	124
Xカーブ	OFF	135
入力の設定	リアパネル表記のとおり（Input Setup 参照）	47
入力ファンクション	DVD	48
入力信号の種類	AUTO（入力信号により変化します）	49
SBch 処理モード	ON	59
リスニングモード	AUTO SURROUND	55
MCACC MEMORY	M1:MEMORY1	62
Phase Control	ON	63
Full Band Phase Control	OFF	64
オーディオ調整機能の各項目	（オーディオ調整のページを参照）	65
ビデオ調整機能の各項目	（ビデオ調整のページを参照）	69
UP MIX	ON	60
DIGITAL SAFETY	OFF	151
スピーカーシステム A/B	SP(A) : ON	89
フロントパネル表示部の明るさ	一番明るい	94
KURO LINK 機能	ON	86
HDMI 出力設定	HDMI OUT ALL	95
12V トリガー端子の連動設定	すべて OFF	138

本機のすべての設定を工場出荷時に戻す

設定オールリセットは以下の手順で実行します。操作は本体フロントパネルで行います。
設定オールリセットを行うと、上記のすべての設定が工場出荷時の状態になりますので**十分ご注意ください。**

2 RESET ◀ NO ▶

3 RESET ◀RESET▶

4 RESET ? [OK]

- マルチゾーン機能がOFFでないと、オールリセットを行うことができません（→90ページ）。
- オールリセットの前に、iPodやUSBメモリーを本機から取り外してください。
- 電源コンセントからコンセントを長時間抜いた状態にしていても、本機で設定した各種設定が消去されることはありません。

1 電源をオフ（スタンバイ状態）にする。

2

ENTERボタンを押しながら⏻STANDBY/ONボタンを押す。
表示部に RESET ◀NO ▶ と表示されます。

3

⬅/➡ボタンを繰り返し押して、RESET ◀RESET▶を選ぶ。

4

ENTERボタンを押す。
RESET ? [OK]と表示されます。

5

もう一度ENTERボタンを押す。
OKと表示され、本機のすべての設定が工場出荷時の状態に戻ります。

仕様

オーディオ部

定格出力（マルチチャンネル動作時）
（1 kHz、1 %、8 Ω）
SC-LX82
全7 ch..110 W 合計770 W
SC-LX72
全7 ch..100 W 合計700 W

実用最大出力（JEITA、1 kHz、10 %、6 Ω）
フロント..220 W/CH
センター..220 W
サラウンド..220 W/CH
サラウンドバック....................................220 W/CH

定格出力（20 Hz ～ 20 kHz、0.09 %、8 Ω）
フロント.. 140 W + 140 W
センター..140 W
サラウンド...................................... 140 W + 140 W
サラウンドバック.......................... 140 W + 140 W

全高調波歪 ....0.05 %
（20 Hz ～ 20 kHz、130 W + 130 W、8 Ω）

保証インピーダンス................................. 6 Ω～ 16 Ω

SN 比（IHF、ショートサーキット、A ネットワーク）
LINE系 .... 103 dB

周波数特性 .... 5 Hz ～ 100 kHz、$^{+0}_{-3}$ dB
（PURE DIRECTモード時）

入力端子（感度/インピーダンス）
LINE系 ....335 mV/47 kΩ

出力端子（レベル/インピーダンス）
REC OUT系..................................335 mV/2.2 kΩ

ビデオ部

信号レベル
コンポジット ....1 Vp-p（75 Ω）
コンポーネント/D4 ....Y：1.0 Vp-p（75 Ω）
CB/PB, CR/PR：0.7 Vp-p（75 Ω）

対応最大解像度
コンポーネント/D4 .... 1080p（1125p）
（ビデオコンバーター OFF）

デジタル入出力部

HDMI 端子.. 19 ピン
HDMI 出力仕様.......................................5 V、100 mA
USB 端子.................USB2.0 Full Speed（A タイプ）
iPod 端子............................USB＋コンポジットビデオ

ネットワーク部

LAN 端子.........................10 BASE-T/100 BASE-TX

集中コントロール部

コントロール（SR）端子
.... ø3.5 ミニジャック（モノラル）
コントロール（IR）端子
.... ø3.5 ミニジャック（モノラル）
IR 信号................ High Active（High Level：2.0 V）
12 Vトリガー端子 .... ø3.5 ミニジャック（モノラル）
12 Vトリガー出力 .... 12 V、合計50 mA
RS-232C.............. 9ピン、クロスタイプ、メス－メス

電源部・その他

電源 ....AC 100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力 .... 330 W
待機時消費電力...................0.4 W (KURO LINK OFF)
0.6 W (KURO LINK ON)
外形寸法（幅×高さ×奥行）
.... 420 mm × 200 mm × 460 mm
質量 .... 18.5 kg

付属品

リモコン
（SC-LX82：AXD7541/SC-LX72：AXD7544）.... 1
単3形乾電池 2
セットアップ用マイク（5 m）（APM7009）................ 1
iPodケーブル（ADE7129）.. 1
電源コード（XDG3032）... 1
保証書 1
取扱説明書

●仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

本機では、画面表示に NEC のフォント「FontAvenue」を使用しています。
FontAvenue は NEC の登録商標です。

お手入れについて

通常は柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどい場合は水で 5 ～ 6 倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞ったあと、汚れを拭き取り、そのあと乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると、印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は、化学ぞうきん等に添付の注意事項をよくお読みください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞にはとくに気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

さくいん

本機を操作するときの主な用語や表示をまとめました。参照ページに進むと、それぞれに関連する情報があります。

五十音順

さくいん

アルファベット / 数字順

インターネットによるお客様登録のお願い

http://pioneer.jp/support/

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。左記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。なお、左記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

パイオニア株式会社

〒 153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

JIS C 61000-3-2適合品 D50-5-10-1_A_Ja

JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第3-2部:限度値－高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計･製造した製品です。

<ARA7264-A>